

平成 25 年度選定

文部科学省 地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業
「きょう育の和」

平成 28 年度成果報告書

きょう育の和センター
和歌山信愛女子短期大学

はじめに

今年も無事に、平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」—子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』—の成果を報告することができました。本事業も 4 年目となり、その成果が徐々にではありますが、目に見える形で姿を現しつつあります。和歌山地域を指向した教養科目群『紀の国わかやまと世界』では、全 7 科目の開講を実現し、ほぼ全ての学生が和歌山について学ぶことができるようになりました。また、本学独自の認定資格『子育て・子育てサポーター』養成講座では、133 名の学生が修了し、第一期サポーターとして本学を巣立っていきます。平成 27 年度にオープンした、子育て・子育て支援施設『ふれ愛ルーム木のおうち』の登録者数は 2,000 人を越え、平成 28 年度は 2,500 組を超える親子に利用して頂きました。さらに、この拠点を教育の場として活かすべく、学生の積極的参加を促し、子育て広場と合わせ延べ 1,500 名の学生が、親子とのふれ愛を通して、子育て・子育てについて学ぶ機会を得ています。今年度は、『和歌山を子育てしやすく、住みよい“和（なごみ）の街 和歌山”として活性化する』という本事業の目的達成への道筋が、かすかではありますが見えてきた、そんな一年であったように思います。

しかし、その一方で課題も見えてきた一年でありました。本事業は、平成 27 年度より『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）』に組み込まれ、これまで以上に、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革が求められています。そのなかで、本学の取り組みは、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会における平成 28 年度評価で、「一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。」との指摘を受け、いっそうの教育改革の推進が課題となっています。特に、教育・研究・社会貢献の地の拠点として、地域の声を教育に反映する仕組みの可視化と、具体的な将来設計図の提示が求められています。

今後は、この報告書に示された成果とその中身を十分に評価・点検し、提示された課題への答えを模索していきたいと考えています。そして、地の拠点大学としての責務を果たすべく、和歌山地域を支える人材育成のための教育モデルを提示していく所存です。

和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター長
芝田 史仁

目次

I. 事業概要と平成 28 年度取り組みの目的・必要性	1
II. 活動報告（教育）	5
1. 新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む 4 領域）の開設 — ①	6
2. 『子育て・子育てサポーター』養成講座の開設と『子育て・子育てサポーター養成講座 奨励制度』の運用 — ②	19
3. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラムの実施 — ③	29
4. 和歌山地域を志向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』の公開 — ④	46
III. 活動報告（研究等）	52
1. 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究 — ⑤	53
2. 『共育の輪』専用ポータルサイトの刷新と運用 — ⑥	83
3. 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究と『地域志向教育研究 奨励金制度』の運用 — ⑦	87
IV. 活動報告（社会貢献）	104
1. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施 — ⑧	105
2. 『女性の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』 の実施 — ⑨	137
3. 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施 — ⑩	141
4. ミニシンポジウム開催 — ⑪	145
V. 活動報告（全体）	146
1. SD/FD 合同研修会 — ⑫	147
2. 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催 — ⑬	148
3. 広報活動 — ⑭	165
4. 事業の進捗状況に関するアンケート調査の実施 — ⑮	178
5. 自己点検評価委員会による自己点検評価ならびに外部評価委員会による外部評価の実 施・報告書作成 — ⑯	185

I. 事業概要と平成 28 年度取り組みの目的・必要性

1. 事業の概要

平成 25 年度地（知）の拠点整備事業で採択された「子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』は、和歌山県における以下の 3 つの「きょう育」（子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する『教育』、地域が共に子育てに関わる社会を育む『共育』、教育から共育、そして郷育へ、この世代間の循環による地域活性化を目指す『郷育』）を実現し、和歌山を子育てしやすく、住みよい『和（なごみ）の街 和歌山』として活性化する試みである。この事業において、和歌山市と連携し、教育・研究・社会貢献を融合した拠点を作る一方、教養科目改革により、教育の地域志向化を促進する。さらに、和歌山県と連携し、子育てを支援できる人材育成を目指した独自の認定資格養成講座を開設するとともに、子育てを支援する機関・団体・子育て当事者を繋げるネットワークを構築するものである。

2. 平成 28 年度取り組みの目的・必要性

I. 教育

・第 1 に、地域を志向した新基礎教養科目群『紀の国わかやまと世界』を開設し、和歌山地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深め、地域課題への理解と郷土愛を涵養する。

・第 2 に、和歌山県と連携して、『子育て・子育てサポーター』養成講座を開設し、子育て・子育て支援を中心とした地域課題解決のために中心となって取り組めるリーダーシップと、問題解決力を、学生に育成する。養成講座修了者には、『子育て・子育てサポーター』認定証を授与する。また、社会人には、『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』を活用し、学び直しの機会を提供すると共に、潜在的保育士・幼稚園教諭・栄養士など、子育て支援の場で活躍する人材の掘り起こしを目指す。

・第 3 に、子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』と連携した実践的教育プログラムを実施し、子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力と、高い専門的知識や技能で子育て・子育てを支援できる実践力を学生に育成する。

・第 4 に、地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』を公開し、学生や教職員に広く利用を促すことで、本学の知の拠点化を推進する。また、和歌山大学図書館を視察し、地域に開かれた図書館運営に関する情報交換を行う。

- ① 新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む 4 領域）の開設
- ② 『子育て・子育てサポーター』養成講座の開設と『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』の運用

- ③ 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラムの実施
- ④ 和歌山地域を志向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』の公開

II. 研究等

・第 1 に、子育て・子育てネットワーク『共育の輪』参加団体・個人と連携し、資質向上のための学習会や、子育て支援活動を共同で企画・運営することで、個人・組織間の連携強化への効果を探る。また、『共育の輪』専用ポータルサイトを刷新し、スマートホンによる利用機能や、SNS 的機能を付加することで、サイトの双方向化を図る。さらに、アンケート調査を通じて、ネットワークの有効的活用方法を探求する。

・第 2 に、『地域志向教育研究奨励金制度』を活用し、本学教員による子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究活動の促進を図る。

- ⑤ 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究
- ⑥ 『共育の輪』専用ポータルサイトの刷新と運用
- ⑦ 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究と『地域志向教育研究奨励金制度』の運用

III. 社会貢献

・第 1 に、子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における支援事業『子育て広場』『ふれ愛ルーム 木のおうち』を運用する。さらに、利用者へのアンケート調査を実施することで、次年度からの事業改善に繋げる。

・第 2 に、本学科目等履修生制度・聴講生制度を利用した、『女性の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』を行うことで、社会人の学びの機会提供を促進する。

・第 3 に、『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』を実施することで、本学教員の専門性を活かした子育て支援の充実を図る。

・第 4 に、オープンキャンパスを利用したミニシンポジウムを開催することで、本事業の地域の人々への浸透を図る。

- ⑧ 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施
- ⑨ 『女性の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』の実施
- ⑩ 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施

IV. 全体

・第 1 に、全学的な研修会により、教職員の理解を深め、本事業に取り組む全学的体制を強化する。

・第 2 に、『きょう育の和センター』の運営を通して、大学のガバナンス強化を図り、教

育・研究・社会貢献機能の最大化に努める。さらに、和歌山県や和歌山市との『連携協議会』を通して地域の声を本事業に活かす。

- ⑫ SD／FD 合同研修会
- ⑬ 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催
- ⑭ 広報活動
- ⑮ 事業の進捗状況に関するアンケート調査の実施
- ⑯ 自己点検評価委員会による自己点検評価ならびに外部評価委員会による外部評価の実施・報告書作成

次頁より、上記 I～IV に属する各番号（①～⑯）について、各事業の計画、成果・達成およびアンケート調査などの結果を元に報告する。

Ⅱ．活動報告（教育）

1. 新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む4領域）の開設 — ①

a. 平成28年度計画

新基礎教養科目群（『紀の国わかやまと世界』を含む4領域）の開設においては、学生へのガイダンス、受講登録、授業の実施、授業評価、教員による自己評価を行う。さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。

b. 実施内容

全学生に配布する平成28年度版「学生生活のてびき」の履修要領において、各領域のねらいと配置授業科目を明示し、シラバスと併用して受講登録時の指導に活用した。

『紀の国わかやまと世界』は平成27年度よりスタートしたため、前年度は7科目の内、1年次学生を対象とした5科目（「紀の国の歴史と文化」「紀の国の文学」「紀の国の自然」「地域子育て・子育て支援論」「地域社会学」）のみの開講であったが、平成28年度は進級した2年次学生を対象に新たに2科目（「紀の国の食文化」「地域経済論」）が追加された。後期には新1年次学生を対象に前記5科目を開講し2年間で和歌山地域に関する学びを深めることが可能となった。

その他にも地域を志向した学びの含まれる科目を学科・専攻ごとに選定し、新たに53科目を地域志向科目として選定した。

c. 成果・自己評価

2年次学生はのべ67名（3科目）、1年次学生はのべ253名（5科目）が受講し、2年次学生は昨年度より通算のべ371名の受講となった。

後期授業終了時に実施したアンケート調査（平成29年1月／回答191）により、地域課題への理解と郷土愛の涵養という目標はある程度達成されたと考えられる。しかし、受講科目の偏りやアンケート設問「地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。」への肯定的回答が少ないなど、和歌山地域について知る事からもう一步踏み出すための仕掛けが必要かと思われる。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■2年次生受講登録者数（平成27～28年度通算）

科目名	教員	開講期	生活文化専攻	食物栄養専攻	保育科	合計
地域子育て子育て支援論	森下 順子	1年次前期			109	109
地域社会学	伊藤 宏	1年次後期	23	3	28	54
記の国の歴史と文化	小山 譽城	1年次後期	4	20	4	28
記の国の文学	梶川 哲司	1年次後期	26	25	45	96
記の国の自然	湯浅 永一	1年次後期	0	6	11	17
地域経済論	清田 智司	2年次前期	2	1	1	4
記の国の食文化	藤澤 祥子	2年次前期	3	13	12	28
地域子育て子育て支援論	森下 順子	2年次前期	16	19		35

■1年次生受講登録者数（平成28年度）

科目名	教員	開講期	生活文化専攻	食物栄養専攻	保育科	合計
地域社会学	伊藤 宏	1年次後期	9	16	9	34
記の国の歴史と文化	小山 譽城	1年次後期	17	14	17	48
記の国の文学	梶川 哲司	1年次後期	15	13	5	33
記の国の自然	湯浅 永一	1年次後期	14	14	24	52
地域子育て子育て支援論	森下 順子	1年次後期			86	86

■授業風景



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度版学生生活の手引き（P.7）



学生生活のてびき

α. 基礎教養科目群

教育目標

幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育成する。

短期大学設置基準

基礎教養科目群は、こころと身体、紀の国わかやまど世界、くらしと文化、科学と環境という4領域の「基礎教養科目」と、「外国語科目」「保健体育科目」から成り立っている。そして、各領域の「ねらい」のもとに授業科目が配置されている。

カトリック・ミッションスクールとして、一人ひとりを大切にする人間愛や健康で豊かな人間性を養うとともに、地域について深く理解し郷土愛をもって社会の発展のために積極的に関わっていきける人材の育成を目標とする。さらに、人々のくらしと多文化・異文化に関する知識や、自然科学と環境に関する知識や問題意識、多角的なものの見方などを身につけ幅広い視点から人間活動を理解する基礎的能力を培い、人格形成に必要な素養を磨く。

	「領域」	「ねらい」	配置授業科目
基礎教養科目4領域	こころと身体	カトリック・ミッションスクールとして、一人ひとりを大切にする人間愛と、心身ともに健康で豊かな人間性を養う	信愛教育Ⅰ・Ⅱ 知ることと信じること こころの科学 人間関係論
	紀の国わかやまど世界	「紀の国わかやま」に関する知識と、郷土愛をもって社会の発展のために積極的に関わっていきける人材を育てる	紀の国の歴史と文化 地域経済論、紀の国の文学 紀の国の食文化 紀の国の自然 地域子育て・子育て支援論 地域社会学
	くらしと文化	人間のくらしと多文化・異文化に関する知識を育てる	キリスト教と文化 音楽、日本国憲法 日本語演習、情報文化論 基礎演習 キャリアデザイン
	科学と環境	自然や環境に関する知識と情報処理力や論理的思考力を育てる	生活科学 自然と生物 情報処理論・演習
	外国語科目	グローバルな視野から人間活動を理解する基礎的能力や想像力、コミュニケーションスキルを育てる	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 資格英語 フランス語Ⅰ・Ⅱ
	保健体育科目	健康の維持・管理に関する資質を育てる	保健体育講義・実技

(注) 基礎教養科目の4領域にわたりバランスよく履修すること。各授業科目の開設単位等は、「開講授業科目一覧表」ーイ」に示されている。



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度版学生生活の手引き（P.8）

b. 専門教育科目群

教育目標

学科に係る専門の学芸を教授し、職業または実生活に必要な能力を育成する。

短期大学設置基準

本学に設置されている各学科・専攻の専門的な知識・技能の修得をめざすため、学科・専攻毎に特色のある専門教育科目が開設されている。さらに、各学科・専攻には、各種資格取得のための授業科目が開講されている。各学科・専攻において開講される授業科目と各種資格取得に必要な単位数は、『「開講授業科目一覧表」ーロ～ニ』に示されている。

c. 開講授業科目一覧表

イ 基礎教養科目群

領域	授業科目	種別	単位数		備 考
			必修	選択	
こころと身体	信 愛 教 育 Ⅰ	演	1		信愛教育Ⅰ・Ⅱを必修。領域「紀の国わかまど世界」の科目2単位を選択必修とし、合計5単位以上を修得すること。ただし、生活文化専攻は、「信愛教育Ⅰ・Ⅱ」、領域「紀の国わかまど世界」の科目2単位を含め合計10単位以上修得すること。
	信 愛 教 育 Ⅱ	演	1		
	知ることと信じること	講		2	
	こころの科学	演		2	
紀の国わかまど世界	人 間 関 係 論	演		2	
	紀の国の歴史と文化	演		2	
	地 域 経 済 論	演		2	
	紀の国の文学	演	2		
	紀の国の食文化	演		2	
	紀の国の自然	演		2	
くらしと文化	地域子育て・子育て支援論	演		2	
	地 域 社 会 学	演		2	
	キリスト教と文化	演		2	
	合 衆 国 史	演		2	
	日 本 語 概 論	演		2	
	日 本 語 演 習	演		2	
科学と環境	情 報 文 化 論	講		2	
	基 礎 演 習	演		2	
	キョリアデザイン	演		2	
	生 活 科 学	講		2	
外国語科目	自 然 と 生 物	演		2	
	情 報 処 理 論	演		2	
	情 報 処 理 演 習	演		2	
	英 語 Ⅰ	演	2		
	英 語 Ⅱ	演		2	
	英 語 Ⅲ (海 外 研 修)	演		1	
保健体育科目	資 格 英 語	演		1	
	フ ラ ン ス 語 Ⅰ	演		2	
	フ ラ ン ス 語 Ⅱ	演		2	
	保 健 体 育 講 義	講	1		
	保 健 体 育 実 技	実	1		



d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（1）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KJH+0-L-2	紀の国の歴史と文化	小山譽城	2	全科	後期	選択必修
授業の概要	紀の国の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例にあげ、中央の歴史や文化とどのように関連するのかを学習する。そのため、史料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史と文化について幅広く理解を深める。					
授業の目標	紀の国の歴史と文化を学ぶことによって、郷土に誇りを持ち、周囲の人々にその特徴を語るように学習する。さらに、他国の歴史と文化を尊重する姿勢と教養も身につくよう学習する。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	紀の国の歴史と文化について基本的な知識を理解できる。				
○	論理的思考力・問題解決力	歴史事象を論理的に考えるようになる。				
△	自己管理能力	学習意欲を高め、自ら学習する姿勢を継続する。				
△	社会的責任	社会の一員としての自覚を持って行動することができる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	「織田信長の紀州攻め」 宣教師ルイス・フロイスと信長について学習する。			
1	「縄文・弥生時代の紀の国」 県内の遺跡を中心に学習する。	9	「豊臣秀吉の紀州攻め」 宣教師ルイス・フロイスと秀吉について学習する。			
2	「古代の紀の国」 鳴滝倉庫群や紀伊国分寺を中心に学習する。	10	「城下町和歌山と宣教師ムニョス」 ムニョスが称賛した和歌山について学習する。			
3	「有間皇子の謀反と牟婁の湯（白浜温泉）」 紀の国と有間皇子の関係について学習する。	11	「徳川御三家紀州藩の成立」紀の国に徳川御三家が置かれた理由について学習する。			
4	「万葉時代の和歌の浦」 聖武天皇が称賛した和歌の浦について学習する。	12	「紀州藩の政治」 江戸時代の紀州藩の政治について学習する。			
5	「熊野三山と熊野古道」 世界遺産に登録された熊野について学習する。	13	「江戸時代の紀の国の文化」 江戸時代の紀の国の文化について学習する。			
6	「高野山と町石道」 世界遺産に登録された高野山について学習する	14	「近代の和歌山」 明治維新以後の和歌山の歴史について学習する。			
7	「源平の合戦と熊野水軍」 熊野水軍と武士助陽浅党について学習する。	15	「紀の国の歴史と文化のまとめ」 紀の国の歴史と文化を概観し、特徴を考察する。			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		60				60%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等			20			20%
受講態度・授業への参加度			10	10		20%
その他(自由記述)						
評 価 の 割 合 (%)		60%	30%	10%		100%
教 科 書	授業中に適宜資料を配布する。					
参 考 書	参考文献等は適宜紹介する。					
授 業 外 の 学 習 方 法	各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。					
免 許 ・ 資 格						
備 考						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（2）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KLJ-0-L-2	紀の国の文学	梶川哲司	2	全科	後期	選択必修
授業の概要	和歌山県に関連する文学作品を鑑賞し、その作品の舞台となった地域環境を理解する。授業ではさまざまな資料を使って説明する。					
授業の目標	和歌山県に関連する文学作品を理解し、鑑賞する力を身につけ、このことによって地域への親近性をつちかふ。					
学習成果の区分	学生の到達目標					
◎ 知識・理解	和歌山県の有する文学的風土を理解することができる。					
○ 論理的思考力・問題解決力	郷土の文学的風土を自然や歴史性に関連付けて理解することができる。					
△ 自己管理能力	学習意欲を持って積極的に授業に取り組むことができる。					
△ 社会的責任	地域の伝統行事、歴史的事実、自然環境に関心を持つことができる。					
回	授業のテーマ及び内容	8	江戸時代の紀州 近世の芸能や文学で表現された当時の和歌山を知る			
1	オリエンテーション 授業の進め方と全体の概要、評価について説明する	9	芸能舞台としての通成寺 安珍清姫の伝説と芸能・通成寺物について学ぶ			
2	夏目漱石が見た明治の和歌山 明治44年の漱石の和歌山講演を読む	10	中世の和歌山の歌人たち 明恵、西行、『新古今集』の和歌を鑑賞する			
3	夏目漱石『行人(こうじん)』 小説の一場面とそこに描かれた和歌山の様子を読み取る	11	和歌山に伝わる小町伝説 小野小町に関する文芸と『古今集』の和歌を鑑賞する			
4	浄瑠璃『三十三間堂棟由來(むなぎのゆらい)』 和歌山が舞台となった浄瑠璃を読む	12	中世期『鳥の物語〜鶴の話』 古代の天皇の和歌の浦行幸を題材にした小説を読む			
5	『紀三井寺参詣曼荼羅(さんはいまんぢら)』 絵巻から寺社の由緒と当時の参詣の様子を読み取る	13	『万葉集』と和歌山(1) 万葉集の主な歌人の作品を鑑賞する			
6	松尾芭蕉『笈の小文(おのゝこぶみ)』 県内にある芭蕉句碑の紹介と俳諧『冬の日』を鑑賞する	14	『万葉集』と和歌山(2) 県内の主な万葉故地の紹介とその万葉歌を鑑賞する			
7	紀の国は和歌か山ほど詩の街 加納諒平『柿樹園草(かきぞのえいそう)』を読む	15	和歌の庭園『六義園(りくぎえん)』 和歌山の名所を取り入れた江戸の大名庭園を鑑賞する			
成績評価方法(観点別)						
成績評価方法	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		50				50%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等			10	5	5	20%
受講態度・授業への参加度			20	5	5	30%
そ の 他 (自 由 記 述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない。そのつど資料を配布する。					
参 考 書	授業中に指示する。					
授 業 外 の 学 習 方 法	授業のキーワードを予告するので、ネット検索や図書館で調べて授業に臨むこと。 冬休みには課題レポートを課す。					
免 許 ・ 資 格						
備 考	授業中は静粛にすること。毎回授業の要約・感想の提出を課す。					

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（3）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KEE-0-L-2	紀の国の自然	湯浅永一	2	全科	後期	選択必修
授業の概要	最初に世界的な視野で自然を理解し、日本、和歌山、自分の生活している地域の自然を理解させる。テーマを決めて地域の調査研究を行い、発表する。					
授業の目標	和歌山の自然を正しく理解し、学生自らきめたテーマで地域の自然を調べ発表させることで、積極的に自然保護に取り組むことができ、和歌山の情報発信ができる能力を養う。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	和歌山の自然を科学的に理解できる。				
○	論理的思考力・問題解決力	テーマを決め、自ら調査し発表することができる。				
△	自己管理能力	積極的に授業に参加し、自然に興味をもつ。				
△	社会的責任	和歌山の良いところを積極的に発信できる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	和歌山の天然記念物について学ぶ。			
1	ガイダンス 和歌山を知る。	9	和歌山の温泉について学ぶ。			
2	和歌山県の山と川について学ぶ。	10	和歌山県版自然百選について学ぶ。			
3	和歌山県の気象と自然災害について学ぶ。	11	農産物の流通の見学と収穫体験			
4	世界のバイオーム・日本のバイオーム・和歌山のバイオームについて学ぶ。	12	テーマを決めて調査研究			
5	和歌山の農産物について学ぶ。	13	テーマを決めて調査研究			
6	日本と和歌山の絶滅種と絶滅危惧種について学ぶ	14	テーマを決めて調査研究			
7	日本の外来生物と和歌山の外来生物について学ぶ。	15	発表・まとめ			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		50				50%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等			20	5	5	30%
受講態度・授業への参加度			10	5	5	20%
その他(自由記述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない。適宜資料を配布する					
参 考 書						
授 業 外 の 学 習 方 法	授業中に指示する					
免 許 ・ 資 格						
備 考						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（4）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KCS-O-L-2	地域子育て・子育て支援論	森下順子	2	保育	後期	選択必修
授業の概要	本科目は、和歌山県を中心とした地域の子育て・子育て支援について理解し、専門的知識を身につけて地域貢献ができる人材育成を目指す。厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習と同等の内容を講義している授業である(和歌山県福祉保健部認定)。					
授業の目標	本学独自の認定資格「子育て・子育てサポーター」取得のための基礎的知識を身につける。和歌山を中心とした子育てや子育ての現状を学び、地域課題に向き合い、将来は地域のリーダーとして社会貢献できることを目標とする。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	和歌山を中心とした子育て・子育ての現状が理解できる。				
○	論理的思考力	地域の課題解決に向き合おうとする意欲が芽生える。				
△	自己管理能力	積極的に授業に取り組むことができる。				
△	社会的責任	社会からの期待を感じ取り将来に向けての自覚が芽生える。				
回	授業のテーマ及び内容	8	病院への受診について			
1	オリエンテーション・保育のこころ	9	看護要する子どもの家庭での工夫 安全と事故対応(応急処置)			
2	子育てをめぐる現状と課題について 子育て支援施設見学	10	安全と事故対応対策			
3	子どもの健やかな発達について 親子ふれあい体験	11	子どもの世話 講義と実践			
4	子どもの発達と発達障がい 親子ふれあい体験	12	子どもの栄養と食生活 講義と調査			
5	子どもの豊かな育ちのための保護者支援 親子ふれあい体験	13	子どもの栄養と食生活 講義と調査			
6	子どもの病気(感染する病気・急を要する病気)	14	子どもの遊び 実践			
7	子どもの看護のポイントと家庭での工夫	15	和歌山の子育てと未来			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		40				40%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10	30			40%
受講態度・授業への参加度				10	10	20%
その他(自由記述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	なし					
参 考 書	金山美和子他「みんなで作る子育て支援 上越市マミーズ・ネットの挑戦」子どもの未来社					
授 業 外 の 学 習 方 法	学内子育て支援施設を自主見学しておくこと。地域の子育て支援事業を把握する。					
免 許 ・ 資 格	子育て・子育てサポーター認定資格必修科目					
備 考						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（5）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KSO-0-L-2	地域社会学	伊藤 宏	2	全科	前期	選択必修
授業の概要	社会学は、個人と社会の関連を研究の対象とし、社会がどのように成り立つかを考察する学問である。この講義では、個人の誕生から関わる家族集団を出発点とし、様々な社会集団について学んでいく。その中で、特に地域社会に着目し、地域振興や防災、コミュニティのあり方などについて考察する。					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題に対する社会的アプローチを理解する。 ・社会における様々な集団の特徴や問題点を理解する。 ・身近な地域社会における関わり方や役割を理解する。 					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	地域社会への学問的アプローチができるようになる。				
○	論理的思考力・問題解決力	身近な地域の問題を社会的に捉え解決策を提案できる。				
△	社会的責任	地域社会における自分の役割を考えることができる。				
△	自己管理能力	遅刻や無断欠席をせず、課題などをきちんとこなすことができる。				
回	授業のテーマ及び内容	8	地域集団 都市化と地域社会			
1	はじめに(個人と社会)	9	地域社会の実態 産業構造の高度化の影響			
2	社会学とは何か その目的と、学ぶことの意義	10	地域社会の危機 地場産業の衰退と過疎			
3	社会集団とは何か 集団の分類	11	コミュニティとは何か その必要性の見直し			
4	基礎集団① 家族集団	12	地域振興とコミュニティ 和歌山県における町おこし			
5	基礎集団② 家族内コミュニケーション	13	災害とコミュニティ 東日本大震災後の防災対策			
6	基礎集団③ 友達・仲間集団	14	コミュニティ・ビジネス その可能性と問題点			
7	機能集団 組織とはどういうものか	15	まとめ・評価			
成績評価方法(観点別)						
成績評価方法	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
期 末 試 験		50	20	5		75%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等		10		5		15%
受講態度・授業への参加度					10	10%
評 価 の 割 合 (%)		60%	20%	10%	10%	100%
教 科 書	特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。					
参 考 書	必要に応じて適宜紹介する。					
授 業 外 の 学 習 方 法	毎回、授業終了時に与える課題にきちんと取り組むこと。					
免 許 ・ 資 格	秘書士 [◎] ・上級秘書士 [◎] ・上級秘書士 [◎] (メディカル秘書)・情報処理士 [◎] ・ 上級情報処理士 [◎] 選択科目					
備 考						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（6）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選			
KEP-0-L-2	地域経済論	濱田智司	2	全科	前期	選択必修			
授業の概要	街の興隆と衰退の歴史、街づくりに対する行政の施策、他地域の街づくり先進事例を学んだ後、新たなまちづくり手法として近年注目されているリノベーションまちづくりについて学ぶ。自らが街の一員として、今後できること、しなければいけないこと等を自ら考えてもらう。								
授業の目標	本講座では、私たちの地域経済活動に大きな関わりを持つ“街の動向”について、歴史的経緯や今後私たちが担うべき“まちづくり”のあり方に関し、“まちづくり”に対する自らの責任と積極的な社会参画の意識・意見を持つことで、社会・経済人として自立することを目標とする。								
学習成果の区分		学生の到達目標							
◎	知識・理解	まちづくりの現状や発展の歴史、街づくりの具体的手法等を理解する							
○	論理的思考力・問題解決力	明確な解決策が無いまちづくりにどうやって対応していくかを学ぶ							
△	自己管理能力	学ぶという意識を明確に持てるか							
△	社会的責任	地域経済への私たちの持つ責任を理解する							
回	授業のテーマ及び内容	8	9	10	11	12	13	14	15
1	【戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状】戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状を概観する。	【国のまちづくり施策②】コンパクトなまちづくりの必要性を学ぶ。	【先進事例研究①】和歌山県湯浅町のまちづくり事例を学ぶ。						
2	【和歌山経済の変遷①】維新後の和歌山市の状況を概観し、街の成立の歴史的経緯を学ぶ。			【先進事例研究②】長野県飯田市のまちづくり事例を学ぶ。					
3	【和歌山経済の変遷②】和歌山の経済的な特徴を概観し、高齢化率や県内生産性の低下等の現状を学ぶ。				【先進事例研究③】高松市丸亀町商店街のまちづくり事例を学ぶ。				
4	【県と市のまちづくり施策①】街づくり関連法制度など、街の衰退に対し県が行ってきた施策等を学ぶ。					【リノベーションまちづくり①】リノベーションまちづくりとは何かを学ぶ。			
5	【県と市のまちづくり施策②】和歌山市が取り組んできた中心市街地活性化法について学ぶ。						【リノベーションまちづくり②】リノベスクールでの提案概要を学ぶ。		
6	【県と市のまちづくり施策③】「2030 わかやま構想」の概要について学ぶ。							【リノベーションまちづくり③】リノベーションまちづくりで活躍されている人物の体験談を聴く。	
7	【国のまちづくり施策①】まちづくりに必要な5つの視点や役割、要素等を学ぶ。								【リノベーションまちづくり④】リノベーションまちづくりの長所・短所を検討する。
成績評価方法(観点別)									
学習成果		◎	○	△	△	評価の割合(%)			
期末試験		50	20			70%			
課題・小テスト等			10			10%			
受講態度・授業への参加度				10	10	20%			
その他(自由記述)									
評価の割合(%)		50%	30%	10%	10%	100%			
教科書		使用しない。適宜資料を配布する。							
参考書									
授業外の学習方法		興味のあるまちづくりの事例をネット等で調べておくこと。							
免許・資格									
備考		14回目に予定されている体験談のお話については、その方の都合で13回目、もしくは、15回目に変更される可能性があります。							

d. 資料・写真・アンケート結果等

■紀の国わかやまと世界シラバス（7）

科目コード	科目名	担当者	単位	科専攻	開講期	必・選
KEH-0-L-2	紀の国の食文化	藤澤祥子	2	全学	前期	選択必修
授業の概要	紀伊国・和歌山の食文化は、温暖な気候と縦長の地形により、豊かな沢山の文化が生まれ育っている。川・山・海の文化がそれに拍車をかけ宗教風土も加わり、持ちきれんばかりの素晴らしい「食文化」が存在していることを理解する。					
授業の目標	紀の国の食文化を学ぶことにより、地域で伝承に力を注ぐ人達の声もきき、恵まれた地産食材と生産地である郷土に愛着を感じ、感謝できるよう学習する。					
学習成果の区分		学生の到達目標				
◎	知識・理解	紀の国の食文化について地域的区分の中で歴史的背景も合わせて学習する。				
○	論理的思考力・問題解決力	紀の国の食文化の価値を希薄になりつつある伝承の問題点を学習する。				
△	自己管理能力	食文化として行事食や郷土料理そして日常食の価値を考える。				
△	社会的責任	食文化のこれからも考え伝承すべき事項と方法を学習する。				
回	授業のテーマ及び内容	8	熊野の食① 山間 伝承される味覚			
1	ガイダンス 具体的授業の進め方と目標について説明	9	熊野の食② 灘			
2	和歌山の食とその背景	10	熊野の食② 灘 伝承される味覚			
3	紀の川流域の食	11	太地の食(鮎)			
4	紀の川流域の食 伝承される味覚	12	田辺湾の魚と食			
5	和歌浦沿岸の食	13	宗教風土と食① 熊野			
6	和歌浦沿岸の食 伝承される味覚	14	宗教風土と食① 高野山			
7	熊野の食① 山間	15	まとめ・評価 15回目終了後に期末試験を実施			
成績評価方法(観点別)						
	学習成果	◎	○	△	△	評価の割合(%)
成績評価方法						
期 末 試 験		30	15			45%
課 題 ・ 小 テ ス ト 等			10	10		20%
受講態度・授業への参加度		20	5		10	35%
その他(自由記述)						
評 価 の 割 合 (%)		50%	30%	10%	10%	100%
教 科 書	使用しない、必要に応じて適宜資料を配布					
参 考 書	課題に応じて適宜紹介する。					
授 業 外 の 学 習 方 法	年間の行事及び行事食や郷土料理への体験姿勢を保つこと。					
免 許 ・ 資 格						
備 考						

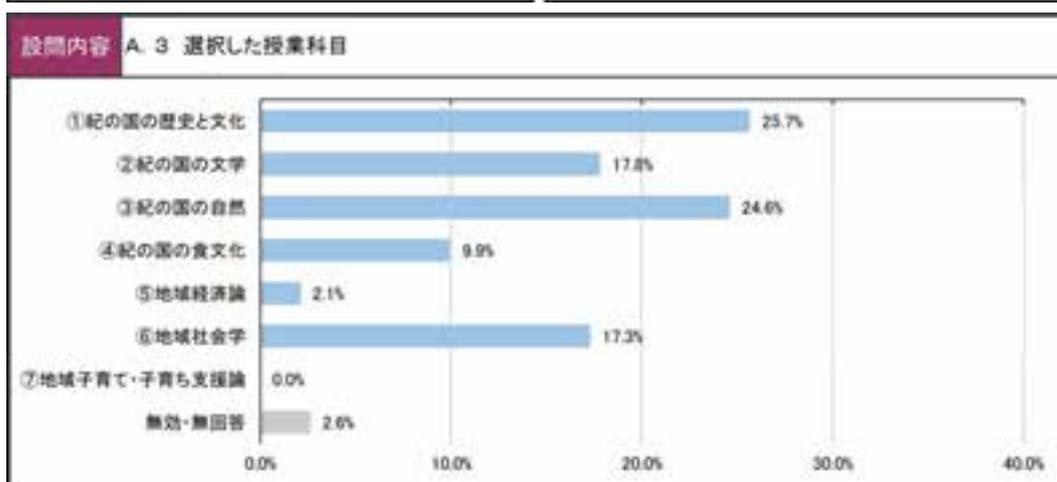
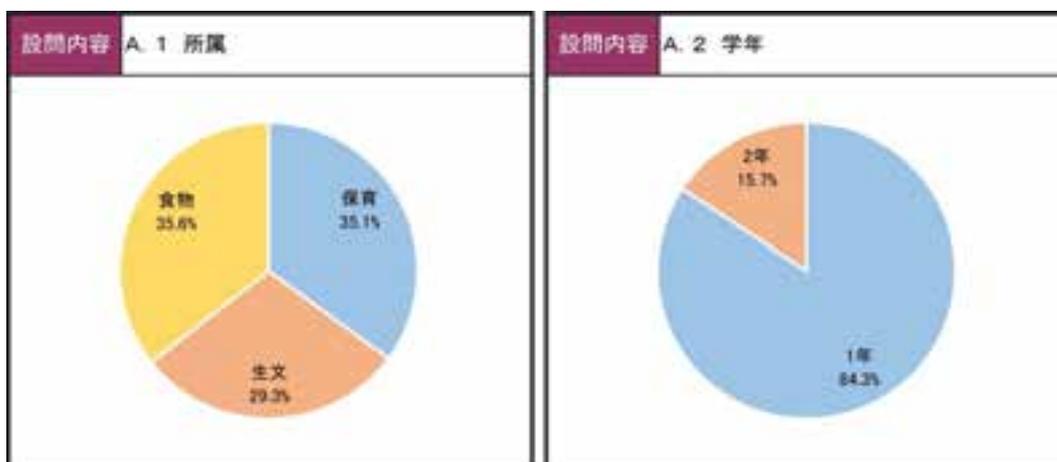
d. 資料・写真・アンケート結果等

■教養科目群「紀の国わかやまと世界」授業アンケート

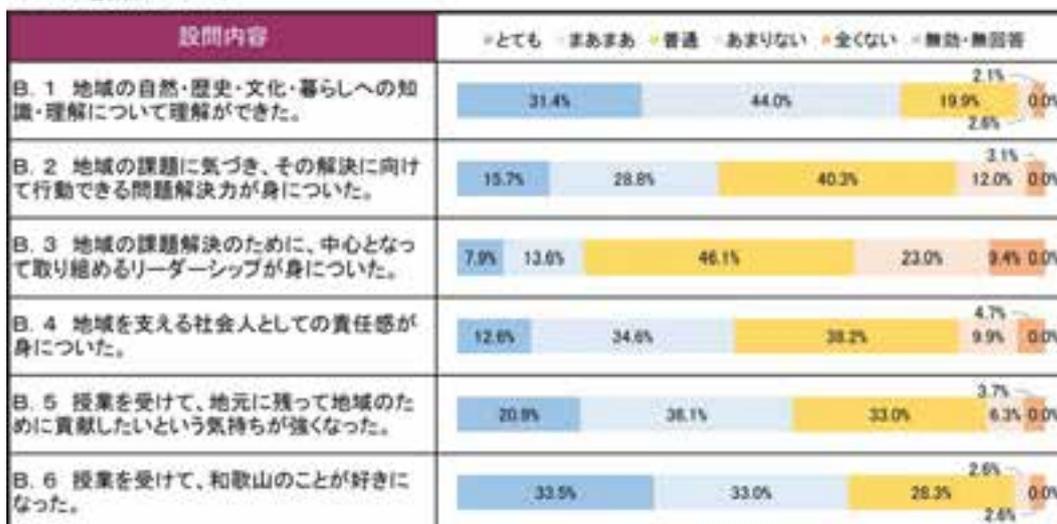
教養科目群「紀の国わかやまと世界」 授業アンケート		平成 28 年度				
A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。						
1. 所属 (保育 ・ 生文 ・ 食物)						
2. 学年 (1 年 ・ 2 年)						
3. 選択した授業科目						
①紀の国の歴史と文化 ②紀の国の文学 ③紀の国の自然 ④紀の国の食文化 ⑤地域経済論、⑥地域社会学 ⑦地域子育て・子育て支援論						
B. この授業に関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。						
1	地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解について理解ができた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
2	地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる問題解決力が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
3	地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
4	地域を支える社会人としての責任感が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
5	授業を受けて、地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
6	授業を受けて、和歌山のことが好きになった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
ご協力ありがとうございました。						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■教養科目群「紀の国わかやまと世界」授業アンケート集計結果（回答 191）



◆この授業について



2. 『子育て・子育てサポーター』養成講座の開設と『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』の運用 ― ②

a. 平成 28 年度計画

『子育て・子育てサポーター』養成講座の開設においては、学生へのガイダンス、受講登録、授業の実施、授業評価、教員による自己評価を行う。養成講座修了者には、『子育て・子育てサポーター』認定証を授与する。

さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。また、『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』の開始においては、社会人の受講希望者を対象に、受講料の減免処置を行う。

b. 実施内容

「地域子育て・子育て支援論」の各講義では、本学教員の他、子育て支援等に当たる行政関係者や子どもの救急救命について医療関係者を講師として招くなど、オムニバス形式を採用し、和歌山地域の子育て環境について幅広く学べる内容とした。

今年度は、講義で得た知識の実践的理解と子育て当事者の声を聞くことを目的に、学生への働きかけを前年度から強化した。特に、子育てに関わる諸問題を学生自らの問題として捉えられるよう、授業内で「ふれ愛ルーム 木のおうち」の見学を行うと共に自主見学を推奨した。

c. 成果・自己評価

前期は生活文化学科の 2 年次生 35 名、後期は保育科の 1 年次生 86 名を対象に開講した。受講学生へのアンケート（平成 29 年 1 月／回答 119）では「和歌山県内の子育て・子育て支援の現状と課題について理解ができた。」（90.7%）、「機会があれば、子育て・子育て支援に関わってみたいと思った。」（88.2%）などの回答を得た。これにより、子育て・子育て支援を中心とした地域課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップと、問題解決力を育成するという目的はほぼ達成できたと考える。また、「授業内容は、将来自分が子育てをする時に役立つと思った。」（97.5%）と、子育てを自らの問題として捉える回答も多かった。

平成 28 年度卒業予定者では、資格取得に必要な所定の単位を修了し、133 名（内訳：保育科 99 名、生活文化学科生活文化専攻 16 名、生活文化学科食物栄養専攻 18 名）が『子育て・子育てサポーター』として認定される予定である。

なお、平成 28 年度は『子育て・子育てサポーター養成講座奨励制度』を利用しての社会人受講者は無かったが、前期・後期それぞれ 1 回ずつ行った授業公開では現役の保育者および「ふれ愛ルーム 木のおうち」利用者の参加があった（詳細は社会貢献の活動報告ページにて）。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■受講学生の感想（保育科1年次生／ふれ愛ルーム 木のおうち見学時）

1歳3カ月の女の子がブロックを積んで遊んでいた。「こにちは」と笑顔で声をかけたが、お母さんの方に行ってしまい離れなくなりました。私は直接子どもに関わることをやめ、お母さんと子どもの話をしたり、何気ない世間話をしてコミュニケーションをとった。そうしていると、子どもが次第に近づいて来てくれて最後には遊んでくれた。子どもが信頼している母親と親しく話していることがきっかけになったのではないかと思います。このことから保育者として子どもに安心感をもってもらう為にも保護者との仲を良好にすることは大切だと感じた。

言葉を話せない年齢の子とコミュニケーションを取るとき、気持ちを理解することが難しかった。子どもの気持ちを汲み取れるように行動をよく見ておく必要があると思った。1歳前後の子はおもちゃを口に入れる姿がよく見られたので、誤飲や怪我がないように注意しなければいけないと分かった。

■授業風景



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度前期概要・講師一覧

	内 容	所要時間	概要	講師名	講義日	回 数
1	保育のこころ「子育て-子育てサポート-」について、子育て支援の意義と役割-子どもに寄り添う保育とは」	1.5時間(A)	子育て支援の意義と役割を解説し、実務担当者として求められる姿勢について解説する。	森下(佐賀短大保育科専任教員)	4月11日	1
2	①子育てをめぐる役割と担い手・課題について(和歌山県)(1時間) ②子どもの世帯(調査-実証-レポート)(1.5時間)	1.5時間(①:1時間+②:0.5時間F)	①子ども、子育て支援の現状(社会的状況、および子育て支援サービスの現状と課題)を解説する。②子どもの世帯に関する調査結果について解説する。	「和歌山県子育て支援課」森下	5月9日	5
3	心の発達とその課題(子どもの世帯かな発達-子どもの発達レポート)	1.5時間(B)	子どもの発達段階に応じた発達-保育の意義-保育環境-乳幼児期の発達について解説する。また、発達障害についても支援の観点から解説する。	森下	4月18日	2
4	心の発達とその課題(子どもの発達と発達障がい-子どもの発達レポート)	1.5時間(B)	子どもの発達に関する発達障がいについて解説する。障がいを持つ子どもの現状について解説する。また、発達障がいについて解説する。	本郷(養正生(発達、行動心理)専攻)門下生(発達障がい) 藤田(発達障がい) スラーム(発達障がい) 藤田(発達障がい) 大野(発達障がい)	4月25日	3
5	①心の発達とその課題(子ども世帯かな育ちのための親支援-保護者とのワークレポート)(1時間) ②身体の発達と病気(0.5時間)	1.5時間(①:1時間B+②:0.5時間C)	①親支援に関する子どもの発達や世帯かな育ちについて解説する。②子どもの一般的な発達段階と病気について解説する。	「森下」森下	5月2日	4
6	子どもの病気(感染症の病気-急を要する病気など)	1.5時間C	子どもが罹りやすい感染症の病気、急性の病気、子どもの病気について解説する。	藤田(発達障がい)	5月16日	6
7	小児看護の基礎知識①(子どもの看護のポイントと家庭での工夫)	1.5時間D	子どもの看護の現状と方向性、子どもの看護に関する基礎知識について解説する。	佐藤先生(同上)	5月23日	7
8	小児看護の基礎知識②(病児への対応)	1.5時間D	病児の看護の現状と方向性、病児の看護に関する基礎知識について解説する。	佐藤先生(同上)	5月30日	8
9	①小児看護の基礎知識③②安全と事故対応①(緊急の対応と応急処置)	1.5時間(①:1時間D+②:0.5時間E)	①緊急事態における子どもの看護や対応について解説する。②子どもの安全と事故対応について解説する。	「森下」森下(DVD)	6月6日	9
10	安全と事故対応②(安全-事故対策)	1.5時間E	子どもの安全と事故対応の現状と方向性、子どもの安全と事故対応に関する基礎知識について解説する。	日本赤十字社和歌山県支部(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課) 佐藤(看護課)	6月13日	10
11	子どもの世帯(調査-子どもの世帯実証レポート)	1.5時間F	子どもの世帯に関する調査結果について解説する。	森下	6月20日	11
12	子どもの発達と食生活①(調査-保護者にヒヤリングレポート-発表)	1.5時間H	子どもの発達と食生活に関する調査結果について解説する。	宇野(和歌山県立大学) 佐藤(和歌山県立大学)	6月27日	12
13	子どもの発達と食生活②(調査-保護者にヒヤリングレポート-発表)	1.5時間H	子どもの発達と食生活に関する調査結果について解説する。	宇野(和歌山県立大学) 佐藤(和歌山県立大学)	7月4日	13
14	子どもの遊び(絵本の読み聞かせ-おもちゃ遊び-演習)	1.5時間G	子どもの年齢に応じた遊びの内容について解説する。	保育士(和歌山県)	7月11日	14
15	事業を円滑に進めるために(和歌山と子育ての未来-保育サービス拡充に向けて)	1.5時間I	和歌山県の子育て支援の現状と方向性について解説する。	和歌山県子ども発達課 森下	7月25日	15
*	ファミサポさんによる研修-事業を円滑に進めるために(保育サービスを拡充するためのファミサポサービスの活用)	1.5時間	ファミサポサービスの活用に関する研修内容。	各市町村のファミサポセンター		

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度後期概要・講師一覧

西 題	回 数	備 考	講 師 名	講 義 日	日 数
1 保育のこころ(子育て・子育てサポートについて、子育て実務の意義と役割、子どもへの語り言葉とは)	1.5時間(A)	子育て支援の意義と役割、子育て実務についてから講話と実践の事例について実施する。	森下(佐賀県大隈南高等学校教員)	4月11日	1
2 子育てをめぐる関係と語り(語りについて(和歌山県)) ①子どもの世界(講義・実践・レポート)の1時間	1.5時間(B)の時間+②0.5時間(B)	子どもの子育て環境(和歌山県)の現状、和歌山県の子育て支援(一歩)の取組と実践を学ぶ。子どもの世界を学ぶ機会(1時間)を実施する。	下松山崎子育て支援課 藤之下 幸子	5月9日	5
3 心の発達とその問題(子どもの健やかな発達-子どもの観察-レポート)	1.5時間(B)	子どもの発達段階(1歳～3歳)の発達の特徴、発達障害、自閉症など発達障害について講話する。また、発達障害を通して発達支援の重要性を学ぶ。	森下	4月18日	2
4 心の発達とその問題(子どもの発達と発達障害(1)子どもの観察-レポート)	1.5時間(B)	子どもの発達(1歳～3歳)の発達の特徴、発達障害、自閉症など発達障害について講話する。また、発達障害を通して発達支援の重要性を学ぶ。	和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子	4月25日	3
5 ①心の発達とその問題(子どもから育むための親支援-保護者のつづきレポート)の1時間 ②子育ての意義と役割(1時間)	1.5時間(B)の時間+②0.5時間(B)	①親の役割(子育て)と子育ての意義について講話する。また、子育ての意義と役割について講話する。	【森下幸子】	5月2日	4
6 子どもの病気(抱える病気・治す薬する病気など)	1.5時間(B)	子どもの病気(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。また、子どもの病気(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。	和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子	5月16日	6
7 小児看護の基礎知識Ⅰ(子どもの看護のポイントと家庭での工夫)	1.5時間(B)	子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。また、子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。	笠原 美穂(同上)	5月23日	7
8 小児看護の基礎知識Ⅱ(病児への対応)	1.5時間(B)	子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。また、子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。	笠原 美穂(同上)	5月30日	8
9 ①小児看護の基礎知識Ⅲ-②安全と事故対応Ⅰ(緊急時の対応と対応処置)	1.5時間(B)の時間+②0.5時間(B)	①子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。また、子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。	【森下幸子】(DVD)	6月6日	9
10 安全と事故対応Ⅱ(安全-事故対策)	1.5時間(B)	子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。また、子どもの看護(抱える病気・治す薬する病気など)について講話する。	日本赤十字社和歌山看護学校 看護部 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子 和歌山県立大学 藤原 由美子	6月13日	10
11 子どもの世界(講義+子どもの世界実践-レポート)	1.5時間(B)	子どもの世界(講義+子どもの世界実践-レポート)について講話する。また、子どもの世界(講義+子どもの世界実践-レポート)について講話する。	森下	6月20日	11
12 子どもの発達と生活Ⅰ(講義+保護者に必要なレポート+実践)	1.5時間(B)	子どもの発達と生活Ⅰ(講義+保護者に必要なレポート+実践)について講話する。また、子どもの発達と生活Ⅰ(講義+保護者に必要なレポート+実践)について講話する。	笠原 美穂(佐賀県大隈南高等学校教員)	6月27日	12
13 子どもの発達と生活Ⅱ(講義+保護者に必要なレポート+実践)	1.5時間(B)	子どもの発達と生活Ⅱ(講義+保護者に必要なレポート+実践)について講話する。また、子どもの発達と生活Ⅱ(講義+保護者に必要なレポート+実践)について講話する。	笠原 美穂(佐賀県大隈南高等学校教員)	7月4日	13
14 子どもの遊び(絵本の読み聞かせ・おもちゃ・遊び・実践)	1.5時間(B)	子どもの遊び(絵本の読み聞かせ・おもちゃ・遊び・実践)について講話する。また、子どもの遊び(絵本の読み聞かせ・おもちゃ・遊び・実践)について講話する。	保育士(和歌山県)	7月11日	14
15 事業所関係に求められるために(和歌山と子育ての未来-保護サービス(バス)実践に向けて)	1.5時間(B)	和歌山と子育ての未来(保護サービス(バス)実践に向けて)について講話する。また、和歌山と子育ての未来(保護サービス(バス)実践に向けて)について講話する。	和歌山県子ども未来課・森下	7月25日	15
16 コミュニティによる評価 事業所関係に求められるために(保育サービス提供するための)ファミリーサポートの制度	1.5時間(B)	コミュニティによる評価 事業所関係に求められるために(保育サービス提供するための)ファミリーサポートの制度について講話する。また、コミュニティによる評価 事業所関係に求められるために(保育サービス提供するための)ファミリーサポートの制度について講話する。	和歌山県ファミリーサポートセンター		

d. 資料・写真・アンケート結果等

■カリキュラム対応表

対応	国の示す項目及び時間数	信愛
A	保育の心	2時間
B	心の発達とその問題	4時間
C	身体の発達と病気	2時間
D	小児看護の基礎知識	4時間
E	安全・事故	2時間
F	子どもの世話	2時間
G	子どもの遊び	1.5時間
H	子どもの栄養と食生活	3時間
I	事業の円滑に進めるために	3時間
信愛	子育てをめぐる現状と取り組み	1時間
	合計	24時間
認定	ファミリーサポートセンターによる研修(対応)	1.5時間
	ファミリーサポーターになるための研修合計時間数	24.0時間

■『子育て・子育てサポーター』認定書（見本）



子育て・子育てサポーター認定証

本認定資格を有する者は、「厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習」と同等の内容(和歌山県が認定)を下記の通り受講したことを証明する。

記

保育料 60 円/生 15500 〇〇 〇〇

国の示す項目及び時間数	本学での受講時間
保育の心	2時間 受講済
心の発達とその問題	4時間 受講済
身体の発達と病気	2時間 受講済
小児看護の基礎知識	4時間 受講済
安全・事故	2時間 受講済
子どもの世話	2時間 受講済
子どもの遊び	2時間 受講済
子どもの栄養と食生活	3時間 受講済
事業の円滑に進めるために	3時間 受講済

以上

d. 資料・写真・アンケート結果等

■地域子育て・子育て支援論 配布資料

「地域子育て・子育て支援論」	年 月 日資料
<p>1. 「子育て・子育てサポーター」とは？</p> <p>子育てに関する専門的な知識・技能を有し、育児に不安を抱えた保護者に対し、地域の身近なところで相談に応じ、適切な情報を提供できる、子育て・子育てをサポートできる子育て支援者を「子育て・子育てサポーター」という。</p>	
<p>2. 「子育て・子育てサポーター」になるためには？</p> <p>和歌山信愛女子短期大学が実施する養成課程を履修し、必要な能力を習得したと認められると、「子育て・子育てサポーター」の資格（1級・2級）が認定される。</p> <p>*子育て・子育てサポーター2級「地域子育て・子育て支援論」1科目2単位を取得</p> <p>*子育て・子育てサポーター1級「地域子育て・子育て支援論」1科目2単位+選択科目8単位以上取得</p>	
<p>3. 「子育て・子育てサポーター」になれる人は？</p> <p style="text-align: right;">本学学生と科目等履修生</p>	
<p>4. 認定はだれがするの？</p> <p>(1) 本学学長が「子育て・子育てサポーター」資格を認定する。</p> <p>(2) 和歌山県は、本養成講座と厚生労働省が参考として示すファミリー・サポートセンターの提供会員への講習と同等として認定する。</p>	
<p>5. 「子育て・子育てサポーター」になり何ができるの？</p> <p>(1) 和歌山県内におけるファミリー・サポートセンターの提供会員として活動することができる（ただし、各ファミリー・サポートセンターが提供する講習の内容や、本養成講座必修科目の受講状況に応じ、登録前に別途講習を必要とする場合がある）。</p> <p>(2) 子育て支援センタースタッフの協力者として参加する。</p> <p>(3) 未就園児の集い・つどいの広場・放課後児童事業等へのボランティアスタッフとして参加する。</p> <p>(4) その他、和歌山県や県内市町村が提供する子育て支援事業に参加する。</p> <p>(5) 本学の『ふれ愛ルーム木のおうち』『子育てひろば』のスタッフの協力者として参加する。</p> <p>(6) 自主活動している子育て支援グループへ協力する。</p> <p>(7) 子育て支援にかかわる情報提供を促進する。</p>	
<p>6. その他</p> <p>(守秘義務) サポーターは、子育てサポーターの活動により知り得た保護者等の情報を他に漏らしてはならない。子育てサポーターの登録を抹消された後も同様とする。</p> <p>(登録の抹消) 本規定の趣旨・目的に反する行為があったと、本学および和歌山県が判断するときは、登録を抹消するものとする。</p>	

d. 資料・写真・アンケート結果等

■地域子育て・子育て支援論 配布資料（別紙）

別表Ⅰ 子育て・子育てサポーター1級認定資格 選択必修科目一覧

(以下の科目より8単位以上修得すること)

科・専攻	科目名	種別	単位
保育科	保育の心理学Ⅰ	講義	2
	保育の心理学Ⅱ	演習	1
	臨床心理学	演習	2
	児童家庭福祉	講義	2
	保育相談支援	演習	1
	家庭支援論	講義	2
	子どもの保健Ⅰ	講義	4
生活文化専攻 生活文化学科	住生活論	講義	2
	家庭経営学	講義	2
	情報コミュニケーション論	講義	2
	情報メディア論	講義	2
	秘書学概論Ⅰ	講義	2
	事務管理	講義	2
	簿記Ⅰ	講義	2
	家庭と福祉	講義	2
食物栄養専攻 生活文化学科	公衆衛生概論	講義	2
	社会福祉概論	講義	2
	食品学Ⅱ（各論）	講義	2
	食品衛生学	講義	2
	栄養学概論	講義	2
	ライフステージ栄養学（各論）	講義	2
	栄養指導論Ⅱ（応用）	講義	2
	調理学	講義	2
	健康管理概論	講義	2

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」 自主見学記録用紙

地域子育て・子育て支援論				
(生文・食物・保育)				
____年 組 ____番 名前: _____				
子育て支援施設木のおうち 自主見学記録				
	日にち	時間	センター印	感想
1回目	月 日			
2回目	月 日			
3回目	月 日			

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「地域子育て・子育て支援論」授業アンケート

「地域子育て・子育て支援論」 授業アンケート		平成 28 年度				
A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。						
1. 所属 (保育 ・ 生文 ・ 食物)						
2. 学年 (1年 ・ 2年)						
B. この授業に関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。						
1	和歌山県内の子育て・子育て支援の現状と課題について理解ができた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
2	子育て・子育て支援を行うのに必要な基礎的な知識や技能が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
3	機会があれば、子育て・子育て支援に関わってみたいと思った。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
4	授業内容は、将来自分が子育てをする時に役立つと思った。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
5	授業を受けて、地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
6	授業を受けて、和歌山のことが好きになった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない

ご協力ありがとうございました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「地域子育て・子育て支援論」授業アンケート集計結果（回答 119）



◆ この授業について

設問内容	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない	無効・無回答
B.1 和歌山県内の子育て・子育て支援の現状と課題について理解ができた。	40.3%			50.4%	8.4%	0.0%
B.2 子育て・子育て支援を行うのに必要な基礎的な知識や技能が身についた。	42.9%			47.1%	9.2%	0.0%
B.3 機会があれば、子育て・子育て支援に関わってみたいと思った。	60.5%			27.7%	11.8%	0.0%
B.4 授業内容は、得来自分が子育てをする時に役立つと思った。	80.7%			16.8%	1.7%	0.8%
B.5 授業を受けて、地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。	43.7%			35.3%	17.8%	3.4%
B.6 授業を受けて、和歌山のことが好きになった。	30.3%			43.7%	23.5%	0.8%

3. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラムの実施 — ③

a. 平成 28 年度計画

子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラムの実施においては、『きょう育の森』の子育て支援事業と連携し、卒業研究・生活文化ゼミを中心に少人数による課題解決型学習プログラムを行う。さらに、学習成果の達成状況についてアンケート調査を行う。

b. 実施内容

平成 28 年度は、アクティブラーニングの手法を取り入れた 9 件の教育プログラム（下記一覧）が実施され、93 名の学生が参加した。

プログラムのテーマ	科専攻	教員	学生数
粘土遊びと小皿制作	生活文化	井澤	6名
幼児の野菜嫌いに対応した食事の提案	食物栄養	土井	17名
和歌山の自然を用いた保育実践研究	保育	芝田	10名
絵本ミュージックシアター「うらしまたろう」	保育	田原	10名
人形劇の上演	保育	小笠原	10名
乳幼児期における身体接触を伴う意思伝達行動	保育	村上	10名
子育て支援について	保育	森下	10名
乳幼児期の身体活動について	保育	森崎	10名
移行対象の質的研究	保育	森定ゼミ	10名

c. 成果・自己評価

受講した学生へのアンケート調査（回答 87）では、昨年度と同様、多くの学生が、「子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力が身についた」（52.0%）、「高い専門的知識と技能で、子育て・子育て支援を支援できる実践力が身についた」（47.1%）との質問に肯定的に答えており、「コミュニケーション力」と「実践力」を育てるといふ本事業の目的は、概ね達成されたのではないかと考えている。

また、半数以上の学生が「地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった」（51.7%）、「和歌山のことが好きになった」（57.5%）の質問に肯定的に答えており、郷土を支える人材育成という最終目標にそう結果となった。

平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書（1）

【学科・専攻】生活文化学科生活文化専攻

【ゼミ名】井澤ゼミ

【タイトル】粘土遊びと小皿制作

【目的】ぐちゃぐちゃ粘土遊びから、造形の原点を探る。

【活動報告】

○日時：平成 28 年 12 月 19 日 第 1 回目 10：15～／第 2 回目 10：35～

○場所：AS（アートスペース）

○対象：木のおうち利用者

○参加人数：第 1 回目 8 組（16 名）／第 2 回目 10 組（20 名）

生活文化井澤ゼミ学生 6 名

生活文化ゼミ生 6 名が当日、木のおうちから参加者を AS まで誘導。1 回目、2 回目共、開始予定時間に説明が始まる。

粘土は小分けにせず、子どもに大きな粘土の塊から粘土を引きちぎる格闘から作業が始まった。保護者の方も同時に板皿制作開始。イメージが形になる面白さが学生の説明も助け伝わったと感じた。

当初子どもの集中力を考え、約 15 分のワークショップだったが、粘土遊びを普段からしている子どもの参加者も多く、15 分では短い様子であった。

しかし、短時間で個性豊かな親子共同作業の作品が完成。

作品は後日、乾燥、焼成を終えた後、保育ホールにて展示返却となる。

○展示返却日：2 月 15 日、20 日、22 日、27 日



平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書（2）

【学科・専攻】生活文化学科食物栄養専攻

【ゼミ名】土井ゼミ

【タイトル】幼児の野菜嫌いに対応した食事の提案

【目的】平成 27 年度の調査結果から、幼児の「野菜が嫌い」という傾向がうかがえたことを受け、「野菜嫌い」を克服するための方策を検討する。

【活動報告】

I. 17 種の野菜について、嫌いな野菜を特定するための調査を実施した。

- (1) 調査期間：10 月 12 日から 11 月 9 日までの間
- (2) 調査対象：木のおうち及び子育て広場を利用している乳幼児
- (3) 回答数：135 件（保護者による）
- (4) 調査に関わった学生：17 名（延べ 27 名）

II. I の結果に基づき、嫌いな傾向にあった野菜について「野菜嫌いを」克服するための方策を検討し、以下の 2 点を提案した。

- ①食べ物の見せ方（色彩、形状）による食べる意欲への影響
- ②野菜嫌いを克服するためのメニューの提案

以上の提案について、再度調査を実施し、研究を行った。

- (1) 調査期間：11 月 26 日～1 月 18 日
- (2) 調査対象：I に同じ
- (3) 回答数：81 件（保護者による）
- (4) 調査に関わった学生：17 名（延べ 70 名）



平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書 (3)

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】芝田ゼミ

【タイトル】和歌山の自然を用いた保育実践研究

【目的】和歌山の自然を知り、それを保育に活かせる実践力を養う。

【活動報告】

保育科 2 年生 10 名で活動を行った。「ふれ愛ルーム 木のおうち」「子育て広場」に参加する親子を対象に、和歌山の自然を利用したイベントを企画・実践し、保育の実践力向上を図った。「木のおうち」を利用する親子を対象としては、「秋のお芋掘り」イベントを開催した。学生達は、学内の畑を耕し、水やりや草むしりなどの世話をしてイベントに収穫するサツマイモを育てた。さらに、事前に指導計画案を作成し、環境整備を行うと共に、子どもの安全に配慮した運営を心がけ、実践した。10 月 19 日に実施し、参加した親子は全 10 組（2 歳児 7 名、3 歳児 3 名、母親 10 名）であった。実施したアンケート調査では、9 名の保護者から回答を得た、「ムカデなどの虫が多く怖かったが、先生や生徒さんが適切に対応してくれたので安心して出来た。」「日頃、このような体験ができていないので、すごく嬉しかったです。」「小さい子ども、だんご虫とかをさわるだけでも、したかったんじゃないかと思います。」「優しい学生さんたち、先生と一緒に活動できて、子どもも楽しそうでした。」などの良い反応を得た。

「子育て広場」を対象としたイベントでは、和歌山の原風景を残した里山「森の広場のびのび」にて、ネイチャーゲーム「森の宝探し」を企画した。森の宝探しゲームはカードに書いたお題に従い森の中で木の実や落ち葉などを探すゲームである。イベントは 11 月 26 日に行い、20 組の親子（母親 20 名、父親 3 名、子ども 34 名）が参加した。アンケート調査では、15 組から回答を得た。「子どもと楽しめたか」の問いには、15 名中 14 名が楽しめたと答え、「学生の対応は適切であったか」の問いには、全員がはいと答えていた。その他、「危険だと思った場所があったか」の問いには 4 名がはいと答え、坂道、斜面、木や竹の切り口が危険だと答えていた。



平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書（4）

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】田原ゼミ

【タイトル】絵本ミュージックシアター「うらしまたろう」

【目的】ゼミで制作した絵本ミュージックシアターを親子で楽しんでもらう。

【活動報告】

目的：

- ①本年度作成した「うらしまたろう」を子育て広場に来てくださった親子に鑑賞してもらい、絵本や音楽に親しみを持ってもらう。
- ②ゼミ学生にとって自分たちの表現がどのように伝わるかアンケート調査をしその結果をゼミ研究に活かす。

日時：平成 29 年 1 月 14 日（土曜日） 11：30～11：45

場所：音楽 B 教室

対象：子育て広場に参加の親子

参加：15 組の親子（保護者 15 名・子ども 17 名）

ゼミ学生 10 名・指導教員 1 名

今回の題材は誰もが知っている昔話の「浦島太郎」を取り上げた作品である。スクリーンの画像はいもとようこの絵本「うらしまたろう」を使用している。学生達は仕上げた作品を始めてお客様の前で上演し、とても緊張したが、熱心に観てくださった親子の反応にとっても達成感を覚えたということであった。特に波の音を出すオーシャンドラムの音や玉手箱を開けるシーンが印象に残り、生演奏がとてもよかったというアンケート記述や、物語と音楽の表現がとても合っていたという回答が多く寄せられた。これによって学生のモチベーションも更に上がり、卒業研究発表会に向けて演奏レベルを上げたいと意気込んでいた。上演後は子どもと一緒に楽器にふれたりする場面も見られ、音楽の楽しさを親子そして学生が共に感じられたひとときであった。



平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書 (5)

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】小笠原ゼミ

【タイトル】人形劇の上演

【目的】手作りの人形劇を通して子ども達と交流をはかり、楽しさを届けるとともに、子どもが本来もっている想像力や表現力を引き出す。

また、将来保育者を目指す学生が、劇の制作を行うことで自己の感性や表現力を豊かにし、工夫する力を身につける。

【活動報告】

12月14日（水）11:00～11:30、本学プレイルームに於いて、10名のゼミ生が制作した人形劇を「ふれ愛ルーム 木のおうち」に来られた25組の親子の前で上演させていただきました。今年度の作品は、「ブレーメンの音楽隊」（グリム童話）と「桃太郎」（日本昔話）で、学生達は原作を元に、脚本、人形、小道具、音楽等を手作りに制作した。

木のおうちを利用する低年齢児にとって、「ブレーメンの音楽隊」は少し難しいストーリーではと心配したが、子どもたちは劇が始まると舞台に集中し、登場する人形を指さしながら「ウサギ」（実はロバ）、「ワンワン」、「ニワトリ」と嬉しそうに声をあげ、人形の動きやしぐさに見入っていた。「桃太郎」は、台詞の掛け合いや展開のおもしろさから観客全員がお話の世界に惹き込まれ、楽しんでいるのが感じられた。また、両作品とも劇中、音楽を多く取り入れている。その音楽や学生の歌声に合わせて手拍子がおこり、一緒に口ずさむ親子の姿に室内は和やかな雰囲気包まれた。

劇が終わると、人形を手にした学生達が子どもたちと交流した。人形に近寄り、そうっと手を差し出し、その場から離れない子どもの姿に学生の感動も一入だった。

学生達は、劇の上演を通して子どもの発言や反応を実感し、達成感を味わうことができました。また、終了後、劇を鑑賞して下さった中之島支援センターの保育士の方々からご助言をいただきました。今後、学生はさらに高みを目指して練習に励み、実践力を身につけると思います。



平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書（6）

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】村上ゼミ（心理学）

【タイトル】乳幼児期における身体接触を伴う意思伝達行動

【目的】保育実践に役立てるための基礎的研究として、乳幼児期における非言語的手段としての身体接触を伴う意思伝達行為の実態を把握する。

【活動報告】

○目的：保育室での自由活動場面において映像記録をとり（図 2）、身体接触行為を抽出し、行為を生み出した意思について検討する。撮影に際し、事前に文書に基づき、保護者に説明し了承を得ている（図 1）。

○方法：観察研究

○日時及び場所：平成 28 年 10 月 24 日（月）12 時 30 分～13 時 「木のおうち」

○対象：「木のおうち」に来室した子ども 18 名（撮影者はゼミ生 5 名）



図1 学生による事前説明場面



図2 撮影場面

○結果と考察

30 分間で 2 組の身体接触を伴う意思伝達行動が見られた。1 つ目は、幼児の自発的な身体 1 歳 10 ヶ月の男児が 3 歳 3 ヶ月の男児に抱きつき 1 度離れ、再び抱きついた場面である。後に保護者に尋ねると 2 人は家族ぐるみの付き合いであることが判明した。その後、2 歳 9 ヶ月の子どもが 3 歳 3 ヶ月の子どもを押しした場面が見られた。

抱きついた行動と表情からその子どもは相手に「好きだよ」という親愛の気持ちを自然に伝えることができたと推察される。2 人の関係は、初対面ではなく、知り合いであった点もこの行動が生じた理由と考えられる。もう一方の行動には、「嫌だ、やめて」という抗議の意思が示されている。不満・怒りを口で伝えられないため“押す”という気持ちを表したと捉えられる。今回の観察研究を通して、言語能力の発達途上にある乳幼児が示す身体接触行為の実態を把握することができ、行為に込められた意思や意図を読み取ることの重要性を改めて認識できたと考える。

平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書 (7)

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】森下ゼミ

【タイトル】子育て支援について

【目的】子育て支援の現状と課題について検討する。子育て支援の実践力を身につける。

【活動報告】

○活動 (1) 見学

目的：「木のおうち」を見学し、親子との触れ合いを通して、子育ての現状や課題について気づく。研究内容を検討する。

日時：平成 28 年 4 月 13 日

場所：木のおうち

参加人数：森下ゼミ生 10 名

○活動 (2) 調査

目的：ゼミのテーマを「子育て支援について」として、4 つのテーマで研究を行うことになった。各グループで随時、アンケート及びヒヤリング調査を実施した。

日時：平成 28 年 5 月～7 月

場所：木のおうち・どれみひろば

対象：子育て中の保護者

○活動 (3) 学び

目的：「子どもの発達に寄り添う保護者支援について考える～支援者の立場からできること～」の学習会に参加する。子育て支援関係者と共に学習することを通して、子育て支援について理解を深める。

日時：平成 28 年 7 月 9 日

場所：放送大学和歌山学習センター

参加人数：森下ゼミ生 10 名



○活動（4）実践

目的：ふたご・みつご大交流会に参加し、多胎児を育てる親子の理解を深め、支援のあり方を考える。

学生は、保護者との打ち合わせの際、「子育て支援施設では、ふたり分の工作はなかなかできない」という悩みを聞いた。そこで、学生スタッフがたくさんいる本交流会では、工作（ハロウィンのお洋服づくり）を企画した。1対1で学生が子どもたちと関わり、子どもたちが工作を十分楽しむことができることを目指した。

事前準備：ゼミ生ふたご研究メンバー2名が参加

場所：木のおうち

交流会当日：平成28年10月15日（森下ゼミ10名）

場所：体育館



○活動（5）実践・学び・交流

目的：平成28年度3大学連携天野活性化プロジェクトに参加。3大学（和歌山大学・和歌山県立医科大学・和歌山信愛女子短期大学）の学生が協働して、伊都郡かつらぎ町天野地域を研究対象に、地域交流の拠点であった天野小学校の廃校、地域で進行する少子高齢化問題などの諸課題の改善・知己活性化に向けて、学生の活力をどのように活かせるかについての方法論を明らかにする。本ゼミ生は、「子育て部会」として研究を行った。

場所：天野地域交流センターゆずり葉

内容：

①8月19日（ゼミ生2名参加） オリエンテーション／各部会の紹介と発表／地域の方に子育ての現状を聞き地域課題を知る。／交流会

②9月24日（ゼミ生3名参加） 森のようちえんを見学

③10月15日（ゼミ生4名参加） 子育て中の保護者に、子育てについてのヒヤリング調査を行う。地域の秋祭りに参加した。

④11月12日、13日（ゼミ生6名参加） 天野地域活性化プロジェクト3大学合同研修／子育て部会として活動報告・遊びの企画（エプロンシアター・電車ごっこ・バナナ鬼）、地域企画と部会企画などに参加、地域と学生の交流会に参加など。

⑤2月26日 平成28年度研究報告会に参加予定



○活動（6）報告

目的：「子育て支援」研究報告をポスター形式で実施

場所：木のおうち

日時：平成29年1月



森下ゼミでは、「子育て支援」をテーマに1年間の研究を行った。以下の流れで実践的教育プログラムを行った。①木のおうちへの見学やヒヤリングを通して、子育て支援の課題発見、②先行研究を探りながら、アンケート調査用紙の作成、③木のおうちや地域の子育て支援施設等にてアンケート調査の実施、④地域の方々との子育て支援に関する勉強会に参加、⑤ふたご・みつご大交流会の企画・運営等を保護者とともに実践、⑥地域へ出向き、子育て支援の実際と課題について学び、子育て支援で貢献できる実践活動を体験、⑦1年間の研究報告を行うため、KJ法等を取り入れながら、これまでの調査や実践を通して「子育て支援」に大切なことについてまとめた。

学生は、実践的教育プログラムを通して、子育て支援に関わる支援者や、子育て中の親子、地域の方々と出会い交流を深め、子育て支援の実際を知り・学び・感じる事ができた。その体験の中で、出会った方々へ自分たちの思いを伝え、自分たちができることやしたいことを自主的に考え行動した。天野地区での実践は、他大学の学生と協働で行い視野を広げる機会となったようだ。この1年、「子育て支援」について理解を深めたことにくわえて、様々な実践を通して、コミュニケーション能力を高めることができたのではないかと思われる。また、子育て中の保護者や地域の方々が、ゼミ生を温かく迎え入れてくださり、見守り応援してくれることが、彼女らの行動力や実践力につながったと考える。保護者や地域の方々に感謝したい。ゼミ生には、この1年間の経験を活かして、今後、地域や子育て支援に目を向け行動できる保育者となってくれることを期待したい。

平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書（8）

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】森崎ゼミ（学生 榎坂帆香）

【タイトル】乳幼児期の身体活動について—乳児期の体操創作・指導方法を学ぶ—

【目的】私は対象とする子ども達の年齢や発達段階、興味関心に応じた教材の作成を目的とし乳児と保護者の親子体操の創作に取り組んだ。二人の各部位の目的に叶った運動を行なうことに加え、共に動き触れ合うことで愛着関係を育てることもねらいとした。また、説明の仕方や見本の見せ方を工夫し、実践を通して改善し今後に活かしたいと考えた。

【活動報告】4月より体操を創作するため基準を学び創作を開始した。まず、対象が乳児であることから、動きの特徴を把握するために「木のおうち」にて子どもの動きを観察した。動きを創作しながら、乳児の動きやリズムに合ったしかも子どもに馴染みの深い曲選びを行なった。

○実践（1）

平成 28 年 6 月 4 日（土）10 時 50 分～11 時（10 分間）

場所：子育て広場／対象：乳児と保護者約 30 組

反省点は、「体操が多すぎる」「展開が速すぎる」「無理な動きがあった」ために、体操が成り立たなかった。改善点は「運動を少なくする」「ゆったりとしたリズムで行なう」「簡単な動きに」である。それによって説明の時間が少なくすむので、動きながら行い、次の動きを少し前にコールする方法をとることにした。

○実践（2）

平成 28 年 11 月 2 日（水）12 時 30 分～12 時 45 分（15 分間）

場所：木のおうち／対象：乳児と保護者約 10 組

改善点が活き、目的に叶った動きや二人の間に笑顔が見られるようになった。動きのコールもまだまだ言葉が遅れる点もあったが次の動きにスムーズに入ることができた。



【 まとめ 】①対象が乳児であるため動きをゆっくり単純にし、親にとっても適度な運動負荷の体操となるように創作することが大切である。②動きに入る少し前に先に言葉で動き方を伝えること（コール）でスムーズに次の動きに行くことが出来る。③親子一緒に体操をすることで、身体と身体が触れあい、笑顔が生まれ、短時間ではあるが愛着関係が築かれる機会となるのではないか。

平成 28 年度 実践的教育プログラム 活動報告書 (9)

【学科・専攻】保育科

【ゼミ名】森定ゼミ

【タイトル】移行対象の質的研究

【目的】

移行対象とは、小児科医であり、精神分析医でもあるイギリスのウィニコットが、「乳幼児が特別の愛着を寄せる、最初の“自分ではない”所有物」と提唱した概念である。これは、幼児が肌身離さず持ち歩く毛布やタオルケット、ぬいぐるみ、おもちゃ等の対象であり、それがないと著しく不安になるものである。この現象は、単に子どもがものに対して執着するという意味だけではなく、子どもの情緒発達過程を促進する役割を持つ。また、移行対象が見られない子どもにおいても、子守唄や背中をとんとん叩かれるなどの就寝儀式が形のない移行対象、すなわち「移行現象」になって、子どもに安心感をもたらしている。

井原は、主に欧米圏の 6 つの研究結果を平均し、66%という発現率を算出している。日本における移行対象の発現率は、藤井（1985）31.1%（広島近郊）、遠藤（1990）38.0%（東京近郊）、井原（1993）31.7%（東京）、と比較的低率である。

最近の海外の研究では、台湾で乳幼児の母親 164 名に移行対象の質問と面接調査を行ったところ、移行対象の発現率は、王（2014）68.3%であった。本研究では台湾で使用した質問紙を用い、和歌山の保育園と信愛の子育て広場と木のおうち（以下 COC）、東京の保育園を対象に質問紙調査を実施した。環境要因を検討しながら、移行対象の出現率の変化について分析を行うことが目的である。

【活動報告】

6 月より「木のおうち」にて調査用紙を配布して保護者に回答していただいた。また、平成 28 年 6 月 4 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分の子育て広場と、平成 28 年 11 月 26 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分の子育て広場でも、ゼミの学生が保護者に調査用紙を配布し、回答していただいた。木のおうちと子育て広場を合わせた COC 全体で 134 人（男児 81 人、女児 53 人）、東京の保育園 52 人（男児 25 人、女児 27 人）、和歌山の保育園 107 人（男児 57 人、女児 50 人）の保護者に調査を行った。全体として 293 人（男児 163 人、女児 130 人）についての回答を得た。

【まとめ】

移行対象の発現率は、49.1%であり、男児 50.9%、女児は 46.9%であった。移行対象の所持を開始した年齢は、1 歳 4.5 ヶ月であった。移行対象の所持を終了している子どもは、19 人おり、終了した年齢の平均は 2 歳 5.9 ヶ月であった。上記の結果によると、20 年前の調査よりも発現率が高くなっている。移行対象についての情報が育児雑誌など

で紹介され、移行対象への理解が広まったためと考えられる。ただ、欧米や台湾の60%台の発現率よりも低くなったのは、子どもと一緒に就寝する日本の育児習慣が影響していると考えられる。



d. 資料・写真・アンケート結果等

■「実践的教育プログラム」アンケート

実践的教育プログラム（卒業研究Ⅱ、卒業研究、生活文化ゼミ） 授業アンケート						
					平成 28 年度	
A. 以下について、あてはまるところに○をつけてください。						
1. 所属 （ 保育 ・ 生文 ・ 食物 ）						
B. このプログラムに関する以下の質問で、あてはまるところに○をつけてください。						
1	地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる問題解決力が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
2	地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
3	子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
4	高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
5	地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない
6	和歌山のことが好きになった。	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない

ご協力ありがとうございました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「実践的教育プログラム」アンケート集計結果（回答 87）



◆ このプログラムについて

設問内容	とても	まあまあ	普通	あまりない	全くない	無効・無回答
B. 1 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる問題解決力が身についた。	6.9%	33.3%	54.0%	4.6%	1.1%	0.0%
B. 2 地域の課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップが身についた。	4.6%	26.4%	48.3%	19.5%	1.1%	0.0%
B. 3 子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力が身についた。	24.1%	37.9%	34.5%	2.2%	1.1%	0.0%
B. 4 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた。	11.5%	35.6%	41.4%	10.3%	1.1%	0.0%
B. 5 地元に残って地域のために貢献したいという気持ちが強くなった。	17.2%	34.5%	42.5%	4.6%	1.1%	0.0%
B. 6 和歌山のことが好きになった。	23.0%	34.5%	37.9%	3.4%	1.1%	0.0%

4. 和歌山地域を志向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』の公開 —

④

a. 平成 28 年度計画

和歌山地域を志向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』の公開においては、学内での広報活動、教員による授業での活用、地域住民への貸出などを通じて、利用を促す。また、逐次利用状況に関する調査を行うと共に、利用者へのアンケート調査を行う。さらに、和歌山大学図書館を視察し、情報交換を行う。

b. 実施内容

平成 28 年度新生向けに図書館の利用に関するガイダンスを行い、『きょう育の和コーナー』についても周知・紹介を行った。また、前期には『きょう育の和コーナー』図書を含む蔵書（選定は司書の指導の元、図書委員の学生が行った）の移動図書館を全 8 クラスのホームルームで巡回するなど、貸出数の増加に努めた。

地域住民への貸出は「ふれ愛ルーム 木のおうち」で月に 1 度行われる移動図書館で実施し、今年度は 10 回行った。2 ヶ月に 1 度発行している「木のおうち&子育て広場 News レター」においても移動図書館実施日を告知、またコラムで紹介するなどした。さらに年度途中より実施時間を従来の 30 分間から、午前中の 1 時間 30 分間（貸し出して続きはランチタイム）とするなど、利便性の向上も図った。

c. 成果・自己評価

全学生を対象に行った「平成 28 年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート」（平成 29 年 1 月／回答 370）内の『きょう育の和コーナー』に関する項目では、「存在を知っている」と答えた学生は 75.7%（平成 27 年度は 41.5%／回答 364）に上るが、「利用したことがある」と答えた学生は 7.3%にとどまった。

しかしその内「利用した書籍は、和歌山の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深めるのに役立った」とした学生が 66.7%であるなど、利用学生の満足度は高いとも捉えられる。これは前年度と同様（利用したことがある学生は 10.7%）の傾向であり、これら蔵書の活用シーンを増やす必要があることを示している。

活用した授業として、「音楽の基礎」「声楽」「音楽指導論」「児童文化」「保育実習」「地域子育て・子育て支援論」「保育・教職実践演習（幼稚園）」「解剖生理学」「ゼミ」「卒業研究」などの回答があった。

なお、「ふれ愛ルーム 木のおうち」での地域住民への貸出は、のべ 42 人 62 冊・誌であった（平成 29 年 2 月 10 日現在）。

なお、和歌山大学図書館への視察は COC+関連の会合における情報交換で代替可能と考え、費用対効果を検討した結果、行わなかった。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度図書・書籍購入リスト

通番 No.	品名	作者	出版社	金額	購入日	保管場所
436	1 大型絵本/たまごのあかちゃん	神沢利子	福音館書店	¥5,443	2016/5/10	木のおうち
437	2 大型絵本/わにわにのおふろ	小風さち	福音館書店	¥5,443	2016/5/10	図書館
438	3 大型絵本/サンドイッチサンドイッチ	小西英子	福音館書店	¥5,443	2016/5/10	図書館
439	4 大型絵本/くだものいろいろかくれんぼ	いしかわこうじ	ポプラ社	¥4,860	2016/5/10	図書館
440	5 大型絵本/れいぞうこ	新井洋行	偕成社	¥7,776	2016/5/10	図書館
441	6 大型絵本/すっぽんぼんのすけ	もしたいつみ	鈴木出版	¥7,776	2016/5/10	図書館
442	7 大型絵本/びよん	まつおかたつひで	ポプラ社	¥4,617	2016/5/10	図書館
443	8 大型絵本/もこもこ	谷川俊太郎	文研出版	¥7,387	2016/5/10	図書館
444	9 スマホ・タブレット対応ガイド	安川雅史	ぎょうせい	¥1,944	2016/5/10	図書館
445	10 テーブルマナーの絵本	高野紀子	あすなろ書房	¥1,555	2016/5/10	図書館
446	11 ぶつぶつぶ	いしづちひろ	くもん出版	¥777	2016/5/10	図書館
447	12 しんかんせんみつけたい1	あおきたまみ	交通新聞社	¥1,166	2016/5/10	図書館
448	13 しんかんせんみつけたい2	あおきたまみ	交通新聞社	¥1,166	2016/5/10	図書館
449	14 あかちゃんのおとえほん	やまだうたこ	成美堂出版	¥1,749	2016/5/10	図書館
450	15 おいでよ森へ		ダイヤモンド社	¥1,846	2016/5/10	図書館
451	16 みずたまのたび	クロザ	西村出版	¥1,263	2016/5/10	図書館
452	17 にほんのてんどう絵じてん		三省堂	¥2,430	2016/5/10	図書館
453	18 ことば絵じてん		三省堂	¥3,790	2016/5/10	図書館
454	19 ことばのつかいかた絵じてん		三省堂	¥3,790	2016/5/10	図書館
455	20 ものなまえ絵じてん		三省堂	¥2,818	2016/5/10	図書館
456	21 親と子の心のバイブは、うまく流れていますか？	明橋大二	1万年堂	¥1,263	2016/5/10	図書館
457	22 リゆうがあります	3シケンスケ	PHP研究所	¥1,263	2016/5/10	図書館
458	1 尾木ママの7つの人生力 ありのまま、今、輝かせる力	尾木直樹	海蔵社	¥1,166	2016/5/25	図書館
459	2 尾木ママ流しからない子育て	尾木直樹	KADOKAWA	¥544	2016/5/25	図書館
460	3 尾木ママの教育をもっと知る本	尾木直樹	ほんの木	¥1,458	2016/5/25	図書館
461	4 尾木ママの黙ってられない	尾木直樹	ベストセラーズ	¥1,018	2016/5/25	図書館
462	5 尾木ママの「凹まない」生き方論	尾木直樹	主婦と生活社	¥925	2016/5/25	図書館
463	6 尾木ママの育児ってじつはカンタンよ！	尾木直樹	主婦と生活社	¥923	2016/5/25	図書館
464	7 尾木ママの「叱らない」子育て論	尾木直樹	主婦と生活社	¥925	2016/5/25	図書館
465	8 尾木ママの共感子育てアドバイスあせらない叱らない抱え込まない	尾木直樹	中央法規出版	¥972	2016/5/25	図書館
466	9 尾木ママの子供を伸ばす言葉、ダメにする言葉	尾木直樹	成美堂	¥505	2016/5/25	図書館
467	10 尾木ママの親だからできる「こころ」の子育て	尾木直樹	PHP研究所	¥499	2016/5/25	図書館
468	11 グローバル化時代の子育て、教育「尾木ママが伝えたいこと」	尾木直樹	ほんの木	¥1,458	2016/5/25	図書館
469	12 親子共依存	尾木直樹	ポプラ社	¥757	2016/5/25	図書館
470	13 子育てとテレビ報道事情	尾木直樹	新日本出版	¥1,555	2016/5/25	図書館
471	14 大型絵本 ふしぎなタネやさん	みやにしたつや	金の星社	¥9,234	2016/5/25	図書館
472	1 お話で育む子どものこころ	尾木直樹	東京書籍	¥1,749	2016/6/10	図書館
473	2 べんざんたいそう	齋藤楓	福音館書店	¥777	2016/6/10	図書館

d. 資料・写真・アンケート結果等

■木のおうち移動図書館実施報告書

実施日時	実施場所	実施時間	持出冊数	貸出人数	貸出冊数	概要
2016年4月13日	木のおうち	10:30～11:00 延長20分	34冊	8	11	選書内容(食生活、離乳食、子育て、一般書、写真集、和歌山の本、料理本) 初めに、挨拶、簡単な貸出、選書の説明をし、終了時間まで自由に閲覧してもらった。 今年度、初回だったので広く選書を行った。全体的に興味を持って手にとっていたが、前回同様、貸出は子育てや一般書(自己啓発関連)だった。次回からも選書は子育て関係を中心に行う。今年度初回で来場者が多く、利用が多かったように思う。 次回5月11日実施予定
2016年5月11日	木のおうち	10:30～11:00	35冊	7	10	選書内容(子育て、家事、子ども向き写真集) 今回、木のおうち自体の利用者が少なくスペースがあったので、いつもは選書に見ている時間が長いが到着と同時に再貸出しや興味のある方が集まった。 移動図書館は4回目だったので再利用者が多かった。新規の方は2名であった。 子育て、家事(掃除、片づけ)、のりものなどの子ども向きの写真集を選書した。写真集はその場で子どもに見せていた。再利用者が多くなってきたので、次回の選書内容を検討する。 次回6月8日実施予定
2016年6月8日	木のおうち	10:30～11:00	31冊	2	3	選書内容(家事、一般書、写真集、料理、子育て) 今回、開始しては大人10名ほどだったので、常連の方と保育士の方がすぐに手にとってみていた。人数が少ないと一人ずつゆっくり見られるようだ。貸出は少ないが、手に取って見ている方は多い。また4月から新規の方も来ているとのことだったので、選書は子育てを中心に行うと考えている。 次回7月13日実施予定
2016年7月13日	木のおうち	10:30～11:00	36冊	3	5	選書内容(家事、一般書、写真集、料理、子育て) 今回は学生がブックハンティングで選書した写真集やイラストの多い本を持って行った。 参加者が多く、学生も授業で来ていたので部屋がいっぱい感じた。奥にいたお母さんたちは選書に見ていたが、ワゴンまでは来ないようだった。 興味のあるお母さんでも、本を手にとる取っ掛けがないとワゴンまで来ないのか、見てくれるまでに少し時間がかかるように思う。ワゴンだけを置いておく時間をつくってもらいたくも感じないと感じた。 8月はお休み。次回9月14日実施予定
2016年9月14日	木のおうち	10:30～11:00	31冊	8	11	選書内容(一般書、子育て) 毎回、手に取って見ているのは子育て関係が多いので子育てを中心に少し一般書も含めて持って行った。初めに挨拶と簡単な説明をすることで数名の方が見に来てくれ、適切に貸出することができた。今回、初めて移動図書館を利用してくれた方が9名いた。新しい利用者や常連の方とのバランスを考えて選書を行っていく。 利用者の要望で絵本の貸出の問い合わせがあったようだが、子どもを持つお母さんにとって絵本は身近にあり、読む機会も多い。木のおうちにも常備されているので移動図書館ではお母さん方が書籍を手にとる機会を持ってもらいたいと考え、書籍を中心にお母さん方への利用を提供していきたい。 お母さんが直接図書館に参画し絵本を利用することは可能。(芝田先生に選書済み)
2016年10月12日	木のおうち	10:00～11:30	30冊	6	8	選書内容(子育て、読みもの、写真集) 今回から時間を長くし、その場で読みたり、借りる本をじっくり選ぶ時間を作った。 貸出もいつもと同じくらいあり、たくさん手にとって見てくれていた形跡があった。 自由に選んでもらうようにしたが、カバーの破損が一件あった。図書館側としても無断に扱った事故だったので、次回からはレイアウトの仕方などで同じことが起こらないように気を付ける。 お母さんに「本屋や図書館は本が多すぎるので、いろいろな本を持って来てくれるのは嬉しい」との声があった。 次回11月7日(月)見守りのため月曜に変更
2016年11月7日	木のおうち	10:00～11:30	30冊	2	2	選書内容(子育て) 開催時間変更後の利用を貸出手続きの際に聞いたところ、みなさん手に取って見に来てくれるとのことだった。貸出は少なかったがその場での利用があるので良いと思う。 保育士さんから料理本なども、とのリクエストがあった。 次回12月14日(水)
2016年12月14日	木のおうち	10:00～11:30	書籍20冊 雑誌2誌 (19冊)	1	2	選書内容(子育て、料理本) 新刊で受入れた子育て本や子育て関係の雑誌、リクエストがあった料理本を持って行った。 子育て本の中でも理論的な本や、すぐに使える実践的な本などいろいろ持っていくようにしているが、同じ本になってくることもあるので雑誌なども入れて変化をつけている。 全体的に木のおうち利用者が少なかったこともあるのか、貸出数は少ないが全体的に手に取って見えてもらっていたようだった。 次回1月18日(水)
2017年1月18日	木のおうち	10:00～11:30	書籍25冊 雑誌2誌 (10冊)	5	8+雑誌2	選書内容(子育て、一般書) 前回同様、新刊で受入れた子育て関係の本を持って行った。 保育士さんに利用者の様子伺ったところ、手に取って見に来てくれるお母さんは多いとのことだった。貸出は子育て関係の本が多い。 利用者の中には、毎日の子育てで子育てから離れた本も読みたいと思う母親もあるのでは、との保育士さんのお話もあり自己啓発本や読みものなどの本も取り入れつつ、その場で手に取って見やすい、簡単に見られる本で「子育て」「母」「家族」などに関する本を広く選書していきたいと思う。 次回2月20日(月)

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 図書館利用ガイダンス、木のおうち移動図書館写真



■ 「きょう育の和」図書コーナー COC 関係図書冊数（平成 29 年 2 月 1 日時点）

図書(637冊)			視聴覚(15点)	
月	冊数	人数	点	人
4	29	23	0	0
5	42	27	0	0
6	37	22	0	0
7	13	9	0	0
9	9	3	0	0
10	15	14	0	0
11	18	14	0	0
12	14	12	0	0
1	7	4	0	0
2	17	14	0	0
合計	201	142	0	0

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート抜粋

全員がお答え下さい

8 以下の項目についてどの程度知っていますか。

本学が、子育て-子育て支援に際し、和歌山県における地(知)の拠点であること。	知っている	少しは知っている	全く知らない
本学が、和歌山県-和歌山市と連携して事業を行っていること。	知っている	少しは知っている	全く知らない
基礎教育科目群「記の国わかやまと世界」	知っている	少しは知っている	全く知らない
子育て-子育てサポーター	知っている	少しは知っている	全く知らない
図書館にある『きょう育の和コーナー』	知っている	少しは知っている	全く知らない
きょう育の和センター	知っている	少しは知っている	全く知らない
子育て-子育て支援施設『きょう育の森』(森の広場のびのび、ふれ愛ルームのおうち)	知っている	少しは知っている	全く知らない
子育て広場	知っている	少しは知っている	全く知らない
子育て-子育て支援ネットワーク「育育の輪」	知っている	少しは知っている	全く知らない
本学が行っている社会人の学び直し支援事業(科目等履修生制度-特選生制度)	知っている	少しは知っている	全く知らない

図書館にある『きょう育の和コーナー』についてお答え下さい。

11 きょう育の和コーナーにある書籍を利用したことがありますか。

	はい	いいえ
--	----	-----

上記質問にはいとお答え頂いた方に質問です。

12 どのような理由でご利用になりましたか。

・授業の学習(予習-復習、課題等)のため	はい	いいえ
・自身の興味・関心のため	はい	いいえ
・その他理由:	理由(自由記述)	

13 利用した書籍は、和歌山の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解を深めるのに役立ちましたか。

	はい	いいえ
--	----	-----

14 地域のことをもっと知りたいと思うようになりましたか。

	はい	いいえ
--	----	-----

■平成 28 年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート抜粋集計結果（回答 370）

◆ どの程度知っているか

設問内容	知っている	少しは知っている	全く知らない	無効・無回答
8-5 図書館にある『きょう育の和コーナー』	36.5%	39.2%	24.3%	0.0%

◆ 図書館にある『きょう育の和コーナー』について

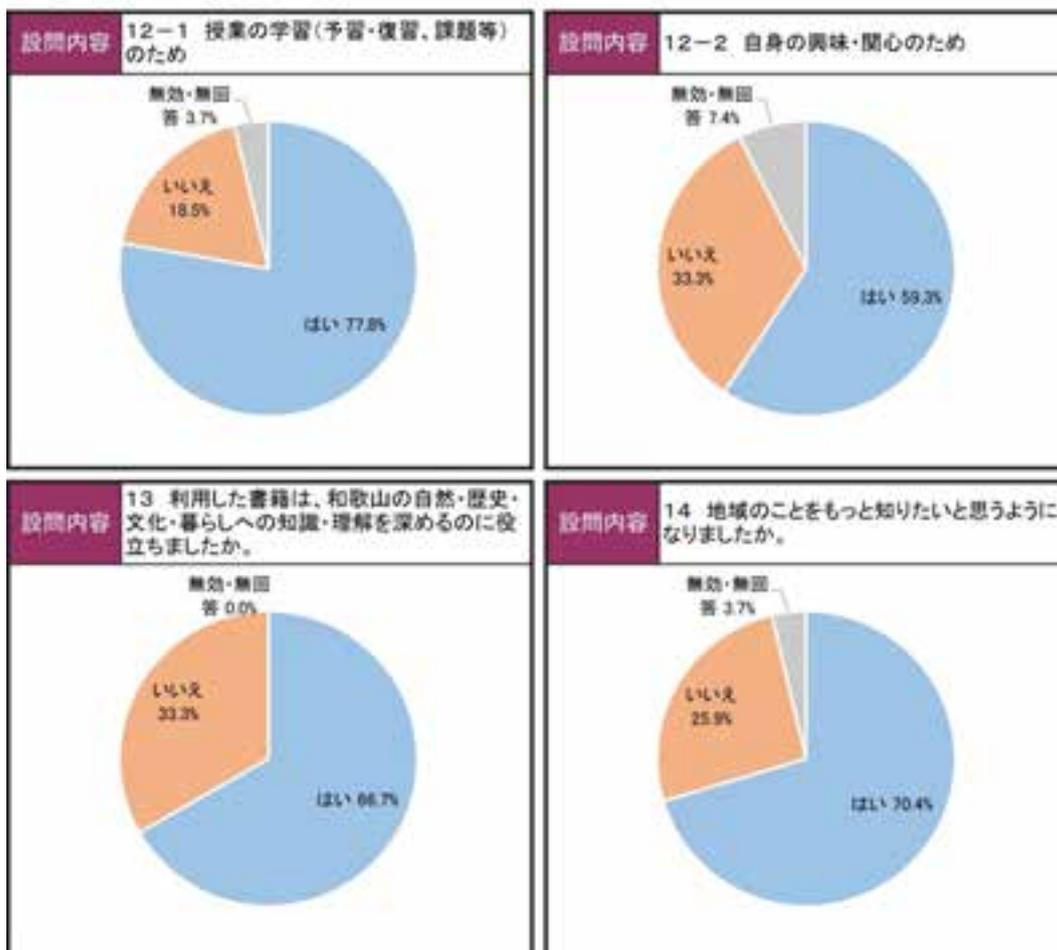
設問内容	はい	いいえ	無効・無回答
11 きょう育の和コーナーにある書籍を利用したことがありますか。	7.3%	91.4%	1.4%

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート抜粋集計結果（回答 370）

◆どのような理由でご利用したか

〔「11」の質問で「はい」を選択した方〕



Ⅲ. 活動報告（研究等）

1. 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究 ― ⑤

a. 平成 28 年度計画

子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究においては、アンケート調査、ネットワーク参加団体・個人による協議会の開催にくわえ、ネットワーク参加団体・個人と連携して資質向上のため、講師を招いての学習会、共同の子育て支援イベントを企画・実行し、アンケート調査を通じて連携強化への効果を測定する。

b. 実施内容

c. 成果・自己評価

「1. 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究 ― ⑤」については、次頁より「b. 実施内容」「c. 成果・自己評価」にあたる内容を研究レポートとして記載する。

子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究

きょう育の和副センター長 森下順子

○事業目的

地域の子育て支援に関わる個人・団体を繋げる子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』形成に向けた実践的研究を行う。これにより、子育て・子育て支援に関わる個人・団体の縦と横の繋がり組織化を図り、各機関が連携した研究・支援事業を促進することができる。

○平成 28 年度計画

子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』参加団体・個人と連携し、資質向上のための学習会や、子育て支援活動を共同で企画・運営することで、個人・組織間の連携強化への効果を探る。また、『共育の輪』専用ポータルサイトを刷新し、スマートホンによる利用機能や、SNS 的機能を付加することで、サイトの双方向化を図る。さらに、アンケート調査を通じて、ネットワークの有効的活用方法を探求する。

○事業内容

アンケート調査、ネットワーク参加団体・個人による協議会の開催にくわえ、ネットワーク参加団体・個人と連携して資質向上のため、講師を招いての学習会、共同の子育て支援イベントを企画・実行し、アンケート調査を通じて連携強化への効果を測定する。

○成果

ネットワーク参加団体・個人と連携した活動や、地域課題等について話し合い支え合うことで、各支援団体や子育て当事者の連携強化が図られる。子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究においては、以下の活動を行った。

1. 『共育の輪』協議会の開催
2. 資質向上のための学習会
3. 子育て支援イベントを企画・実施
4. アンケート調査の実施
5. 『共育の輪』専用ポータルサイトの刷新と運用

1. 『共育の輪』協議会の開催

平成28年度共育の輪ネットワーク会議 議事録

【第1回】

日 時：平成28年6月10日（金）9：30～11：30

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム 木のおうち

出席者：会員9名（佐藤・藪田・大中・佐藤・場野・矢部・白井・阪田・畑上）

短大5名（芝田・森下・児嶋・柳本・林）

議事録：

1. センター長挨拶・事業説明（芝田）
2. 自己紹介・情報交換
3. 支援者としての悩みや課題について
 - ・病院との連携
 - ・縦の繋がり強化
 - ・利用者のお母さんがエンパワーできる仕掛け作り
 - ・地域で理解者が必要
 - ・しんどい思いを吐き出す場所が必要
 - ・お母さんの気持ちに寄り添い、相談などにも応じているが、支援者自身の心の安定が必要（支援している方の支援）
 - ・ネットやSNSで情報を入手するお母さんが多い
 - ・こども園が増え、育児から離れたいという理由で保育園に子どもを預けるお母さんが増えているのが悲しい。子どもを連れて遊びに行ける場所があることを知り、人との出会いを楽しんでほしい
 - ・双子は、外出が困難で、引きこもりやすい
 - ・双子が広場へ遊びに行くと、工作などの遊びができない。お母さんが2人分の工作を作れない
4. 共育の輪イベントについて
 - ・昨年度は雨天だったが、学生が双子のお母さんの大変さを理解し、学びになった
 - ・学生から「今年も開催したい」との声が上がっている
 - ・10月15日（土）確定（時間未定）
 - ・実行委員長は、藪田氏と佐藤氏
5. 共育の輪学習会について
 - ・支援者の悩みや課題を踏まえて、支援者の学びや心のケアなどを目的とした学習会を検討する
6. その他
 - ・会員への共育の輪ポータルサイトの利用促進

【第2回】

日 時：平成28年7月1日（金）9：30～11：30

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

出席者：会員6名（場野・阪田・佐藤・藪田・宮本・谷口）

短大3名（児嶋・柳本・林）

議事録：

1. 平成28年度共育の輪イベント企画（案）の作成

- ・開催時間は、10：00～12：30
- ・参加可能年齢は小学校低学年まで
- ・サークル「プル・アンファン」による人形劇
- ・和歌山市保健師に協力依頼、身体測定コーナーを設置
- ・学生スタッフを募る
- ・講演案

双子の子どもと、双子を育てた親の講演、父親の育児参加を推進するような講演など

- ・工作について（学生からの提案）

ふたごのお母さんは、「子育て広場などの工作遊びに参加するが、2人分の工作を作ることが困難」との意見を参考にし、ふたごも楽しめる簡単な工作（ハロウィンのマント作り）を計画中。

- ・グループトークについて

双子育児の情報交換（グループトーク）は40分間行う。

各グループのコーディネーター役として、共育会員スタッフや学生に進行を依頼
父親のグループも作る。参加は強制ではない、よい雰囲気づくりを目指す。

- ・子どもの見守りについて

親子1組に対し学生1人がマンツーマンでサポートする。

- ・広報について

チラシの作成はふたごぐみ谷口氏担当、申込み締切9月末、和歌山の新聞社へ広報取材を依頼

2. 平成28年度共育の輪ネットワーク会議 イベント打ち合わせ日程調整

3. 情報交換

【第3回】

日 時：平成28年8月4日（木）12：30～14：30

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

出席者：会員10名（場野・阪田・畑上・武藤・堀・小玉・佐藤・藪田・谷口・白井）

短大 4 名（森下・児嶋・柳本・林）

学生 2 名

議事録：

1. 自己紹介
2. 平成 28 年度「ふたご・みつご大交流会」について
 - ・下記のタイムスケジュールで開催することとなった。
 - 10：00～10：15／開会の挨拶（信愛&ふたごぐみ）
 - 10：15～10：35／育児講演
 - 10：35～10：50／プル・アンファンさんによる人形劇
 - 10：50～10：55／集合写真撮影
 - 10：55～11：10／学生による工作
 - 11：10～11：50／グループトーク
 - 11：50～11：53／休憩タイム
 - 11：53～12：30／自由遊び、育児用品リサイクル、保健師相談など
 - 12：30／閉会
 - ・学生によるハロウィン工作・子ども用名札の説明
 - 双子でも楽しめる簡単な工作「ハロウィンのマント作り」の提案（学生より）。
 - マントを踏んでこけないように、大きい子用・小さい子用のマントの長さを変える。子ども用の名札は、受付で配布する。ハロウィンのマントや洋服にも貼ることができる。
 - ・育児講演の講師依頼（プル・アンファン堀氏）
 - ・役割分担（下記のとおり）
 - ビデオ・写真撮影（児嶋・林）
 - 司会（藪田）
 - 受付（佐藤・白井・林）
 - 座席見守り（ふたごぐみ OB）



育児用品リサイクル（ふたごぐみ OB）

駐車場誘導（児嶋）

- ・チラシの校正確認
- 3. 今後の打ち合わせ日程調整
- 4. 「共育の輪学習会」について
- ・8月26日開催予定の「共育の輪学習会」のお知らせ

【第4回】

共育の輪ネットワーク会議は、警報発令により中止

【第5回】

日時：平成28年10月4日（火）10：00～14：30

場所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

出席者：会員10名（場野・堀・畑上・矢部・佐藤・藪田・砂田・白井・竹井・宮本）
短大2名（柳本・林）

講演者 辻氏

議事録：

1. 平成28年度「ふたご・みつご大交流会」最終打ち合わせ
 - ・グループトークのグループ分け決定
 - ・36組申込み（平成28年10月4日現在）（男女8組、女女14組、男男14組）
6組×6グループ（黄・赤・緑・ピンク・紫・水色）
性別が同じ双子は同じグループ。
学生もグループトークに参加（双子育児への理解を深める）
 - ・大人・子ども・スタッフの名札の作成
大人（保護者）の名札は、シールに双子子どもの年齢（妊婦は妊婦と明記）・性別・姓を記入。グループ分けはカラーの丸シールを貼る。
父や祖母も名札を作成。
 - ・子ども用の名札は、学生がグループカラーの折り紙で作った名札に名前を記入し、裏面に両面テープを貼る。
 - ・スタッフ用名札は、花の形の名札に姓を記入。
 - ・名札配布は当日の朝、受付で配布。（子どもに見守り担当の学生が渡す。）
 - ・タイムスケジュールの最終確認
- 人形劇終了後、集合写真の撮影を行う。
グループトーク終了後、参加者アンケート（2種類）を配布。

- ・役割分担の確認
 - ビデオ・写真撮影（児嶋・林）
 - 司会（藪田）
 - 受付（佐藤・白井・砂田・林・学生3名）
 - 育児用品リサイクル（竹井・矢部・学生2名）
 - 駐車場誘導（児嶋・宮本・学生6名）
 - 子ども見守り（学生72名）乳幼児1名につき学生1名が担当
- ・体育館の音響確認・配置確認
 - 司会・講演・人形劇では、体育館の音響を使用、受付では、持ち運びタイプの音響を使用する。
 - おむつ替え・お昼寝コーナーの場所は、保健師による身体測定コーナーのとなりに変更する。
- 2. 学生スタッフ説明会 開催
 - 12:45～13:05 セシリアホール
 - 学生スタッフ参加数 78名
 - 全体説明（森下）
 - 当日のタイムスケジュール説明（佐藤・藪田）
- 3. 前日準備・当日について
 - ・前日準備 10月14日（金）
 - 10:00～人形劇準備・リハーサル
 - 15:00～交流会準備（学生は16:20から参加）
 - ・当日 10月15日（土）
 - 9:20 体育館集合
 - 9:45 受付開始
 - 12:30 閉会
 - 12:30～13:00 ミーティング・後片付け
 - 13:00～14:00 木のおうち開放（希望者のみ昼食）



【第6回】

日 時：平成28年10月14日（金）15：00～17：30

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち・体育館

出席者：会員6名（場野・佐藤・藪田・砂田・竹井・宮本）

短大4名（芝田・森下・柳本・林）

学生約20名（16：30から参加）

議事録：

平成28年度「ふたご・みつご大交流会」について以下のように決定した。

1. 前日打ち合わせ 木のおうちにて
 - ・申込みキャンセル分の修正（参加者名簿・名札・グループ分け等）
 - ・役割・配置図・タイムスケジュールの最終確認
2. 前日準備 体育館にて
 - ・学生への説明（柳本）
 - ・4号館倉庫・木のおうちより荷物の運び出し
 - ・育児用品の搬入・設置
 - ・受付準備
 - ・救急セット準備（10：00 保健室へ交流会参加者名簿を提出済み）
 - ・授乳室・おむつ替えコーナーの設置
 - ・座席・遊具の設置
 - ・靴箱・荷物置き場の設置
 - ・貼り紙の掲示
 - ・音響チェック等

【第7回】

日 時：平成28年11月8日（火）13：00～15：00

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

出席者：会員8名（場野・矢部・阪田・畑上・佐藤・藪田・砂田・宮本）

短大4名（森下・児嶋・柳本・林）

議事録：

1. ふたご・みつご大交流会当日に回収した学生からお母さんへ・お母さんから学生へのメッセージと当日の写真をホワイトボードに掲示し、閲覧した。
 - ・ふたごぐみより、今回の会議に参加していないお母さんたちにも、学生のメッセージを見る機会がほしいとの要望があった。
2. 平成28年度ふたご・みつご大交流会 反省会
 - ・ふたごぐみアンケート（参加者）結果

「共感しあえて気が楽になった」

「相談できて良かった」

「学生に子どもを遊んでもらって助かった」

「人形劇が良かった」 など

・ 次回もあれば参加したいですかの質問に、全員「はい」と回答とされた。

・ 共育の輪アンケート結果の発表

「先輩ママさんの話を聞かせていただき良い機会となった」

「土曜日、仕事が休みなので参加できて良かった」

「今後もこういう機会を定期的に行っていくことで、地域・社会が広がってより良いものになると思う」

「親子や学生の皆さんの良い笑顔が見れてよかった」

「今後はさらに発展させて全ての幼児対象のイベントになればいいと思う」

「子育てを学ぶ学生にとっても良い学ぶ場になっていると思う」

「学生さんたちが、優しく一生懸命にお世話して下さい、素敵な時間を過ごせた」

「素晴らしい事業だと思う」 など

・ 共育の輪会員スタッフより感想

「入口案内がなかった」

「学生とお母さんの初めの挨拶（自己紹介）の時間があれば、絆や信頼ができて、より良かったと思う」

「駐車場係りの2年生が、自らよく動いてくれて、車の流れもスムーズだった」

「グループトークに参加している学生が少なかった」

「リサイクルの育児用品を、子どもたちが触るのを止めるのが難しかった」

「育児用品は、双子用の2つ並んだ商品がよく目にとまっていた。欲しい側の目線で並べ方を考える必要がある」

「人形劇の途中で木が倒れてしまった時、すぐに学生が来て木を起こしてくれて助かった」

「学生が考えたハロウィンの工作がとても簡単で作りやすく、小さい子から小学生まで楽しめる内容だった。子どもが二人いても親子で一緒に楽しめた」

「ハロウィンのマントを着て撮った集合写真がとても可愛かった」 など



3. 第2回共育の輪学習会について

・子育てネットワークの広め方、支援する側のサポートのポイント等を学べる学習会を開催予定

・平成29年1月 木のおうちにて 日程検討中

4. 最終報告書について

森下より説明 別紙「H29年度最終報告書に向けて作成」

・共育の輪会員と森下で、子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」構築に向けた取り組み（5年間の追跡）の報告書を作成する

5. 来年の要望

「色々な子どもが参加できるようなイベントを開催したい」

「母・子 メイン別のイベントを開催してはどうか」

「今までと違うチャレンジがしたい。お父さんサークルとのコラボなど」

【第8回】

日 時：平成28年11月22日（火）10：00～12：30

場 所：和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

出席者：会員9名（藪田・砂田・宮本・辻岡・中村・藤田・山根・尾崎・羽生）

短大4名（森下・児嶋・柳本・林）

学生5名

議事録：

1. ふたご・みつご大交流会当日に回収した学生からお母さんへ・お母さんから学生へのメッセージと当日の写真をホワイトボードに掲示し閲覧した。

2. 意識調査・意見交換会

下記のテーマについて参加者の意見を付箋に記入し、議論した。

・どのような子育て支援があれば、子育てしやすい環境になるか

・「社会で支える子育て支援」の環境づくりへの提案

参加者からの意見は、今後、集約予定



2. 資質向上のための学習会

○第1回共育の輪学習会

日 時：平成28年8月26日（木）10:00～12:00

場 所：ふれ愛ルーム木のおうち

参加者集計：

大人	3
子ども	3
教職員	1
COC	1
8名	

和歌山の拠点

平成28年度 **共育の輪学習会**

「ひとりひとりが主役になれる」

トラムサークル
ミュージック・ケア体験会

子育て支援関係者さん向け講習会・実践

無料
※要予約

【日時】 8月26日(金) 10:00～12:00 (受付9:45)
【会場】 和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち
【参加対象】 共育の輪会員と会員のお子様 (定員15名)
※定員になり次第締め切ります。

赤ちゃんから高齢者まで、障がいがあってもなくても、ひとりひとりが主役になれるトラムサークル・音楽療法を基盤、育児や仕事でのストレス発散、癒し、認知症予防、親子のコミュニケーション等、音楽の特性の一部をいっしょ、多世代の支援を行っています。

【講師】 大中 和美さん
ハートミュージック 代表
和歌山ミュージック・ケア研究会～Happy Smile～ 代表
トラムサークルファシリテーター協会 ファシリテーター

お問い合わせ先：和歌山信愛女子短期大学 子育て支援センター

TEL 073-479-1106 (直通・平日:10:00～15:00)
*開庁中・お名前・お子様のお名前と年齢(参加の場合)・住所・連絡先をお伝えください。
TEL 073-479-1107
MAIL kosodate-coc@shinai-u.ac.jp

申込締切 8/22(月)

参加者の感想：

①社会教育で「人生は自己紹介の連続である」と学んだことがありました。人とつながるということは、自分を知ってもらい、他人を知るということで、その方法はたくさんあると改めて感じました。

②学校（幼・保）園（所）が拠点となって、その役割を果たすとき、みんなで考えたいと思います。幼・保・この先生方の研修会を担当し、信愛の先生方にもご指導いただいています。少しずつ機会をとらえて、この取り組みを宣伝していきます。ありがとうございました。

③とても貴重な経験なので、もっと他の人にも来てもらえたらいいのと思います。

④ゆっくりした時間を過ごせてよかった。知らない方と出会う（話す）きっかけになると思いました。



○第2回共育の輪学習会

日 時：平成29年1月19日（木）10：30～12：.00

場 所：ふれ愛ルーム木のおうち

参加者集計：10組

平成28年度 第2回共育の輪学習会

参加費 無料 (先着15名様)

支援者向けセミナー

子ども達の豊かな未来のために 私たちが今できること

講師：梅原直子さん
（兵庫県主任児童委員、大阪成蹊短期大学・プール学院大学短期大学部の元非常勤講師等）
 大阪府貝塚市で28年前に、地域子育てサークルを発足後、貝塚子育てネットワークの会を立ち上げ、現在は、平成28年度子育て支援員研修の講師や貝塚市内の中学校で放課後学習支援をされています。

日程 平成29年1月19日（木）

時間 10：30～12：00（受付10：15）

場所 和歌山信愛女子短期大学
ふれ愛ルーム木のおうち

対象 共育の輪会員

ご予約・お問い合わせ
和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター

TEL 073-479-1106
MAIL kosodate-coc@shinai-u.ac.jp



参加者の感想：

- ① 自分の子育てを振り返ることができました。また、引きこもりがちな自分ですが何かやってみようと感じられるお話でした。
- ② 今回参加させてもらえて色んな話を聞けたり、地元のサークルさんとも初めて知り合えたりと、遠いけど来てよかったなと思いました。また次回何かあれば参加したいと思いますのでよろしくをお願いします。
- ③ とってもいいお話が聞けました。参考になる部分、励みになった部分がありました。ありがとうございました。
- ④ 初めてでしたが、参加できて良かったです。
- ⑤ 「自分たち、親たちが知らない未来に生きて行ける子ども」その通りだと思いました。私の人生ではない子どもらが納得した人生、今しかできないこと、印象に残りました。
- ⑥ 子育てについていろんな経験を聞かせていただき、とてもいいお話でした。自分自身の子育てにも、自分自身の成長にも活かさせていけたらと思います。
- ⑦ 今まであまり社会参加していなかったのですが、これから活動をして、人生を楽しみたいと思いました。
- ⑧ これからの子育てのヒントやネットワークのつながりの強さなど、色々と勉強になりました。子育てしていく上で、情報を共有したりお話しすることは大事だなと思いました。
- ⑨ リアリティのあるお話で楽しく、「あーなるほど！」と思って聞かせていただきました。本当に参加して良かったです。ありがとうございました。

3. 子育て支援イベントを企画・実施

平成 28 年度「ふたご・みつご大交流会」開催

日時：平成 28 年 10 月 15 日（土） 10：00～12：30（受付 9：45）

スケジュール

10：00～10：15／開会の挨拶（信愛&ふたごぐみ）

10：15～10：35／育児講演（双子を育てた先輩ママの体験談）

10：35～10：50／人形劇(プル・アンファン)

「なかよしこぐま お兄ちゃんになったよ」

10：50～10：55／集合写真撮影

10：55～11：10／学生による工作「ハロウィンのマント」

11：10～11：50／グループトーク

11：50～11：53／休憩

11：53～12：30／自由遊び、育児用品リサイクル、保健師相談

12：30／閉会

参加者集計

31 組 参加（双子連れ 28 組、母親のみ 3 名）

親	31
子ども	64
父・祖母	7
共育会員スタッフ、人形劇スタッフ・講演者	13
学生	75
（信愛 68 名・和歌山大学 3 名・和歌山県立医科大学生 4 名）	
教職員	8
和歌山市保健師	2
計	200 名

育児講演（双子を育てた先輩ママの体験談） 辻須美代氏

北高レスリング部に所属する双子兄弟（JOC 全日本選手権大会で二人揃って準優勝、台湾での国際大会でも二人揃ってメダルを獲得）を、立派に育てあげられた辻さんの妊娠から出産、子育ての苦悩を綴った感動のエピソード。大変な双子育児を、家族や友人、近所の方に支えられながら、切磋琢磨で乗り越えてこられた。子どものスポーツを通して学んだ経験は、大切な宝物。二人を支え、応援してくれる周りの皆様には感謝の気持ちでいっぱいだと語られた。

人形劇 (プル・アンファン) 「なかよしこぐま お兄ちゃんになったよ」

〈あらすじ〉双子のこぐまが出産で入院しているお母さんに荷物を届けるお話です。プル・アンファンの創作で、双子シリーズ第二弾です。お兄ちゃんになった喜びと、お手伝いやお片づけなどを頑張る姿と、兄弟やお友達と力を合わせたらなんでも出来るねという思いを込めた作品です。

和歌山県立大学文化芸術学部 芸術文化センター
ふたご・みつご大交流会

日時：2016年10月15日(土)
10:00～12:30(9:45受付開始)
場所：和歌山信愛女子短期大学 体育館
(和歌山市稲塚 102-2)

主催：和歌山県立大学文化芸術学部、和歌山信愛女子短期大学、和歌山県立大学文化芸術センター

協賛：和歌山県立大学文化芸術学部、和歌山信愛女子短期大学、和歌山県立大学文化芸術センター

お問い合わせ先：和歌山県立大学文化芸術学部 芸術文化センター
TEL: 073(421)4741 | www.kanazaki-u.ac.jp

和歌山信愛女子短期大学 学務課 事務室
TEL: 073(421)4741 | www.aic-w.ac.jp

和歌山県立大学文化芸術学部 芸術文化センター
ふたご・みつご大交流会

学生ボランティア
大募集

日時：平成28年10月15日(土)
9:30～13:00 (伊集・焼酎付付食付)

参加希望の方は、本のおうちもしくは 森下まで
和歌山信愛女子短期大学 きょう青の館センター





●ニュース和歌山（平成 28 年 9 月 10 日 土曜日）

子育て
○ふたご・みつこ大文
流会：10月15日（土）午前
10時、和歌山市相坂の和
歌山信愛女子短期大学。
多胎児とその家族、多胎
児の妊婦対象。双子を育
てた母親の育児講演のほ
か、人形劇、ハロウィン
工作体験、保健師による
育児相談など。無料。定
員30組。希望者は9月20
日までにふたごみ、佐
藤さん（Sawamoto, Yoko）

●ニュース和歌山 (平成 28 年 9 月 24 日 木曜日)



双子や三つ子を待つママたちが
企画・運営して、今年で2回目



「ふたご・みつご大交流会」、10月15日(土)に信愛女子短期大学で 多胎児子育て、喜びや悩み分かち合い

双子ちゃんや三つ子ちゃん、育見に奮闘するママ、集まれ! 「ふたご・みつご大交流会」が10月15日(土)和歌山信愛女子短期大学(和歌山市相板)の体育館で、午前10時~12時半に開催。

双子ちゃんや三つ子ちゃん、育見に奮闘するママ、集まれ! 「ふたご・みつご大交流会」が10月15日(土)和歌山信愛女子短期大学(和歌山市相板)の体育館で、午前10時~12時半に開催。

和歌山市の育見サークル「ふたご・みつご」が中心となり、同短大の子育て支援ネットワーク「共育の輪」に参加する子育てサークルが連携して企画・運営。多胎児家族や多胎妊婦などを対象に、今回で2回目の催しとなります。「ふたご・みつご」は、平成14年に多胎児親子の交流を目的に発足。現在は約30組が所属し、月に1度、ビッグ愛(和歌山市手平)で活動を

行っていきます。同サークルのOBであり、今回のイベントにも参加する数田のりこさんは、「ママ学生による工作や自由遊びなどが行われます。」

先陣ママの講演や、育見用品の交換も

また、先輩ママによる育見講演に、和歌山北高校3年でレスリング部に所属し、今夏のアシカ力アップ選手権で好成績を収めた辻大成さん・開成さん兄弟のお母さん、須



当日は家族のグループ



前回の交流会の様子

ふたご・みつご大交流会
 【日時】10月15日(土)
 午前10時~12時半
 【場所】和歌山信愛女子短期大学 体育館
 (和歌山市相板)
 【申し込み先】ふたごみ・佐藤さん
 ☎073(496)4957
 【Eメール】sayutb@yaho.co.jp
 【申し込み締切日】9月26日(月)

美代さんが登場。双子育見の経験を伝えます。比較されることなく、2人それぞれが輝けるような双子育見の参考になるのではないのでしょうか」

参加は無料。定員30組。小学校低学年までの子ども連れや、保護者だけの参加も可能です。「交流会で横のつながりを増やし、思いを分かち合うことで、ママの救いになればうれしい」と、数田さんは話します。

申し込みや問い合わせは左記まで。

●まみたん 10月号

今月の ピックアップ情報

★胎内子育てプログラム(トリプルP)セミナー
 育児を楽しく約45分にとらえる胎内学習プログラムです。
 胎内子育ての最新情報を紹介します。
 開催日時◆10/6・10/20・11/10の木曜日 9:30-12:00
 ◆10/17・10/31・11/14の木曜日 9:30-12:00
 ※セミナーは3回コース
 開催場所◆元町まこもこニデイセンター
 ◆元町まこもこニデイセンター
 対象 定員◆和歌山市民で子育て中の方(2歳~12歳の子どもの養育者)
 定員100人※一枠確保あり(定員50人以上)
 参加料◆無料
 申し込み◆それぞれ開催日1週間前まで
 申込みについての問合せ◆
 和歌山県立医科大学保健看護学部 073-445-6700
 和歌山子ども総合支援センター 073-432-7833

★ふたご・あつこ大交流会
 多胎児家族のグループトークや先輩ママによる育児談話、保育科学生による工作などお楽しみたくさん! 育児用品のリサイクルもあつきます!
 日時◆10/15(土)
 10:00~12:30(9:45受付開始)
 場所◆和歌山県立女子短期大学 体育館
 対象◆多胎児家族、多胎児子育て経験のある方(子ども連れ小学低学年まで、母親のみの参加可能)、多胎児陣、ご自身がお子さんの方
 定員◆30名
 参加料◆無料
 申し込み◆10/20(火) ※締切を過ぎてからの申込みは相談
 申込み 問合せ先◆ふたごのみ
 電話 090-6701-6741



おでかけカレンダー 詳細&問合せ一覧

※各々のイベント情報は別のページを見てね

- | 和歌山県 | 和歌山県 |
|--|--|
| <p>●あひびきま保育所
 持物◆水分補給できるものや、おむつ等※定員にのみ入室枠のため、ご参加の際は問合せを。
 和歌山市西550番地 0736-63-0269
 ●新田保育園
 0736-62-7222</p> | <p>●和歌山県立図書館
 073-436-9500</p> |
| 和歌山市 | 和歌山市 |
| <p>●赤ちゃん広場
 ・子育て教室(1才)
 ・子育て教室(2才)
 持物◆おしりふき・お茶・お菓子・バスタオル
 ※製作材料は問・休済み・クレヨン・水性マジック・セロテープ
 問合せ◆
 ・40011子育て支援課
 0736-77-2511
 ・和歌山子育て支援センター
 0736-66-0904
 ・和歌山子育て支援センター
 0736-75-2311
 ●和歌山市立河内図書館
 0736-78-2010
 ●和歌山市立河内図書館
 0736-64-4814</p> | <p>●子育てひろば
 自由あそび・手あそび・ふれあいあそび・かんたんおもち作り
 対象◆3才~幼稚園の子どもの保護者
 持物◆くつを入れる袋、新聞紙、カッター・カール、※どの会場へ参加でも、途中からでも参加できます。
 問合せ◆和歌山市役所福祉局
 子ども家庭子育て支援課
 073-435-1329</p> |
| <p>●和歌山県立図書館
 073-432-0010
 ●和歌山県立こども科学館
 073-432-0032</p> | <p>●子育てひろば
 099のテーマ「秋の収穫」
 ※10/25はベビーマッサージです。
 (着バスタオル)
 対象◆幼稚園・保育園に入る前の子どもとその保護者
 参加費◆子ども1人につき100円
 持物◆お茶、タオルなど
 問合せ◆和歌山県教育委員会
 生涯学習課
 073-432-3349</p> |
| <p>●和歌山市下津図書館
 073-492-4489
 ●和歌山市元宮図書館
 073-483-8739</p> | |



●らくり 10月号

ふたご・みつごファミリーの強〜い味方
ふたご・みつご大交流会
10/15 

先輩双子ママによる育児講演や保育科学生による工作&自由遊び、グループトークなど。育児用品のリサイクル(無料)や人形劇もあるよ♪



- 10:00~12:30 (9:45~受付) 対象=多胎児家族、多胎児子育てで経験のある方、多胎妊婦、自身がふたご・みつごの方
- 和歌山信愛女子短期大学 体育館(市内相坂702-2)
- 無料(定員30組)※9/26申込締切(締切日以降は応相談)
- ふたごぐみ(佐藤さん)

☎090-9701-9741

●テレビ和歌山



■ 多胎児家族のグループトーク ■ フロリアンファンによる人形劇 ■ 保育科学生によるパロディダンス会(自由参加)

ふたご・みつご大交流会

日時 10月15日(土) 午前10時~午後12時30分
(午前9時45分 受付開始)

場所 和歌山信愛女子短期大学 体育館

申し込み締切日 9月20日(木) 詳しくは ふたごぐみ

ふたご・みつご大交流会 講演録
辻 須美代 氏

皆さんこんにちは。現在、北高レスリング部で、御世話になっているふたごの息子を、微力ながら、応援サポートしている母です。今日は、たくさんのふたごちゃんたちに出逢え、自分がふたごを出産したことも忘れ、癒しと感動、さらに、私も同じ仲間だという嬉しさでいっぱいです。

それぞれのふたごちゃんが、素敵なふたごコーディネートをされていて、凄く可愛いし、魅了されるし、私も同じようにして、いろんな所へお出掛けした事を思い出します。

ふたごちゃんの存在感や影響はとても大きくて、周りの皆様から歩み寄ってきて頂いたり、同じふたごちゃんを育児された方々も、声をかけて頂いたりするんです。先輩ママさんからの温かいお言葉や、子育てアドバイスが、励みになり、たくさんの元気パワーを頂き、「ふたごちゃんあるある話」で共感できる夢が沢山あり、何よりも嬉しかったです。

妊娠が分かった時は驚きと喜びで、両親や家族に「やっぱりふたごみたい！」嬉しい奇跡の報告をした日を思い出します。

月日が経つにつれ、臨月になった時は腹囲が 100 センチを超え、まるでお相撲さん。赤ちゃんが下がってきて膀胱を刺激。尿意を感じて不快感が続き辛かったです。

その上、前かがみは無理だし、しゃがんで自分で靴下を履くことも無理、寝転んだら一人で体を起こせない。だから、この時期お風呂はほぼシャワーで、出っ張ったおなかの上にタオルをかけて、小物を乗せて洗っていました。(笑)

日々の歩き方は脚をはちかり、大きなおなか動く振動で張らない様に、下から両手で抱えて息をきらしながらノソソリと歩いていました。カチッと固まり張るたびに、二人とも大丈夫かな？と心配していましたが、家族や友人、ご近所様のお助けサポートのお陰様で、楽しいマタニティーライフを過ごしていました。

予定日より少し早め 37 週 0 日で、しかも二人とも普通分娩。かなりきつかったですが、開成 2442 kgに、大成が 2558 kg無事出産。お陰様で産まれてきてくれた安堵の喜びと感動で泣きました。

子育てが始まり、探求心が芽生え、活発になってきた乳、幼児時期は同じ世代の子育てをされているママさん達とよく集まって、お遊び交流会をしました。子育てに役立つ情報収集や、お菓子作り、おもちゃ作りなどをしながら、共にストレス発散し皆で楽しい時間を過ごしていました。

その時の毎日は、日々戦争(笑)髪はボサボサ、お化粧品もしない、オシャレすることもなく常にジャージ姿。そこへ、お仕事終えた主人が帰宅。お互い憔悴しきった姿で、こちらの要望を聞いてほしくて、間髪入れずに話しかけ、結果、案の定喧嘩が始まる。だから、ストレスは溜まるいっぽう。

そんな時いつも、親身になってお話聞いてくれて、共感してくれたのが周りのママ友や、ご近所の方でした。主人や両親が居ないときは、私が小さい時から知っているご近所のおばさんに SOS をだし甘えて、子守寝かしつけ、湯上げサポート、御夕飯の用意、洗濯物取り込み等、本当によくして頂きました。

お陰様でからだも休められたし、美容院にも行けたし、お友達といっぱいお話しして、泣いて吐き出して、笑ってと、この少しの時間でどれだけ心がすくわれたか。

子どもの前で夫婦喧嘩が始まると、子どもはそれを見ているし、わからずとも全て聞いています。どれだけ小さい年齢でも、その時、自分たちの名前が、嫌な言葉や恐ろしい表情や、態度の悲しい光景が強く記憶に残ります。

うちも丁度子どもが小さい時に大喧嘩しました。内容は子育てへのお互いの不満と価値観や、考え方の違いでした。互い譲らずひかず、ぶつけあい大声で怒鳴り愛の喧嘩は、どれだけ怖くて、悲しかったでしょうか。ましてや、自分たちの事でお母さんと、お父さんが言い争っているのは、どれほど恐ろしく切なく悲しかったかと。二人の思いを想像すると、深い後悔の思いと、反省をし、とても残念でなりません。

夫婦とはいえ、元々は他人。生きてきた環境も性格も考え方も違って当たり前だし、また、子どもの人数多少に関わらず、現在自分の周りの環境や価値観の相違で喧嘩を避けるのは、非常に難しいかもしれませんが、お互いを思いやり、相手の立場になって、尊敬し譲り愛、「ありがとう」また、「おつかれさま」と優しい言葉がけをすることで、夫婦円満、子どもにとっても、笑顔あふれるいい環境になるのではないかと思います。

さて、ここからは彼らの習い事についてお話をします。

小さい時から、からだを動かす事が大好きでしたから、2歳～9歳（小学校4年）までまずは全身運動のスイミングから始めました。体力増進だけでなく、風邪をひきにくくなる事や、アレルギーにも強くなるだけでなく、リズム感やバランス力もアップします。さらに、自泳力を付けることで、水の事故から自分の身を守る事もできます。

私自身がスイミングのコーチをし、長年関わってきた経験からもスイミングは本当に良い運動だと思います。ある程度泳げれば、一生の財産になります。

次に、7歳（小学校2年～現在に至るまで）レスリングと、同時期に7歳～11歳（小学校6年）まで、少年野球にチャレンジしました。

レスリングをさせたのは、主人が学生時代にやっていた経験と、2015年わかやま国体が開催されるので、頑張って練習して、成績残して、結果、出場できれば！その先もきっと繋がる！という強い思いからでした。

野球は、礼儀作法と相手を思いやり、全力で頑張り挑むチームワークを！さらに、「投げる、打つ、走る」基本的な動作を強化し、様々なスポーツに役立てることが目標でした。

どちらのスポーツも最初は親が必死で、当の二人はマイペースでしたが、勝ち進むと大きな自信と飛躍になるし、結果が全てではないですが、しっかりとした目標を持ち、

皆一丸となって取り組む姿勢や、強い相手にも立ち向かっていく姿に感動する喜びと、やりがいを学ばせて頂きました。

練習はもちろん試合で、相手が勝気で思いっきり突進タックルしてくるとき、または、剛速球が飛んでくる時、なれない二人は楽しさよりも痛い怖さと、自信のなさの方が大きかったのではないのでしょうか？

その上にコーチに叱られ、親にも叱られ、辛かったかもしれません。

おまけに女の子や、下の子にも負けるわけですから、努力なしでは皆に追いつきません。目標に決めた限り、自主練と補修練習の日々が続きました。

それでもなかなか一勝することができずにいましたが、少しでもできたら、褒め！できるまでまた成長を見守り、念願の一勝目指し！毎日取り組んでいました。そうすると、何も言わなくても二人で走り、トレーニングをするようになり、結果、小学校高学年頃から少しずつですが入賞し、中学2年のころから県外の試合でも優勝できるようになり、高校レスリング部ではインターハイや全国大会で団体戦3位、個人戦も上位入賞から始まり、どんどん勝てるようになってきました。

その後、JOC 全日本選手権大会にて二人揃って準優勝！

さらに、国際大会 JOC アジアカゼット選手権大会にて、大成がフリースタイル 84 kg 級銀メダル！開成がグレコローマンスタイル 76 kg 銅メダルを獲得することができました。

怪我をしたり、思うようにいかなかったりもしましたが、目標だった「わかやま国体」にも大成が出場！開成はボランティアスタッフで頑張りました。

勝つ喜びと並行して、負ける悔しさと、皆で一緒に目指す高い目標！今以上の努力が必要ということ、たくさん経験し学びました。また、試合で一人が勝って、もう一人が負けても、比べられて劣等感を感じない様に、配慮しながら言葉がけをしました。逆に勝ってもダメな試合内容であれば叱咤激励しました。

これらのすべての経験、出来事は、無駄ではなく彼らにとっても、私たち夫婦にとっても、忘れる事のできない大切な宝物になりました。

ある日、二人にとって、「互いの存在はどんな存在？」と聞いたことがあります。口を揃えて、「大切な分身！」といいました。「大成は開成！開成は大成！」「喜びも悲しみも同じに感じる」と言いました。二人は比べられ、競わせる物ではなく、同じ心身一体なのです。小さいころから仲良く遊び、いつも一緒に二人、とても大きく誇らしく思いました。

この喜びは、「自分たち二人を支えて応援してくれる周りの皆様のお陰様」と気づかせ、学ばせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

3つのスポーツの中から、レスリングを選び、これらを通じて教えていただいた事は、「感謝や労いの言葉を伝え、夫婦仲良い家庭環境づくりを！」。

今しかできない子育て、今しか見れない可愛さや、成長があると思いますが、だか

らといってなんでも「自分一人で頑張って乗り切ろうとせずに」、心が疲れてしまう前に、思い切って身近なママ友に話をし、身近なご近所の方を頼ってサポートしてもらいましょう。

では明日も笑顔溢れる楽しいこといっぱいの素敵な日となりますように！また、皆様の健やかな健康と幸せ！ご息様のご活躍ご多幸をお祈りいたします。ご清聴ありがとうございました。

4. アンケート調査の実施

- ◎ 「共育の輪」の取り組みに関するアンケート集計結果
 本学の「共育の輪」事業の取り組みについて

平成 28 年度地（知）の拠点整備事業 「共育の輪」の取り組みに関するアンケート

本学の「共育の輪」事業の取り組みについて、以下のアンケートのご協力をよろしくお願いいたします。

1	本学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っている。	知っている	知らない	わからない
2	本学が、子育て・子育て支援に関し、和歌山県における地（知）の拠点であることを知っている。	知っている	知らない	わからない
3	本学が行ってきた地域貢献としての人材育成について、評価する。	評価する	どちらとも いえない	評価しない
共育の輪「ふたご・みつご大交流会」について				
4	この取り組みは、地域貢献の役割を果たしている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
5	この取り組みは、子育て支援の役割を果たしている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
6	親の学びの場となっている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
7	子どもの育ちの場となっている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
8	学生の学びの場となっている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
9	コミュニケーションの場となっている。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
10	子育て当事者・地域・大学がつながるきっかけとなった。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
11	今後もこのような会へ参加したいと思う。	そう思う	どちらとも いえない	思わない
12	感想などご自由にお書きください。			

ご協力ありがとうございました。

■ 平成28年度「共育の輪」の取り組みに関するアンケート 単純集計表・グラフ - 1

2016年12月 和歌山信愛女子短期大学

回答者数 32

◆ 本学の「共育の輪」事業の取り組みについて

設問内容	知っている	知らない	わからない	無効・無回答
1. 本学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っている。	16 50.0%	15 46.9%	1 3.1%	0 0.0%
	50.0%			46.9% 3.1% 0.0%
2. 本学が、子育て・子育て支援に関し、和歌山県における地(知)の拠点であることを知っている。	15 46.9%	16 50.0%	1 3.1%	0 0.0%
	46.9%			50.0% 3.1% 0.0%

設問内容	評価する	どちらとも いえない	評価しない	無効・無回答
3. 本学が行ってきた地域貢献としての人材育成について、評価する。	24 75.0%	8 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	75.0%			25.0% 0.0%

◆ 共育の輪「ふたご・みつご大交流会」について

設問内容	そう思う	どちらとも いえない	思わない	無効・無回答
4. この取り組みは、地域貢献の役割を果たしている。	30 93.8%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%
	93.8%			3.1% 0.0% 3.1%
5. この取り組みは、子育て支援の役割を果たしている。	30 93.8%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
	93.8%			6.3% 0.0%
6. 親の学びの機会となっている。	30 93.8%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
	93.8%			6.3% 0.0%
7. 子どもの育ちの場となっている。	29 90.6%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%
	90.6%			9.4% 0.0%

■ 平成28年度「共育の輪」の取り組みに関するアンケート 単純集計表・グラフ - 2

2016年12月 和歌山信愛女子短期大学

回答者数 32

設問内容	そう思う	どちらとも いえない	思わない	無効・無回答
8. 学生の学びの場となっている。	32 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	100.0%			0.0%
9. コミュニケーションの場となっている。	31 96.9%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%
	96.9%			3.1% 0.0%
10. 子育て当事者・地域・大学がつながるきっかけとなった。	28 87.5%	4 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
	87.5%			12.5% 0.0%
11. 今後もこのような会へ参加したいと思う。	30 93.8%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%
	93.8%			6.3% 0.0%

平成28年度「共育の輪」の取り組みに関するアンケート

和歌山信愛女子短期大学

枚数	感想などご自由にお書きください。	・自由記述内容
1		・とてもいい事業だと思います。
2		・楽しく過ごせた。
3		・学生さんたちが優しく、一生懸命お世話して下さいましてステキな時間をすごせました。ありがとうございます。
4		・経験談をきけてよかったです。
5		・ふだん多くの双子を見る機会が少ないだけに面白い。・子育てを学ぶ学生にとっても、よい学ぶ場になっていると思う。
6		・先ばいママから色々な事が聞け参考になりました。このような機会がなかなかないのでとても嬉しかったです。学生さんも子ども達とたくさん遊んでいて和やかな気分になりました。
7		・素敵な取り組み、素晴らしい活動に参加させて頂いて、本当に良かったです。又、このような貴重な体験をさせて頂いて、とても嬉しく思います。ありがとうございました。
8		・私も子どもたちも、とても楽しくすごすことができました。参加してよかったです。ありがとうございました。
9		・双子の先輩ママの話が聞けて良かったです。
10		・今回、共有の輪会員として、このようなイベントに参加させて頂き、ありがとうございました。イベントに参加して下さった親子や学生ボランティアの皆さんの良い笑顔に出合えて、本当に良かったです。今後は、更に発展させて、全ての幼児を対象にしたイベントになればいいな、と思いました。
11		・子育て世代のママにとっては学生が子供の相手をしてくれる事で手が空き、その時間を共有できるママ友の交流にあてられて、学生にとっては子供と触れ合えるいい時間になり双方プラスのすばらしい場であったと思います。こういう機会を今後定期的に行っていく事でさらに地域・社会が広がってよりよいものになると思います。今日講演頂いた辻先生の『ヨガ教室』など子供を預けてまではなかなか行けないママさん対象に、同じスペースで子供を見て頂けたらとても参加しやすいと思います。この時期って体を動かし汗をかく事ないんですよね。私もそんな場がこの時期にあったら絶対参加したかったです。畑中先生の合唱・音楽的なイベントも楽しそう。学生さんの力を借りたらもっともっとうろんな企画ができると思います。
12		・今回は土曜日にしてくれたので、仕事が休みなので参加出来て良かった。
13		・ふたご以外の親子の交流会もしてほしい。
14		・先輩ママさんの話をきかせて頂く、良い機会になりました。
15		・1人で多胎を連れ出すことは、色々な困難があるので、学生さんが遊ばせてくれてとても助かりました。
16		・他の友達のお話を聞けてすごく役に立ちました。
17		・たくさんあそべてよかったです。学生の方々がたくさんいて下さっていたので、安心して他の方々と話せました。人形劇もたのしかったです。
18		・共育の輪のみなさんに助けていただき本当にありがとうございます。

6. まとめ

「共育の輪」の取り組みの実践は2年目となり、平成29年1月現在の会員数は40名となった。和歌山県南部の会員登録者も増加傾向にあり、共育の輪ネットワークは県内全域に広がりつつある。『共育の輪』専用ポータルサイトを刷新し、利用しやすい環境を整えることができた。それにより、会員への情報発信や情報共有が活発となり、ネットワークの強化につながった。

昨年度のネットワーク会議やアンケート結果より、「支援者の学びの機会が必要である」ことが課題となった。日常の子育て支援に関わる際、自分のアドバイスや関わりがそれでよいのかなどの不安や、常に支援者は支援者の悩みがあるとのことであった。会員からは、支援者としての資質向上の機会が必要、また同じ立場の会員と悩みを共有できることが支援を継続していくためのモチベーションとなるとのことであった。本年度は、共育の輪会員を対象とした学習会を2回開催することができた。第1回目は「ひとりひとりが主役になれる」体験と講演、第2回は「子どもたちの豊かな未来のために私たちができること」講演であった（参加者の感想は上記）。学習会を通して、人とのつながりの大切さや、自分たちができることなどについて考えを深める機会を得ることができ、また参加者同士の絆も深めることができたのではないかとと思われる。

共育の輪ネットワーク会議は8回開催した。ふたご・みつご大交流会の企画運営を中心としながら、情報交換と支援者の想いや悩みも共有し話し合う場となった。この会議を通して、実際に同じ立場の支援者同士が対面し、話し合いを深めることにより関係性を深めることができたと思われる。また、ネットワークの強化を目的のひとつとして、昨年度に引き続き「ふたご・みつご大交流会」を実施した。会員、学生、木のおうちスタッフ、教員が参加して取り組んだ。企画から学生も参加し、子育て支援者に関わる中で、子育てや親について知る機会となり、コミュニケーション力を高めることができた。また、会員や保護者から励まされ頑張りを認めてもらうことにより、学生自身の自己肯定感を高めるきっかけになったのではないかと考える。当日は、和歌山大学と和歌山県立医科大学の学生もスタッフとして参加した。和歌山県内の大学生が力を合わせて子育て支援に関わることで、地域の学生同士の交流と、地域貢献につながる良い機会となった。

「共育の輪」の取り組みに対するアンケート結果について以下に述べる。本学の「共育の輪」事業の取り組みについては、「地域のための大学である」「子育て・子育て支援に関しての和歌山県の拠点である」の項目は、ほぼ半数が「知っている」、半数が「知らない」という結果であった。本アンケートは、「ふたご・みつご大交流会」の際に実施したため、はじめて本学の取り組みに参加した親子も含まれていたこと、広報の段階で「ふたご・みつご大交流会」を強調したため、本学の取り組みでもあるというアピールが弱かった結果だと考える。

今後の課題として、本学の取り組みをより知ってもらえるような広報の工夫が必要であることが明らかとなった。「ふたご・みつご大交流会」に関しては、地域貢献や子育て支援の役割、親の学びと子どもの育ちとなっていることに高い評価を得た。また、「共育の輪」の取り組みについては、学生の学び、コミュニケーションの場になるについては、約97%以上が「そう思う」、地域がつながるきっかけとなるについては約88%が「そう思う」という高い評価を得た。「今後も参加したいか」については、約94%が「そう思う」であった。本年度のアンケート調査の結果より、大学と地域が連携していることをさらに発信していく工夫が必要であるといえる。

以上、「共育の輪」を通して、地域とのつながりは着実に深まっている。顔と顔が見える関係性をより深めながら、次年度は地域への発信を工夫して、共育の輪ネットワークの更なる強化を目指したいと考える。

2. 『共育の輪』専用ポータルサイトの刷新と運用 ― ⑥

a. 平成 28 年度計画

『共育の輪』専用ポータルサイトの運用では、スマートフォンによる利用機能や、SNS 的機能の追加を含めたサイトの刷新、内容整備、維持管理、評価、改善を行う。

b. 実施内容

専用ポータルサイトへの導線である本学ウェブサイトインデックスページからスマートフォンへの最適化（レスポンシブ化）を行い、利用者の利便性を確保した。

従来の専用ポータルサイトでは、コメント投稿に対しての返信機能が無く、独立した投稿として表示されるため、双方向のコミュニケーションが難しい面があった。改修においては、コメントへの返信機能（スレッド機能）を追加し、ビジュアル的にも双方向のやりとりが可能となるようシステムを強化した。

c. 成果・自己評価

レスポンシブ化により、スマートフォン閲覧時の可読性が向上した。『共育の輪』専用ポータルサイトの刷新・運用だけではなく、「きょう育の和センター」の各種広報においても情報発信・情報へのアクセスが容易となった。

専用ポータルサイトでは、コメントのスレッド化により、会議やイベントの呼びかけに対して返信を行うことが可能となるなど、一方通行の情報提供から双方向のコミュニケーションが成立。子育て・子育てネットワーク「共育の輪」が主体となって実施した「ふたご・みつご大交流会」の実施準備・会議の呼びかけなどにおいて有益であった。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 『共育の輪』専用ポータルサイトスマートホンキャプチャ

お問い合わせ 交通アクセス 入試資料請求

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

子育て・子育て支援ネットワーク
共育の輪

ホーム >>
子育て・子育て支援ネットワーク共育の輪

子育て・子育て支援ネットワーク共育の輪

共育の輪

子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」構築に向けた実践的研究を行います。

地域 NPO・NGO
行政 地域の人の
保護・教育機関 子育て当事者
共育の輪

1. 従来の取り組みを発展させ、地域の子育て支援に関わる行政、NPO・NGO、専門機関、地域、子育て当事者、大学を繋げるネットワーク形成に向けた実践的研究を行います。そして、縦と横の繋がりの組織化を図り、各機関が連携した研究の促進や、地域の活性化を目指した子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」の構築を図ります。

2. 本学ホームページ内に「共育の輪」ポータルサイトを開設し、情報収集及び研究成果を提供します。

共育の輪 会員専用ページ

会員登録はこちら

Campus Guide
資料請求

サイトマップ サイト利用上の注意
プライバシーポリシー リンク

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college
〒640-0341 和歌山市相取702番2
TEL:073-479-3330 FAX:073-479-3321

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム メニュー 資料請求

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 『共育の輪』専用ポータルサイト導入ページスマートホンキャプチャ

お問い合わせ 交通アクセス 入試資料請求

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHINAI WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

信愛なら、一人ひとりの能力を最大限に伸ばします

オープンキャンパス
OPEN CAMPUS

学科・専攻案内

保育科

生活文化学科
生活文化専攻

生活文化学科
食物栄養専攻

News & Event お知らせ

2017/02/06
木のおうち&子育て広場 Newsレター
Vol.12 (2月・3月)

2017/01/23
陶芸体験作品の引き渡しと展示について

2017/01/10
生活文化学科食物栄養専攻 専任教員（生化学・栄養学分野）の公募について

2016/12/27
和歌山市との「大学設置に係る基本協定書」締結について

一覧を見る

各学科・専攻のニュース一覧を見る

保育科 生活文化専攻 食物栄養専攻

きょう(教・共・郷)育の和
地(知)の拠点整備事業

信愛女子短期大学は、(財)短期大学基準協会の適格認定を受けています。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■COC 取り組み紹介ページスマートホンキャプチャ

お問い合わせ 交通アクセス 入試資料請求

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム > ニュース・イベント > 保育科芝田ゼミ「秋のお芋掘り」を開催しました

保育科芝田ゼミ「秋のお芋掘り」を開催しました

2016年10月19日（水）保育科2年生・芝田ゼミの学生達が木のおうち利用者を対象に「秋のお芋掘り」を開催し、学内の畑で春から育ててきたサツマイモを8組の親子と共に収穫しました。

「秋のお芋掘り」は実践的教育プログラムとして、自然豊かな和歌山地域で保育者を目指す学生達にとって自然の中で子どもとふれあい、将来の遠足や園内菜園での活動を見据えた保育実践の場です。

小さな子ども達も汗をかきながら土を掘り、顔よりも大きなサツマイモを抱えて歓声をあげていました。

和歌山信愛女子短期大学
WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

〒640-0341 和歌山市相取702番2
TEL:073-479-3330 FAX:073-479-3321

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム メニュー 資料請求

3. 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究と『地域志向教育研究奨励金制度』の運用 — ⑦

a. 平成 28 年度計画

子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究では、調査・研究の実施、研究成果に対する評価を行う。また、『地域志向教育研究奨励金制度』の運用では、奨励金支給、次年度公募、選定委員会開催、支給者決定を行う。

b. 実施内容

平成 28 年度の『地域志向教育研究奨励金制度』による教育研究助成は以下の 5 テーマである。

○「和歌山県における地域振興策の現状と課題」

研究代表者：伊藤 宏（生活文化学科生活文化専攻）

○「アンガーマネジメントに焦点を当てた和歌山県内の特別支援教育に携わる教員への支援の効果に関する検討 —特別な教育的支援ニーズのある子どもへの発達支援の一環として—」

研究代表者：村上 凡子（保育科）

○「和歌山における移行対象の質的研究」

研究代表者：森定 美也子（保育科）

○「地域の子育て広場に通う母親の子育てに関するニーズ調査 ～ひろば型に着目して～」

研究代表者：森下 順子（保育科）

○「和歌山県産の温州みかんジュースを使った若年層に対する健康事象の関わりについて」

研究代表者：若林 一花（生活文化学科食物栄養専攻）

これらの研究については、平成 29 年度までに、学術論文または学会発表等で公開される予定である。

なお、平成 29 年度の『地域志向教育研究奨励金制度』募集については、きょう育の和センター長より平成 29 年度 1 月に告知を行い、平成 29 年 3 月に最大 5 件として選定を行う予定である。

c. 成果・自己評価

5件の研究は、それぞれ和歌山の地域課題や地域特性を活かした研究テーマとなっており、精力的に研究活動を行ってきた。最終報告は平成28年度末であるが、中間報告および、平成28年9月11日（土）のオープンキャンパスで行われたミニシンポジウム（ポスター発表）において着実な成果を上げているものと評価できる。

なお、予算の執行は本学の規程に基づき、適切に処理されている。

書式 5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 生活文化学科生活文化専攻

氏名 伊藤宏

和歌山県における地域振興策の現状と課題

1 目的

和歌山県は2014年に出された「日本創成会議」の推計によると、2040年に「消滅可能性都市」の割合が76.7%（全国で第7位）となっており、地域の過疎化、限界集落化が深刻となっている。実際に2016年4月現在、和歌山県の9市20町1村（計30市町村）のうち、1市13町1村（計15市町村）が「過疎市町村」、1市1町（計2市町）が「過疎地域とみなされる市町村」、1町が「過疎地域を含む一部過疎市町村」となっている（図1参照）。その危機的状況を打開すべく、県・市町村をはじめとした自治体を中心に様々な地域振興策が講じられてきた。本研究は、和歌山県において現在取り組まれている地域振興策の現状を検証するとともに、そこから見えてくる様々な課題を整理し、今後の方策についての提言を模索するものである。特に、日本有数の農林水産業県である和歌山県の特色を考慮しながら調査・研究を進めていくものとする。

地域振興策は、これまで主に自治体レベルあるいは民間の商工会議所や青年会議所などのレベルで数多くの計画が出されてきた。本研究の特色は、大学と地域社会との関連に基づき提言を模索することにある。具体的には、保育科・生活文化学科（生活文化専攻・食物栄養専攻）における教育・研究成果を地域振興策にいかにか活かせるかに主眼を置く。また、主に「地域社会学」の授業における学生へのフィードバックを通じて、本学の学びの中に地域振興策への関わりを取り入れ、学生の地域社会に対する理解と関心を高めていくものとする。さらに、研究成果を和歌山県における地域振興策を俯瞰するための基礎資料として、提言と合わせて関係機関等に提供することも考えている。

2 実施方法

4月～5月 文献等によるこれまでの地域振興策、先行研究のリサーチおよび資料収集

6月～7月 自治体や民間団体への聞き取り調査（県庁や市役所などを中心とする）

8月～9月 実際の取り組みに関するフィールドワーク①

和歌山県の「わがまち元気プロジェクト」で取り上げられている事業について、現地での進捗状況や取り組みの成果についてリサーチをする予定である。行く先としては、久度山町、有田川町、由良町、湯浅町、田辺市、すさみ町、古座川町など南紀エリアを中心とした自治体を想定している（10日〔回〕程度）。

10月～12月 「地域社会学」を中心とした授業における学生とのディスカッション等

外部講師を招いてのワークショップを企画。県の担当者、およびフィールドワーク①において特に学生にとって有意であると思われるプロジェクトの担当者を5名程度、2～3回に分けて招くことを想定している。

1月～2月 実際の取り組みに関するフィールドワーク②

フィールドワーク①におけるリサーチ結果等を踏まえて、和歌山市周辺および紀南地方でそれぞれ1～2ヶ所に絞り込んで、成功例あるいは今後の展開が期待される例についてさらに詳細なリサーチを行う（5日〔回〕程度）。

現時点では、自治体や民間団体への聞き取り調査までを終了しているが、当初予定に対して約1ヶ月、進行が遅れている。

3 結果

最初に、先行研究を含め、地域振興に関連する文献や論文のリサーチを行った。先行研究については、例えば山本佳世子「中山間地域におけるe-ビジネスによる地域振興に関する研究:熊本県・五木村, 徳島県・木頭村, 和歌山県・北山村を事例として」(日本社会情報学会全国大会研究発表論文集 2005)のように、和歌山県の特定の自治体について調査・研究をしたものが見出せたが、和歌山県全体を対象としたものは見当たらなかった。そこで、和歌山県に限らず全国的な地域振興の取り組みに関する文献(『これからの地域振興—市町村合併を踏まえて—』財団法人日本都市センター2008、『地域ブランドと魅力あるまちづくり—産業振興・地域おこしの新しいかたち』佐々木一成 2011、『農の6次産業化と地域振興』熊倉功夫・米屋武文 2015、『地域振興としての農村空間の商品化』田林明 2015 他)や、政府の「まち・ひと・しごと創生本部」の取り組み状況などを参考に、地域振興をどのように捉えるかについての視点の明確化を図った。その上で、和歌山県に必要な地域振興策を

- ・新たな産業の創出や既存産業の立て直しによって、経済的な再建を図り雇用の創出や維持を試みること。
- ・人口流出(特に若年人口の流出)に歯止めをかけると同時に、新規住民(特に子育て世帯)の呼び込みを試みること

の2点に絞って考察していく方針を立てた。

また、平成27年国政調査結果の和歌山県速報などのデータから、人口減少数上位が順に和歌山市、田辺市、紀の川市、海南市、橋本市で、必ずしも過疎市町村と一致していない一方で、減少率上位が順に高野町、すさみ町、九度山町、紀美野町、由良町と、いずれも過疎市町村が占めていることが明らかとなった。和歌山県が極めて厳しい状況に置かれているということと同時に、過疎地域に限らず市部においても地域振興策を考えていく必要性があることがわかった。

以上の点を踏まえて、まずは県としての地域振興策の全体像を把握しようとしたが、和歌山県庁では各部局での取り組みを総合的に把握している部署が不明確であった(これは、後に問題点として指摘する必要がある)。そこで、和歌山県に必要なと考える地域振興策に直接的に関わっている部署から聞き取り調査を開始した。

まずは地域政策課で平成21年度から取り組んでいる「わがまち元気プロジェクト」について説明を受けた。このプロジェクトは地域固有の資源を活性化に役立てようとする市町村を総合的に支援するもので、事業主体は市町村等、支援対象は先進地調査やプロジェクトの立ち上げ経費やPR経費などとなっている。支援期間は1プロジェクトにつき原則3年間で、支援限度額は500万円(または事業費の3分の1以内のいずれか低い額)となっている。県として平成28年度は2千万円の予算が組まれた。平成28年4月末現在で18のプロジェクトが取り組まれてきた。6プロジェクトが進行中で、他は既に支援が終了している(表1参照)。

続いて過疎対策課で移住・定住支援を中心に説明を受けた。過疎対策課は過疎集落支援総合対策等を担当する振興班と、移住・交流推進や空き家活用等を担当する移住推進班に分かれている。過疎集落支援総合対策は、平成22年を「過疎対策元年」と位置づけ新たな取り組みを実施してきた。過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業(国のまち・ひと・仕事創世総合戦略の「小さな拠点」の形成関連事業)では、集落ネットワーク圏を支える中心的な組織(地域運営組織)への支援事業に平成28年度は4億円の予算(案)を確保している。これまでに、過疎集落再生・活性化支援事業として「三川元気夢来(みかわげんきむら)プロジェクト」(田辺市・三川生活圏で平成23~25年度実施、総事業費約2千万円)などの実績がある。一方、移住推進では、東京・大阪における移住相談会やセミナーの開催、現地体験会などによって、県外からの移住を促す活動を行っている。また、移住者起業支援事業として起業に当たって最大100万円の補助金を出したり、移住推進空

き家活用事業として改修補助金として最大 80 万円の補助をするなどしている。平成 27 年度は 113 世帯（223 人）が和歌山県に移住していることなどが明らかとなった。

今後は、実際に取り組まれたプロジェクトの実施状況等について、現地自治体（市町村）に出向いて調査を重ねていく予定である。また、後期間講科目「地域社会学」において、関連する内容の講義において県の担当者に外部講師としての協力を取り付けた。開講に向けて、具体的な人選等を含めて検討を進めていくものとする。

4 その他
特になし

図 1



表 1

わがまち元気プロジェクトの取組状況一覧				
(H28 4月現在)				
No.	実施団体	事業名	期間	取組内容
1	九度山町	九度山町「真田・紀州九度山」まちづくり (82,895千円 うち県5,000千円)	H21～H23	「真田ブランド」を活用した九度山オンリーワン観光の創出 「真田」を体験できる観光まちづくり、特産品や観光商品づくり
2	すさみ町	すさみ町「イノブタ」を核にした新産出産業の創出 (38,714千円 うち県2,000千円)	H21～H23	イノブタの生産能力の拡大、ハム・ソーセージなど加工品の開発、畜による観光商品づくり
3	柳井市	「花のまち柳井」ステップアッププラン (35,610千円 うち県4,300千円)	H21～H28	花卉生産業者の所得向上と花卉と関連を資源とした観光産業の創出
4	由良町	「由良・白崎海岸」観光まちづくり (24,138千円 うち県3,000千円)	H21～H23	観光業・農業・漁業・商業が一体となった観光のまちづくり 体験型商品のメニュー化、教育旅行誘致、地産地消の推進や特産品づくり
5	みなべ町	「みなべの海」底上げ戦略の推進 (33,171千円 うち県3,000千円)	H21～H23	消費者の嗜好・アイデアを活かした加工品の開発・販売促進と若年層への観光消費拡大PR
6	白浜町	「真紀白浜・川添部の発展と白浜観光能力アップ」 (32,547千円 うち県3,000千円)	H21～H23	「川添部」のブランド力向上と白浜観光の新たな魅力創出 川添部オリジナル新商品開発、ホテル・飲食店での川添部の提供
7	湯浅町	湯浅まちなか・にぎわい復興プロジェクト (343,573千円 うち県3,000千円)	H22～H24	伝統的な観光の保全と、まちなかで「多く」「食べる」「体験する」仕組みの構築による観光産業の創出、湯浅グルメ開発
8	古座川町	古座川町エコツアーリズムによる地域産業の創出 (47,867千円 うち県3,000千円)	H22～H24	エコツアーリズムの整備づくり、古座川流域ブランド商品、古座川ファンづくり
9	紀の川市	「真田のまち紀の川市」産業6次産業化プロジェクト (104,304千円 うち県4,983千円)	H22～H24	農業者や産物加工グループの所得向上と地域もんごろうへの買い物を地産地消食品に誘導する仕組みを構築
10	田辺市	田辺市 豊野古道 まちの「平安の郷」プロジェクト (42,704千円 うち県3,000千円)	H23～H25	近畿・野中地域の観光空間を整備し、滞在型観光のさらなる向上を図り、地域の特色を活かした観光産業の創出を図る
11	有田川町	有田川あらびきの景観保全と地域おこしプロジェクト (204,403,834千円 うち県3,000千円 1)	H24～H26	あらびき周辺の景観文化の景観調査を基盤とした観光地域への誘客を促進し、滞在型観光の促進と地域内消費を喚起
12	上笠田町	上笠田町スポーツ復興ステップアッププロジェクト (504,41,289千円 うち県3,000千円)	H21～H27	団体開催や遠道遠路開催を支援とした特徴的な観光活動を展開することでスポーツセンターの利用率増加と地域内消費を喚起
13	紀の川市	紀の川市フルーフ・ツーリズムの発展によるファン獲得プロジェクト (計画 17,809千円 うち県1,000千円)	H26～H28	フルーフに重点を置いたグリーンツーリズムの展開により観光の広げと体験を覚え、観光客の増加、リピーターの獲得を目指す
14	津本町	津本町東エリア「豊野・宇佐路」観光アッププロジェクト (計画 100,429千円 うち県3,000千円)	H28～H28	「くじらふれあいの里」を核に、はしもと河内エリアに広がる景観を核にブランド「定歩文化(こいね)」として特産品開発し、エリア全体の観光アップを図る
15	南紀エリア(田辺市他)	南紀エリア「広域連携スポーツ合創推進」プロジェクト (計画 12,570千円 うち県4,100千円)	H28～H28	南紀エリアの広域連携のもとスポーツ合創の創出に取り組み、地域の活性化を図る
16	古座川町	「山の恵み」として活かす！「古座川ジビエ」プロジェクト (計画 32,885千円 うち県3,000千円)	H27～H28	古座川町農産物加工施設の整備を契機に、シス・レンを「山の恵み」として捉え、安全・安心の「古座川ジビエ」ブランドを確立、農産物の付加価値への経済波及効果向上を目指す
17	紀の川市	産山の観光価値「紀の川市「川添げんき村」観光PRプロジェクト」 (計画 25,395千円 うち県1,987千円)	H27～H28	産山の暮らしや風景が楽しめる新たなまちづくりと特産品の活用による産物づくりの創出を図り、地域内からの観光と農産物の販売を促進し、「川添げんき村」を創出する
18	河内町	「いんみの観光価値」【地産地消】プロジェクト (計画 20,080千円 うち県1,000千円)	H28～H28	地産品の高い価値と向い売り出す産物の加工品開発を目指す。併せて、SA(サービスエリア)とホテルを核に「地産地消」を推進し、観光消費を促すことにより「いんみの産」のブランド創出を図る。

書式5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学女子

氏名 村上 凡子

共同研究者

所属

氏名

研究課題名

アンガーマネジメントに焦点を当てた和歌山県内の特別支援教育に携わる教員への支園
の効果に関する検討

－特別な教育的支援ニーズのある子どもへの発達支援の一環として－

1 目的

本研究の目的は、知的障害のある子どもたちへの特別支援教育に携わっている教員を対象とした訪問型個別事例相談を実施し、アンガーマネジメントに焦点を当てた指導助言を行い、課題のある生徒の行動の変化を検証することである。

2 実施方法

研究協力校（以下、協力校）を訪問し、個別の事例に対するアンガーマネジメントに焦点を当てた支援を教員が実践できるよう、教員へのコンサルテーションを行う。協議のもと、本研究の対象となる事例の決定を依頼する。その事例について、校内で策定されている個別の指導計画に基づいた支援の一環として、アンガーマネジメントに焦点を当てた指導支援計画を教員との協議に基づいて策定する。関係教員に対して、実践に関する研修を事前に行うとともに、教材も筆者が準備をする。支援の効果測定については、教員による精査の結果、提案したCBCL（子どもの行動チェックリスト, Child Behavior Checklist）を用いることで了承が得られた。このリストは世界標準として子どもの行動発達支援の領域において一般的に用いられているリストの日本語版である。

3 経過

3.1 年間の支援計画、個別の指導計画立案までの経過

第1回訪問の6月10日に、関係教員と日程の打ち合わせを行った。訪問時の協議の参加者は、事例の主担当教員2名、研修部教員2名の合計4名であった。支援の対象となるのは、学校全体での協議を通して、2つの事例となった。その後、8月の2回の訪問による協議により、上述のアンガーマネジメントに焦点を当てた個別の指導計画を策定した。その際、協力校で策定されている個別の指導計画の全体も提示していただき、詳しい情報を得ることができた。教員に対しアンガーマネジメントの手法に関して指導助言も行った。今後、来る10月に支援方法の振り返りのための協議により、必要に応じて計画の見直しを

行う。来年1月10日に、個別の実践の評価を行うことになっている。

支援に活用するためのイラスト教材の制作は、本学図書館のポスター制作でデザインの才能を発揮している生活文化専攻2年山本真匡さんに依頼した。8月の1回目の訪問で見本を提示したところ、教員から高い評価を得た。8月末の2回目の訪問に間に合うよう、事例に即した場面のイラスト制作を依頼した。完成版を2回目訪問当日提示した。その際も、イラスト教材活用の意義に関する制作者の理解度、アンガーを抑えきれない当事者の内面に共感し、温かい思いやりの心が溢れる人物描写力について賞賛の声があがった。

3.2 支援の仮説と目標

筆者は過去に、知的障害のある子どもたちを対象とした特別支援教育に携わる教員が、子どものアンガー表出行動に関して、日頃どのような点に苦慮しているのかについて調査した(村上, 2015)。その結果、表1に示すように、①言葉の理解と表出に課題のある子どもへの対応の困難、②暴言を向けられた体験、③トラブル時において子どもの興奮を収めることの困難という順序で、経験した教員の人数に差がみられた。

また、これらの3つの項目は相互に関連し合っていることが検定により示された。

質問項目	男性教員N=22		女性教員N=47	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
話し言葉による表現能力に課題のある生徒への対応に、割しきを感じたことがある。	27	(84)	42	(89)
生徒に対して何らかの支援をしている際に、当該生徒から暴言を向けられ、対応に苦慮したことがある。	18	(56)	33	(70)
生徒間暴力事象が生じている際の初期対応がうまくいかず、より生徒を興奮させてしまったことがある。	11	(34)	17	(36)

χ²検定の結果人数の偏りに有意な差 項目1>項目2>項目3

表1 アンガーマネジメントに関する教員の経験者の人数と割合

3つの項目のうち、最も経験の多い項目として特定された言葉の理解と表出の困難は、知的障害のある子どもたちに共通してみられる点である。田ノ連の心理学者ルリヤ(1969)は、言葉のもつ機能として行動調整機能をあげている。知的障害のある子どもたちは総じて言語能力の領域に障害を抱えるとされる。したがって、当事者の子どもたちは、言語の行動調整機能も十分に身に付けていないと考えられる。ルリヤ(1969)によれば、図1に示すように、行動調整機能は、周囲の他者からの言語教示、自分への外言、自分への外言という3つの段階を経て6歳頃に完成する。この過程の最初は周りの大人から、禁止や望ましい行動について口頭で指示をされる。その次に、その指示を自分で発して行動調整を行う。最終的に言葉を発せず内言の状態での自己の行動調整を行うというものである。この発達過程は定型発達児におけるものである。

知的障害児においては、最初の他者からの言語教示によって行動調整をしている段階に止まっている場合もあると考えられる。もしくは、自分への外言で行動調整することが十分発揮できない場合もあると考えられる。そこで本研究においては、教員との協議の結果、第2段階の「自分への外言」を実践するよう支援することによって、当該の子どもたちのアンガーマネジメントの能力の向上が生じるという仮説を立てた。

これら3つの項目が相互に関連し合っていることから、話し言葉に困難を抱える生徒への対応に焦点を当てた実践が、他の2つの項目にも肯定的な影響を生じさせることが期待できる。その効果とは、生徒が暴言を発すること、興奮を抑えきれないことに関して自己

調整を行うことに対するものである。



図1 Figure 3 行動調整機能の発達

ルリヤ（松野・関口訳，1969）の説をもとにした前田（2007）の図より

3.3 2つの事例の個別の指導計画の概要

協力校の教員からの2つの事例に係る情報提供を踏まえて、教員との協議の上、策定された計画の概要を個人が特定されない範囲で以下の表に示す。指導計画の原案作成教員は、当該生徒の担任で、日常的に密に関わりのある担任である。両教員からの聞き取りでは、生徒がアンガーマネジメントに失敗した際に、教員に向けられる言動や行動に苦慮していることが明らかになった。今回の研究に関して、意義を十分に理解し、アンガーマネジメントに特化した支援の必要性を認識されていることから事例を提供して下さることが伝わってきた。

表1【事例A】 中学3年 男子 小川教員原案作成

実態	人に関わるときに加減がわからず相手に苦痛を与えるほどの暴力をふるうことがある。そこで、目標は、①身体の本年から、ストレスマネジメントの方法を身に付ける。②自分のことばで自分に言い聞かせること、つまり、自分への外言を発して行動調整ができるようになるという2点に設定した。	支援の手立て	①身体ストレスマネジメントに焦点を当て、言語化しながら、こぶしを握ってストンと力を抜く方法を身に付ける。 ②昼休みに過ごす場所について、事前に教員に知らせることができる。その際、過ごす場所の候補の写真カードの指さしか、「言葉」での発信を用いる。 ③場面を想定し、教員とのやりとりを通して、物や人に触れる力を、自分の外言でコントロールできる。
	短期目標	主な支援場面	具体的な支援
自立活動	援助に沿って、こぶしを握ってストンと力を抜くことができる	自立活動の時間に定期的に行う。	あぐら座位で、こぶしをにぎり、力を抜くと同時に手を広げ、肩の力を抜く、指導者は言葉をかけること、肩に手を添え、本人が力を抜く援助を行う。自分への外言への支援を行う。
	粘土の塊を押す力の強さを調節できる。	学習時間の個別指導の場面	粘土を押すとへこみができることを使用し、凹部分を3段階で示した視覚的教材を用い、「思いっきり」のレベル3の段階の力を、何もないゼロレベルの間の力加減を体験する。
昼休み	過ごす場所を事前に教員に発信してから、移動する。	昼休み	本人が好んでいる3つの場所、運動場、パソコン室、図書室等の写真を用意し、その日に行きたい場所を指さし行動、あるいは言葉で発信し、その後移動するよう支援を行う。

表2 事例B 中学3年 女子 遠藤教員原案作成

実態と本年度の目標	①イライラした気分を教員に抱きつくこと収めている。教員に抱きつく場面で、教員が苦痛を感じるほど強い力を入れる。この点を改善するため、人に関わるときに身体接触の力加減がわかるようになる。 ②特定の人への否定的な言動を減らす。		支援の手立て	①力加減がわかるように視覚的に示す。 ②視覚的教材を用いたソーシャル・ストーリーの学習を通して、望ましい行動について教員とやりとりしながら、考えてみる。
	短期目標	主な支援場面	具体的な支援	
自立活動	援助に沿って、抱きつく強さの程度がわかる。力の調節が自立的にできるようになる。	自立活動の時間に定期的に行う。	教員とのやりとりをもとに、様々な強さで抱きつくことを経験し、互いに気分がよい力加減を知る。	
	ソーシャル・ストーリーを理解し、適切な言葉を考える。	自立活動	イラスト教材で示されたソーシャル・ストーリーをもとに、様々な対応を考えるように提案する。	

4 その他

【引用文献】

村上凡子（2015）特別支援教育に携わる教員を対象としたアンガーマネジメント・プログラムの検討
ルリヤ，A，R（松野豊・関口昇訳）言語と精神発達 明治図書出版

【別添資料】 使用する視覚的教材

事例Bを対象とした「がまんできた編」及び「がまんできなかった編」のイラスト教材である。描かれている場面は、同級生が刺激となり、その反応として、行動調整に失敗し、アンガー表出行動をとってしまうものである。このように、一連の場面を物語として示し、行動の振り返りを行い、コミュニケーション能力、対人関係能力、行動調整能力の向上を図る支援方法はソーシャル・ストーリーと呼ばれる。協力校の教員は、専門性が高く、他の生徒を対象としてソーシャル・ストーリーを用いた支援の実績がある。今回の教材は、アンガーマネジメントに焦点を当てた教材である。

イラスト制作者は、生活文化専攻2年山本真巨さんである。

注1) 報告書の規定は、信愛紀要に準じる。

注2) 中間報告書の提出期限は、9月11日迄とする。

書式5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学

氏名 森定美也子

共同研究者

所属 東京国際大学大学院

氏名 王イチン

研究課題名 移行対象の質的研究

1 目的・方法

移行対象とは、ウィニコットが提唱した「乳幼児が特別の愛着を寄せる、最初の“自分ではない”所有物」という概念である。毛布、テディベアなど、乳幼児がそれを肌身離さず持ち歩き、それがないと著しく不安を感じるものである。この現象は、単に子どもがものに対して執着するという意味だけではなく、子どもの情緒発達過程を促進する役割をもち、親からの分離と自立を表す現象として心理臨床的に重要な概念である。

今回の研究では、乳幼児の母親に対する調査研究を行う。移行対象の果たす役割や意義を、東京、和歌山の保育園、和歌山信愛女子短期大学の子育て広場で行う調査結果と、台湾で行った調査結果との比較を通して分析していく予定である。

王が台湾で乳幼児の母親 164 名に移行対象の質問紙と面接調査を行ったところ、移行対象の発現率は 68.3%であった。しかし、日本の先行研究においては、働く母親と働いていない母親による移行対象の出現の比較研究はまだ存在しておらず、台湾のデータと直接比較することができない。そのため、本研究は台湾で使用した質問紙を用い、東京都と和歌山において、質問紙調査を実施する。生育環境要因や母親の養育態度を検討しながら、働いている母親と働いていない母親の子どもにおける移行対象の出現率の変化について分析を行う。さらに台湾の結果とも比較して検討する。

2 これまでの経過

日本における「働いていない母親」に対する調査を行う場所として和歌山信愛女子短期大学の「きょう育の和センター」、働いている母親に対する調査は、東京と和歌山の保育園にお願いした。東京では練馬区の「最勝寺みのり保育園」、和歌山では紀の川市の「レモン保育園」と日高郡由良町の「由良子ども園」に調査をお願いした。それぞれ 150 部程度、計 450 部の質問紙が届き、これから後期の森定ゼミのテーマとして分析を行う予定である。

書式5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学

氏名 森下 順子

共同研究者

所属 奈良教育大学

氏名 厨子 健一

研究課題名

地域の子育て広場に通う母親の子育てに関するニーズ調査
～ひろば型に着目して～

1 目的

本研究は、和歌山県をはじめ全国にあるひろば型の質向上を目指し、前段階としてひろばに通う母親のニーズ、支援者の課題、ひろば型の在り方を明確にするためにヒヤリング及びニーズ調査を実施することを目標とする。

2 実施方法

本研究は、第Ⅰ～Ⅲステージで進める（図参照）。第Ⅰステージ：先行研究をレビューする段階（理論的研究ステージ）、第Ⅱステージ：質問紙調査を実施する段階（実証的研究ステージ）、第Ⅲステージ：発見事実の理論的・実践的含意を導き出し、提言を試みる段階（総括ステージ）、以上3ステージである。

第Ⅰステージでは、わが国における子育て支援拠点事業に関する先行研究をレビューする。レビューする目的は、①これまで子育て支援拠点事業におけるニーズ調査が実施されてきたか、②ニーズ調査を行う際、必要とされる項目は何か、2点を明確にするためである。

第Ⅱステージでは、ひろば型で活動している支援者の聞き取りも加えて、ニーズ調査の質問項目を精査する。調査は、和歌山県内のひろば型に参加している母親約300名に実施する。

第Ⅲステージでは、研究結果を公表することで、今後のひろば型の子育て支援を探る基礎資料となる。学生教育においては、和歌山県内の子どもをもつ母親がもつニーズを示すことで、学生が保育者として現場に出た際の支援に役立つものになる。



図 研究進行の手順

<つどいの広場事業とは>

つどいの広場事業は、主に乳幼児（0～3歳）をもつ親とその子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、交流を図ることや、ボランティアを活用しての育児相談などを行う場を身近な地域に設置することにより、子育て中の親の子育てへの負担感の緩和を図り、安心して子育て・子育てができる環境を整備し、もって、地域の子育て支援機能の充実に資することを目的とする。

（厚生労働省 2012年）

<平成27年度 地域子育て支援拠点事業実施状況>（厚生労働省）

① 実施数

- ・全国 6818か所
- ・和歌山県 52か所
- ・和歌山市 13か所

② 0～2歳人口あたりか所数（0～2歳人口千人あたり）

- ・全国 2.15か所
- ・和歌山県 2.43か所

<和歌山市つどいの広場> 2015年現在5か所

（和歌山市つれもて子育て応援ブック 2015年6月発行より）

3 結果：第1ステージ 理論的研究ステージの結果報告

わが国における子育て支援拠点事業に関する先行研究をレビューする。

目的① これまで子育て支援拠点事業におけるニーズ調査が実施されてきたか。

目的② ニーズ調査を行う際、必要とされる項目は何か。

表1. ニーズ調査を行っている論文

著者	タイトル	対象者	調査方法	ニーズに対する調査内容	分析方法
桑原(2014)	下関における子育てニーズの現状 -ふくふくこども館利用者調査から-	ふくふくこども館利用者保護者215名	質問紙	子育てについてどんな情報を得たいか	単純集計
山口・田中(2013)	八代市における就学前子育てニーズと支援について-八代市次世代育成支援に関するニーズ調査」の分析より	八代市就学前保護者320名	自由記述	現在あなたが子育てで困っていること、それを解決するためにこういうサービスがあったらいいなと思う事など何でも自由に記入ください。	カテゴリ分類
深井・青木・大竹他(2015)	荒川区における子育て支援サービスの活用実態と支援ニーズに関する調査	荒川区4か月健診来所保護者146名	質問紙	今後更に充実を希望するサービスについて	相関分析
中村・丸田(2015)	鹿児島県における音楽を通した子育て支援からみえる課題	鹿児島県内で実施した子育て支援講座に参加した保護者95名	質問紙	これからの子育て支援でどのような活動が必要か	単純集計

橋本・村石・羽岡・鈴木(2011)	グループインタビューによる「つどいの広場」利用者の子ども・子育て支援ニーズ調査	つどいの広場の利用者9名	グループインタビュー	子育て支援ニーズについて	カテゴリー分類
-------------------	---	--------------	------------	--------------	---------

表2. 子育て支援のニーズに関する考察中心の論文

著者	タイトル	内容
1 近藤(2012)	地域の子育て支援のニーズの変化と今後の課題	制度の変遷と当事者達の実態の変化を踏まえ、さまざまな施策のうち、地域に定着しつつある「つどいの広場事業」問題点も検討しながら、今後求められる地域の子育て支援の課題についての考察
2 君島・竹内(1999)	多様化する保育・子育て支援ニーズ-出雲市におけるニーズ調査より-	1997年7月に出雲市保育園協議会が実施した保育ニーズ調査を分析し、出雲市における保育・子育て支援のニーズの特徴を明らかにするとともに、今度どのような対応等が必要とされるのかを検討・考察

*先行研究の順番については、現在整理中のため順不同である。

- ① これまで子育て支援拠点事業におけるニーズ調査が実施されてきたか。
ニーズ調査の実施状況は、各都道府県および市町村単位、もしくは各支援施設で実施されている。「子育て支援・ニーズ調査」をキーワードに論文検索をしたがヒットした論文は数少ない。
- ② ニーズ調査を行う際、必要とされる項目は何か。
統一された質問項目は少ないことが明らかとなった。調査内容は、質問紙・自由記述・インタビューと様々である。共通する質問項目として、情報やサービス、要望などが挙げられる。

<現状>

- ・実践は実態が明確にされないままに多様性という用語で表現され許容されてきた（橋本 2014）。
- ・事業の実態や実践にまつわる研究は多くない。

<目的>

ひろばに通う母親のニーズ、支援者の課題、ひろば型の在り方を明確にして、内容の充実と支援者の資質向上を目指す。



II. 実証的研究ステージ

- ① 支援者の聞き取り調査の踏まえた質問項目の設定
- ② 広場に通う母親を対象にプレ調査
- ③ ひろばに通う母親を対象に調査を実施

書式 5

研究成果中間報告書

研究代表者

所属 和歌山信愛女子短期大学

氏名 若林 一花

共同研究者

所属 和歌山信愛女子短期大学

氏名 西出 充徳

氏名 堺 みどり

研究課題名

和歌山県産の温州みかんジュースを使った若年層に対する健康事象の関わりについて

1 目的

温州みかんの機能性成分がもたらす効果は、様々な分野において研究報告がされているが、若年層を対象とした肌への影響についての報告は少ない。このような背景に基づき和歌山県産の温州みかんがもたらす若年層への健康事象について明らかにすることである。

2 対象と方法

対象：和歌山信愛女子短期大学 生活文化学科食物栄養専攻 53 名（調査時 18 歳）

方法：①ジュース飲用について：対象者を温州みかんジュース飲用群（以下、ジュース群と略す）43 名とミネラルウォーター飲用群（以下、水群と略す）10 名に分類した。飲用期間は、30 日間（平成 28 年 6 月 20 日～7 月 30 日のうち平日）に継続して飲用した。飲用時間は、毎日、登学時に決め 8 時 50 分～10 時 50 分を目途に実施した。飲用量は、各 100ml とし、ソフトブラカップを用いて飲用した。いずれも約 5℃に冷蔵したものをを用いて、計量したジュース・水は温度が上昇しないよう保存した。（写真 1, 2）なお、温州みかんジュースは、JOIN みかん和歌山 900ml/本（協賛 JA 紀の里農協組合）、ミネラルウォーターはアサヒ、おいしい水六甲 2L/本を用いた。

②肌状況の測定について：肌測定器は、MSA pro（株 モリテックス社製）を用いた。測定部位は、前腕内側中心部位で行った。（写真 3, 4）測定項目は、表 1 に示す「キメ・シミ・油分・水分・弾力・明度・角質」の 7 項目とした。測定方法は、室温を 27℃、湿度は約 60%の一定に保つように配慮した室内で行った。測定は、ジュース、水を飲用し始める約 1 週間前と飲用を終了した後の 1 週間以内に各 3 回実施した。肌状況の評価は、表 1 に示す MSA 閾値表により、対象者を A, B, C に分類した。なお、対象者の測定数値は、3 回の平均値を用いた。測定項目の A, B, C ランク分けの指標については、メーカーが収集した約 300 人の世代別平均値データを基に作成され、公表されているものを採用した。（表 1）

表1 MSA 評価一覧 (~19歳)

評価	キメ	シミ	油分	水分	弾力	明度	角質
Aランク	68~99	68~99	21~56	77~99	79~99	68~99	34~67
Bランク	34~67	34~67	0~20	41~76	49~78	34~67	68~99
Cランク	0~33	0~33	57~99	0~40	0~48	0~33	0~33

※MSA pro の評価指標による



(写真1,2) 飲用風景



(写真3,4) 測定風景

3 結果 (中間報告)

1) 肌状況について

対象者がジュース・水を飲用する前と後の肌状況測定値からA, B, Cランクに属する割合を、ジュース群・水群別、肌評価項目別に表2,3に示した。なお、肌評価7項目のうちキメ・油分については、表には示していないが、両群ともに飲用前後の評価の割合に変化がみられず、ほぼ全員がBランクであった。

飲用前から飲用後の肌状況の変化についての結果を述べる。

①弾力について：両群に飲用前後の肌評価に違いがみられた。ジュース群は、飲用前後に全く変化がなく、水群は、飲用前にAランク 50%が飲用後に全てBランクに移行し、対象者全員がBランクとなった。(表2)

表2 「弾力」飲用前後の評価結果 (%)

肌評価	%	弾力		
		A	B	C
ジュース群	前	40	60	0
	後	40	60	0
水群	前	50	50	0
	後	0	100	0

次にシミ・明度・水分・角質の結果は表3に示した。

- ②シミについて：両群ともにAランクが減少し、ジュース群のBランクでは前9%→36%へ、水群は前10%→50%と変化を示した。
 ③明度について：両群とも表3に示すように、AランクからB, Cランクに変化した。
 ④水分について：両群ともにCランクからBランクに変化した割合が高かった。特に、水群はBランクが前40%→90%と大きく変化した。
 ⑤角質について：両群ともにBランクからAランクに約20%の者が変化した。

表3 飲用前後の評価結果 (%)

肌評価	%	シミ			明度			水分			角質		
		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
ジュース群	前	91	9	0	49	51	0	0	37	63	9	91	0
	後	62	36	2	14	69	17	0	62	38	26	74	0
水群	前	90	10	0	70	30	0	0	40	60	0	100	0
	後	50	50	0	10	70	20	0	90	10	20	80	0

以上の中間結果から、筆者らは、女子学生を対象に、和歌山県の特産品である温州みかん100%果汁ジュースを毎日飲むことにより、温州みかんに含まれている栄養成分のビタミンC、 β -クリプトキサンチンなどが、肌状況にどのように影響するかを検討中である。今後、季節を変えて実験を続行し、生活・食習慣調査結果も踏まえて解析を行う。

IV. 活動報告（社会貢献）

1. 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施 ― ⑧

a. 平成 28 年度計画

子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施では、子育て支援事業『子育て広場』（月 1 回土曜日）、『ふれ愛ルーム 木のおうち』（週 2 回月・水）を和歌山市と連携して開催し、地域の子育て家庭を対象とした支援プログラムを実施する。また、利用者を対象としたアンケート調査を行う。

b. 実施内容

○『子育て広場』『ふれ愛ルーム 木のおうち』

2 年目を迎えた「ふれ愛ルーム 木のおうち」は、平成 28 年度は 4 月 6 回、5 月 9 回、6 月 10 回、7 月 8 回、8 月 5 回（内 1 回は警報発令により中止）、9 月 8 回、10 月 9 回、11 月 9 回、12 月 6 回、1 月 4 回、2 月 4 回、3 月は 4 回（予定）で開催した。

木のおうちでは、和歌山市より各回 2 名の保育士派遣を受け保育プログラムを展開する他、保護者向けミニ講座（Ⅳ―3―⑩）、ゼミ等による実践的教育プログラム（Ⅱ―3―④）、学生のボランティア参加を積極的に展開し、単なる広場・子どもの遊び場ではなく、教育機関で行う事業として特徴付けできるよう留意した。

平成 28 年度の「子育て広場」は 9 回（4・5・6・7・8・9・11・12・1 月）開催し、こちらにおいても和歌山市より各回 2 名の保育士派遣を受けると共に、ボランティア学生による保育プログラムを実施した。子育て広場においてもゼミ研究のアンケートを実施するなど、学生の教育にも活用がなされた。

更に 6 月・8 月・9 月は本学のオープンキャンパスと併催し、体験メニューの中に子育て広場の見学を組み込み、将来保育者や子育て支援者となる可能性のある高校生と保護者に本学の社会貢献・地域貢献の一端を知っていただくよう努めた。

○学園祭での取り組み

平成 28 年度より新たな試みとして、平成 28 年 10 月 29 日（土）に開催された信愛祭（学園祭）において木のおうちを開放し、木のおうち利用者の親子が準備に参加した「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」を実施した。

○その他の利用

木のおうち開催日はもちろん、非開催日においても行政の行う子育て支援事業の会場として施設・設備を提供した。また、行政、教育・研究機関、子育て支援者の視察見学などを積極的に受け入れ、意見交流を行い運営に活かすなど、稼働率の向上と社会貢献の充実を図った。なお、本学より他機関への視察として、倉敷市立短期大学、岐阜大学、聖徳大学の視察 3 件を実施した。

○アンケートの実施

上記の各取り組みにおいては、常にアンケート行い、事業の進捗・目標達成を把握することに努め、運営・内容改善に活かすよう心がけた。

c. 成果・自己評価

平成28年度の「ふれ愛ルーム 木のおうち」利用者はのべ7,124名（平成29年1月末現在、内：子ども2,835名、保護者2,425名、学生1,303名）、「子育て広場」利用者はのべ1,057名（内：子ども428名、保護者385名、学生188名）であった。

信愛祭での取り組みには7組の親子が参加し、アンケートに回答した6名全員が「学園祭「木のおうちブース」のスタッフとして参加して良かった。」「この様な取り組みがあれば、また参加したいと思う。」と答え、子どもと一緒に作り上げる喜びを感じていただけた。

平成28年度ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート（回答100）の満足度に関する調査では、「子育てに関する情報提供」など調査16項目の平均満足度（5段階評価）は4.15、平成28年度子育て広場利用者アンケート（回答47）の同様の調査11項目の平均満足度（5段階評価）は4.30と、高い満足度を得ている。

「ふれ愛ルーム「木のおうち」を利用して、あなた自身や子育てに何か変化はありましたか。」との項目に対して「ある」との回答が63%あり、「話し相手が増えた」（58.7%）、「地域の情報を得ることができた」（52.4%）、「イライラすることが減った」（39.7%）など、『きょう育の森』の各事業が育児負担感の軽減などに役立っていると評価できる。

学生向けの平成28年度地（知）の拠点整備事業に関するアンケート（回答370）では「保護者と話す機会がある」（77.1%）、「子どもや、子育て中の家族に対する理解が深まった」（65.6%）、「本学が地域と連携して子育て支援を行っていること」（68.4%）、平成28年度子育て広場学生レポートにおいても「コミュニケーションの力が育つ」（89.1%）、「大学で学んだ理論や知識が活かされた」（79.2%）など、学びを実践する場、成長する場として肯定的に受け止められている。

以上の結果により、地域の子育てを支援する体制が整えられると共に、親子と学生の学びの場、子育て・子育てに関する研究の場の形成が図られ、地域の声を一定以上事業に反映することができていると考えられる。

反面、同じく平成28年度地（知）の拠点整備事業に関する学生アンケートより「地域を支える市民としての責任感が強まった」（46.3%）、「地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる力が身についた」（36.2%）といった項目への評価は低調であり、学生の学びの成果を地域で活かす自信へと結びつけるため、学外フィールドで実践機会を増やすなど、取り組みの多様化も検討課題である。

平成28年度の会場提供・視察見学受け入れなどの件数は42件277名（平成29年1月末現在）であった。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」 「子育て広場」 実施風景



d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」「子育て広場」ニュースレター (最新号 vol.12・表)



地(知)の拠点

発行日: 2017.1.1
Vol.12

和歌山信愛女子短期大学 きょう育の森

「ふれ愛ルーム 木のおうち」

「子育て広場」

和歌山市と本学の連携した取り組み、子育て支援活動「ふれ愛ルーム 木のおうち」は、毎週月曜日・水曜日に親子が集える場所として学内施設の一部を開放しています。また、月1回の土曜日には「子育て広場」も開催しています。子ども・保護者・学生が、共に学び・育ち・支えあい、笑顔一杯の地域づくりを目指して活動しています。

2月 February		
月曜日	水曜日	土曜日
6	1	4
休館	休館	休館
13	8	11
休館	休館	休館
20	15	18
休館	木のおうち	休館
27	22	25
休館	木のおうち	休館

3月 March		
月曜日	水曜日	土曜日
6	1	4
休館	移動図書館 木のおうち	休館
13	8	11
休館	木のおうち	休館
20	15	18
休館	読書週間日 木のおうち	休館
27	22	25
休館	休館	休館

※2月・3月は子育て広場の開催はありません。4月以降の開催予定については毎日ホームページ等によりお知らせいたします。

●ご利用案内 information

○木のおうち
10:00～15:00(ランチタイム 11:30～12:30) 開催
施設内に飲食・授乳ルームがあります。学生食堂もご利用下さい。

○子育て広場
月に1回 10:30～11:30 体育館で開催

○持ち物
上靴もしくは、滑り止め靴下をご利用下さい。



開催場所: 和歌山信愛女子短期大学
〒640-0341 和歌山市船場702番地2(駐車場有り)

※ 怪我等のないように、お子様の見守りは保護者の方々にお願い致します。本学での事故発生等の保障はございませんのでご了承の上ご参加ください。

※ 「木のおうち」の利用案内等は、大学のホームページ(<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>)をご確認下さい。

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター
和歌山市地域子育て支援センターなかのしま

【和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター】
TEL: 073-479-1106(直通・平日10時～15時)
073-479-3330(和歌山信愛女子短期大学 代表)

【和歌山市地域子育て支援センターなかのしま】
TEL: 073-422-8861

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」 「子育て広場」 ニュースレター（最新号 vol.12・裏）

平成28年度もたくさんのご利用ありがとうございました♪



大好きな子どもとも、お家でばかりいるとお互いストレスがたまる…。
気分転換！！木のおうちまで、子どもとプチ旅行気分。
自然いっぱい木のおうちにつけば、木のおもちゃ。
子どもだけでなく、お母さん達もいつもと違う開放感を感じられるのでは？
最初はもじもじしていた子どもお母さん達が仲良く楽しそうにしていると、いつしか
小さな輪がどんどん大きな輪に。情報交換で世界もひろがります。
また、手遊びやふれあい遊び、体操、大好きなお母さんといっしょに歌ったり動いたり。
お母さんの笑顔は子どもの心の栄養になります。木のおうちの中はみんなが育って
いく、とても優しい環境。
いっしょに過ごせたことを私たちも嬉しく思っています。

和歌山市地域子育て支援センターなかのしま
島 鈴美

●平成28年度通行許可証の更新・返却について

平成28年度発行の「木のおうち・子育て広場」通行許可証（緑色）の有効期限は3月15日（水）までです。平成29年度の更新を希望される方は、きょう背の和センタースタッフまでお声がけ下さい。また、更新されない方は、各受付まで返却していただけますようお願いいたします。

—— 木のおうち移動図書館よりお知らせ ——

今年度の移動図書館最終貸出し日は3月1日（水）となります。また、貸し出した図書館の今年度最終返却日は3月15日（水）となりますのでご注意ください。たくさんのご利用ありがとうございました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」 「子育て広場」 ニュースレター (vol.8・9)

和歌山信愛女子短期大学 きょう青の森
「ふれ愛ルーム 木のおうち」
「子育て広場」

和歌山信愛女子短期大学の学びの森、子育て支援センターふれ愛ルーム 木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

6月 June			7月 July		
月曜日	水曜日	木曜日	月曜日	水曜日	木曜日
	ふれ愛ルーム	子育て広場		ふれ愛ルーム	子育て広場
8	ふれ愛ルーム	子育て広場	4	ふれ愛ルーム	子育て広場
15	ふれ愛ルーム	子育て広場	11	ふれ愛ルーム	子育て広場
22	ふれ愛ルーム	子育て広場	18	ふれ愛ルーム	子育て広場
29	ふれ愛ルーム	子育て広場	25	ふれ愛ルーム	子育て広場

●ご利用案内 Information
木のおうち
 〒512-8601 和歌山県和歌山市千本 1-1-1 (和歌山信愛女子短期大学内)
子育て広場
 〒512-8601 和歌山県和歌山市千本 1-1-1 (和歌山信愛女子短期大学内)
お問い合わせ
 和歌山信愛女子短期大学 子育て支援センター 木のおうち・子育て広場
 TEL: 073-422-3333

和歌山信愛女子短期大学 きょう青の森センター
 和歌山市地域子育て支援センターなかの島

和歌山信愛女子短期大学「ふれ愛ルーム」木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●センター長 挨拶
 和歌山信愛女子短期大学「ふれ愛ルーム」木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●木のおうち活動施設のご案内
 木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●学生食堂のご案内
 学生食堂には、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●貸し出し施設
 ・貸し出し施設
 ・貸し出し施設
 ・貸し出し施設

和歌山信愛女子短期大学 子育て支援センター 木のおうち・子育て広場
 TEL: 073-422-3333

和歌山信愛女子短期大学 きょう青の森
「ふれ愛ルーム 木のおうち」
「子育て広場」

和歌山信愛女子短期大学の学びの森、子育て支援センターふれ愛ルーム 木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

8月 August			9月 September		
月曜日	水曜日	木曜日	月曜日	水曜日	木曜日
	休	休		休	休
8	休	休	5	休	休
15	休	休	12	休	休
22	休	休	19	休	休
29	休	休	26	休	休

●ご利用案内 Information
木のおうち
 〒512-8601 和歌山県和歌山市千本 1-1-1 (和歌山信愛女子短期大学内)
子育て広場
 〒512-8601 和歌山県和歌山市千本 1-1-1 (和歌山信愛女子短期大学内)
お問い合わせ
 和歌山信愛女子短期大学 子育て支援センター 木のおうち・子育て広場
 TEL: 073-422-3333

和歌山信愛女子短期大学 きょう青の森センター
 和歌山市地域子育て支援センターなかの島

和歌山信愛女子短期大学「ふれ愛ルーム」木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●保護者の皆さんへのメッセージ
 和歌山信愛女子短期大学「ふれ愛ルーム」木のおうちには、毎週月曜日から木曜日の午前8時から午後4時までの1日中開放しています。また、月曜日の午前8時から午後4時までは、子育て広場も開放しています。子ども、保護者、学生が、共に学び、育ち、成長し、笑顔一杯の時間を過ごすことができます。

●今年も夏二講座を実施します
 今年も夏二講座を実施します。内容は、子育て支援センター木のおうち・子育て広場で開催します。

●夏休みの親子イベントの予告
 夏休みの親子イベントの予告。内容は、子育て支援センター木のおうち・子育て広場で開催します。

和歌山信愛女子短期大学 子育て支援センター 木のおうち・子育て広場
 TEL: 073-422-3333

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ふれ愛ルーム 木のおうち」 「子育て広場」 ニュースレター (vol.10・11)

初歌山信愛女子短期大学 きょう育の森
「ふれ愛ルーム 木のおうち」
「子育て広場」

10月 October

日曜日	水曜日	土曜日
2	5	8
9	12	15
16	19	22
23	26	29
30		

11月 November

日曜日	水曜日	土曜日
6	9	12
13	16	19
20	23	26
27	30	

● 二館案内 Information

● 子育て広場

● 子育て支援

● 子育て情報

初歌山信愛女子短期大学きょう育の森センター
初歌山市地域子育て支援センターなかのしま

● 10月15日(土)とこまつこまつ会

● 10月19日(水)新のこまつ会

● 10月29日(土)北園探検

● 10月30日(日)字練習

● 11月～12月のミニ講座予定

● 11月26日(日)森のイベント

—— 木のおうちスタッフよりお知らせ ——

初歌山信愛女子短期大学 きょう育の森
「ふれ愛ルーム 木のおうち」
「子育て広場」

12月 December

日曜日	水曜日	土曜日
3	6	9
10	13	16
17	20	23
24	27	30

2017年1月 January

日曜日	水曜日	土曜日
1	4	7
8	11	14
15	18	21
22	25	28
29	31	

● 二館案内 Information

● 子育て広場

● 子育て支援

● 子育て情報

初歌山信愛女子短期大学きょう育の森センター
初歌山市地域子育て支援センターなかのしま

● 10月15日(土)とこまつこまつ会 開催報告

● 10月29日(土)北園探検 開催報告

● 10月30日(日)森のイベント

● 11月～12月のミニ講座

● 11月26日(日)森のイベント

● 11月26日(日)森のイベント

● 11月26日(日)森のイベント

—— 木のおうちスタッフよりお知らせ ——

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度子育て広場配布物

和歌山信愛女子短期大学 地(知)の拠点

きょう育の森

子育て広場

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センターでは、和歌山市地域子育て支援センター中之島との連携で「子育て広場」を、月1回開催しています。
 平成28年度の日程は、下記のとおりです。お気軽にご参加くださいお待ちしております。
 なお、毎週月・水曜日に「ふれあふルーム木のあうち」があります。
 遊びに来て下さいね。詳しくはホームページをご覧ください。

子育て広場 10:30～11:30

平成 28 年度の予定

4月23日(土)
 5月21日(土)
 6月4日(土)
 7月9日(土)
 8月20日(土)
 9月24日(土)
 ＊10月29日(土) 学園祭
 11月26日(土)
 12月17日(土)
 H29.1月14日(土)
 ＊2月・3月はありません。

10/29(土) 学園祭
 手遊びあり、木のあうち自由開放します。

<持ち物> 上履き
 <場所> 和歌山信愛女子短期大学 体育館
和歌山市相模 704 番地の2
 <駐車場> 有り
 <お問い合わせ>
 和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター
 TEL:073-479-1106 (10時～16時 土日祝除く)
<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikuunoka/>

きょう育の和

和歌山市地域子育て支援センター中之島
 TEL:073-422-8661

ご家族で遊びに来て下さいね！

＊お子様の怪我防止のため、上履きまたは滑り止め靴下の着用をお願いします。規定でも結構です。
 ＊お子様の見守りは保護者の方々でよろしくお願ひ致します。本学での事故傷害等の保障はございませんので、ご了承の上にご参加ください。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用申込書

平成28年度 和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター きょう育の森(子育て広場・木のおうち) 利用申込書				管理NO.	
初回参加年月日: H 年 月 日					
ふりがな					
保護者氏名					
付き添い ○をつけて下さい。		父親 / 母親 / 祖父 / 祖母 / その他()			
お子様の情報			性別	生年月日	
会員証番号	ふりがな				
	お子さまの氏名		男・女	平成	年 月 日
会員証番号	ふりがな				
	お子さまの氏名		男・女	平成	年 月 日
会員証番号	ふりがな				
	お子さまの氏名		男・女	平成	年 月 日
会員証番号	ふりがな				
	お子さまの氏名		男・女	平成	年 月 日
ご住所	〒				
TEL					
今後、ご案内の郵送を (希望する / 希望しない)					
<p><アンケート> ご協力をお願いします。</p> <p>1. 本学の「子育て広場」の参加について <input type="checkbox"/> はじめて / <input type="checkbox"/> 参加経験あり</p> <p>2. 本学の子育て広場をどのようにして知りましたか <input type="checkbox"/> チラシ/HP/LINE/FB/口コミ/その他()</p> <p>3. 子育て支援の集まりによく参加しますか <input type="checkbox"/> 週1回/週2回/週3回/週4回/月1回/月2回/月3回/ほとんど参加しない</p> <p>4. 子育てサークル活動にはよく参加しますか <input type="checkbox"/> する / <input type="checkbox"/> しない</p> <p>5. 日常、夫以外で子育てを助けてくれる人はいますか <input type="checkbox"/> いない/いる(具体的に:)</p> <p>6. 悩みを共有できるママ友はいますか <input type="checkbox"/> いる / <input type="checkbox"/> いない</p> <p>7. ご要望がありましたら、自由にお書き下さい ()</p>					
<p>本学での事故・怪我等の保障はございません。 事故・怪我等に関して自己責任であることを同意し、承諾いたします。</p> <p>保護者署名: _____</p>					
				更新年 チェック	
				2015	
				2016	
				2017	
				2018	
				2019	

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふれ愛ルーム木のおうち実施記録

開催日	子どもの数						子ども計	親	付添	教員	スタッフ	保育士	学生	その他	大人合計	総計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児										
4月集計	46	84	63	1	0	0	194	171	2	15	10	10	135	0	343	537
5月集計	51	139	78	7	2	0	277	244	5	20	16	16	316	3	620	897
6月集計	67	185	139	9	0	0	400	346	5	20	18	18	96	2	505	905
7月集計	70	133	90	20	2	0	315	274	10	27	14	14	259	6	604	919
8月集計	32	59	36	11	5	0	143	118	8	5	6	6	0	0	143	286
9月集計	93	164	87	38	0	0	382	331	14	14	14	14	110	9	506	888
10月集計	117	179	92	52	0	0	440	364	9	29	16	16	102	7	543	983
11月集計	68	134	87	40	1	0	331	280	6	22	16	16	62	10	412	743
12月集計	30	76	69	40	2	2	219	178	5	24	10	10	173	4	404	623
1月集計	14	68	30	21	0	0	134	119	7	15	6	6	50	6	209	343
2月集計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月集計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
項目別合計	588	1,221	771	239	12	2	2,835	2,425	71	191	126	126	1,303	47	4,289	7,124

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート（表面）

保護者用

ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート 平成 28 年度

ふれ愛ルーム「木のおうち」について以下の質問にお答えください。
本アンケートは、今後の事業展開の参考とさせていただきます。本目的以外には使用しません。ご協力よろしく申し上げます。

1. あなたご自身についてお答えください。

- ① あなたの年齢 10代・20代・30代・40代以上
- ② あなたのお子さんの人数 1人・2人・3人・4人・5人以上
- ③ 木のおうちに連れてこられるお子さんの年齢（人数分に○）0歳・1歳・2歳・3歳・4歳・5歳以上
- ④ 現在のお立場 専業主婦・仕事をしている（パートを含む）・休職中・求職中・その他（ ）
- ⑤ 現在お住いの地域 和歌山市・海南市・岩出市・紀の川市・紀美野町・かつらぎ町
その他（ ）
- ⑥ 現在の居住地に生まれて何年ですか 1年未満・1～3年・3～5年・6～10年・11年以上

2. 本学が行う「地（知）の拠点事業「きょう育の和」についてお答えください。

- ① 本学が、和歌山県における「地（知）の拠点」大学として、地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。 知っている 知らない わからない
- ② 本学が和歌山市と連携して行う、子育て・子育て支援事業について、どう思われますか。
評価する どちらともいえない 評価しない

3. ふれ愛ルーム「木のおうち」についてお答えください。

	不満足		⇄	とても満足	
	1	2		4	5
開所している曜日(月・水)	1	2	3	4	5
開所時間(10:00～15:00)	1	2	3	4	5
室内の広さ	1	2	3	4	5
おもちゃの種類	1	2	3	4	5
絵本の種類	1	2	3	4	5
子育てに関する情報提供	1	2	3	4	5
子育てに関する相談	1	2	3	4	5
スタッフの対応	1	2	3	4	5
スタッフの数	1	2	3	4	5
学生との交流	1	2	3	4	5
ホッとできる場	1	2	3	4	5
親子で遊べる	1	2	3	4	5
子ども同士で遊べる	1	2	3	4	5
親子とも知り合いができる	1	2	3	4	5
ランチができる	1	2	3	4	5
学内食堂が利用できる	1	2	3	4	5

***裏面もご記入ください**

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート（裏面）

4. ふれ愛ルーム「木のおうち」を利用して、あなた自身や子育てに何か変化はありましたか。

ある ・ ない

あるに○をつけた方にお聞きします。

・あてはまる項目に○をつけてください（複数可）

子育てが楽しくなった	
お友達ができた	
話し相手が増えた	
子育てについて悩まなくなった	
地域の情報を得ることができた	
子どもといると楽しいと思えるようになった	
イライラすることが減った	
学生との交流が深まり視野が広がった	
学ぶ楽しさを感じるようになった	
社会や地域に関心が高まった	

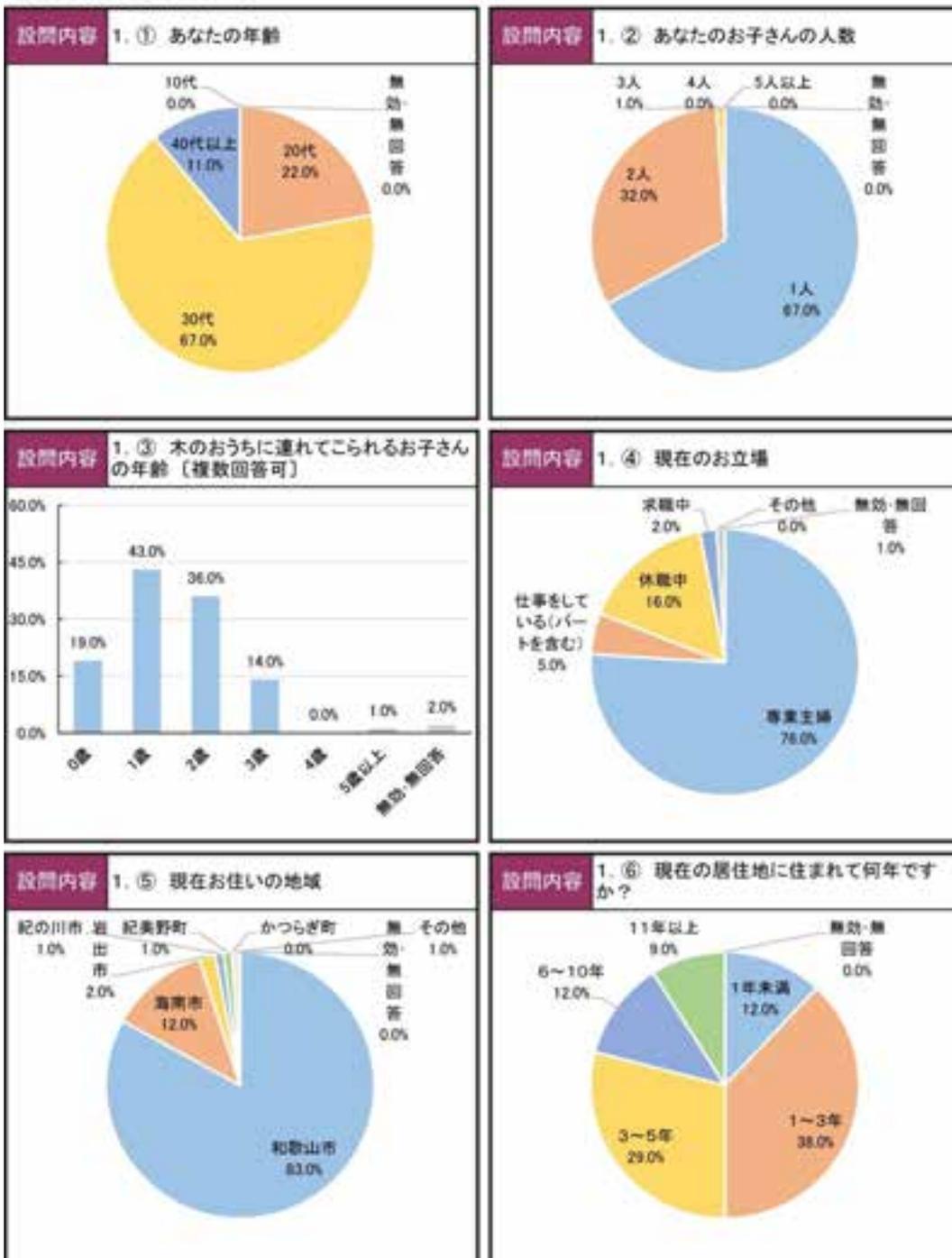
・そのほか何か変化があればご自由にお書きください。

5. ふれ愛ルーム「木のおうち」に対して改善してほしいことがありましたらお書きください。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート集計結果（回答100）

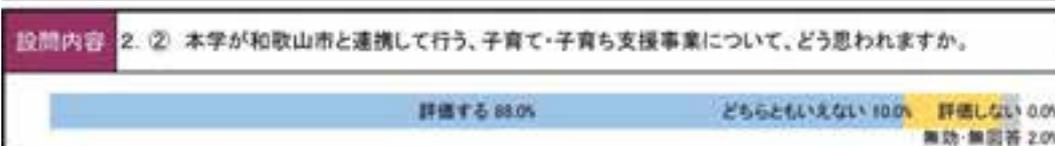
◆あなたご自身について



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート集計結果（回答 100）

◆ 本学が行う「地（知）の拠点事業『きょう育の和』について



◆ ふれ愛ルーム「木のおうち」について



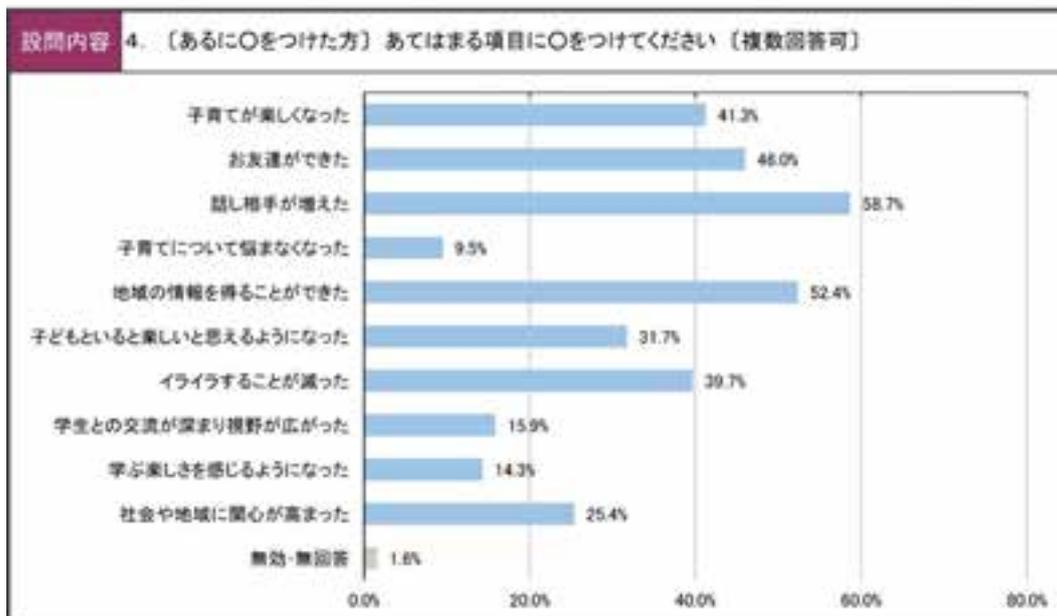
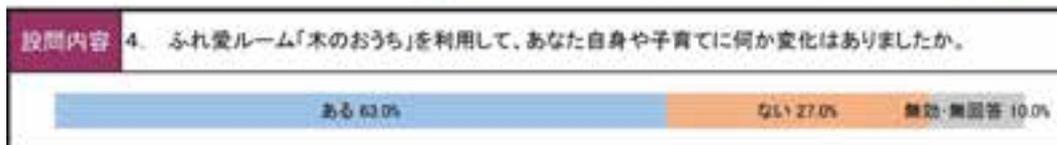
d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート集計結果（回答100）

設問内容	平均値	とても満足 ←----- 不満足					無効・無回答	合計
		5	4	3	2	1		
3. ① 開所している曜日(月・水)	3.11	12 12.0%	18 18.0%	41 41.0%	25 25.0%	3 3.0%	1 1.0%	100 100.0%
3. ② 開所時間(10:00~15:00)	4.08	48 48.0%	22 22.0%	20 20.0%	10 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ③ 室内の広さ	4.20	46 46.0%	31 31.0%	16 16.0%	5 5.0%	0 0.0%	2 2.0%	100 100.0%
3. ④ おもちゃの種類	4.46	57 57.0%	32 32.0%	11 11.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑤ 絵本の種類	4.25	49 49.0%	28 28.0%	22 22.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑥ 子育てに関する情報提供	4.06	37 37.0%	36 36.0%	21 21.0%	5 5.0%	0 0.0%	1 1.0%	100 100.0%
3. ⑦ 子育てに関する相談	3.95	31 31.0%	37 37.0%	26 26.0%	5 5.0%	0 0.0%	1 1.0%	100 100.0%
3. ⑧ スタッフの対応	4.36	51 51.0%	36 36.0%	11 11.0%	2 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑨ スタッフの数	4.31	47 47.0%	38 38.0%	14 14.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑩ 学生との交流	3.76	24 24.0%	32 32.0%	35 35.0%	6 6.0%	0 0.0%	3 3.0%	100 100.0%
3. ⑪ ホットとできる場	4.08	36 36.0%	36 36.0%	28 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑫ 親子で遊べる	4.40	53 53.0%	35 35.0%	11 11.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑬ 子ども同士で遊べる	4.33	51 51.0%	31 31.0%	16 16.0%	1 1.0%	0 0.0%	1 1.0%	100 100.0%
3. ⑭ 親子とも知り合いができる	4.01	34 34.0%	35 35.0%	29 29.0%	2 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑮ ランチができる	4.47	64 64.0%	23 23.0%	11 11.0%	0 0.0%	2 2.0%	0 0.0%	100 100.0%
3. ⑯ 学内食堂が利用できる	4.48	64 64.0%	23 23.0%	10 10.0%	0 0.0%	2 2.0%	1 1.0%	100 100.0%

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート集計結果（回答100）



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート集計結果（自由記述）

・子供が、他の子とかかわることで、子供が成長したように感じます。歌や手遊びなど、知っているだけで子供が公共の場でぐずった時などあやすのに役立つと実感しました。子供と共通の遊びで楽しめることをとても感じました。（同じ時間をすごしたからこそ、たのしいと思える事なんだろうなあと思います。）

・お絵書きコーナーができてうれしいです。

・相談出来る人のいる安心感がある。保育のプロの意見が聞ける。

・他の支援センターでは少しせまくて、他の子よりウロウロするので連れて行くのをためらって、行く回数が減って行ったのですが、木のおうちは良い広さなので、自分も楽しく来れるようになりました。

・話が上手になった。おもちゃのかしかりが上手くできるようになった。

・学食の子ども用イスが足りない時があります。

・月に一度開催している子育て広場の日も学生食堂を開けてほしい。それかお弁当を食べて帰れるように食堂をあけてほしいです。

・平日も外遊び（森の広場）があっても良いなあと思います。駐車場が食堂前に置けたらうれしい。（特に雨の日）

・まだ自分で動けない赤ちゃんを寝かすことができる場所がもう少しあると嬉しいです。（上の子を連れてきて遊ばせている間、ずっと抱っこしているのは親子ともに少ししんどいので。）

・入口に手洗い場があるといいと思います。必ず手洗いをしてから入室するようにした方がこれからの時期、安心感もちがうと思います。こちらに来たことで、何らかの病気がうつったと思うのは残念なので、改善してほしいです。

・もっと講座があればうれしい。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 子育て広場実施記録

開催日	子どもの数							合計	父親	母親	学生	スタッフ	教員	統計	学生によるプログラム
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上								
4月23日	8	7	10	1	6	1	1	22	34	4	34	2	7	96	なし
5月21日	16	10	18	2	3	2	0	30	51	7	36	2	5	134	手遊び「ひげいじさん」絵本「だるまさんと」手遊び「むすんでひらいて」ピクニック
6月4日	13	12	15	2	4	1	3	27	50	7	38	2	1	122	手遊び「あたま、かた、ひざぼん」・「ミックスジュース」、エプロンシアター「プルーメンのおんがくたい」、体操「あおむしとまご」
7月9日	21	11	12	4	5	2	1	34	56	7	40	2	6	130	手遊び「大きな栗の木下で」・「ミックスジュース」・「いとまきのうた」
8月20日	21	14	13	4	8	2	1	39	63	6	47	2	2	143	手遊び「ピクニック」 「あおむし」
9月24日	26	12	13	3	4	2	0	32	60	14	41	2	1	134	手遊び「むすんでひらいて」 「はじまるよ」 絵本「だるまさんが」
11月26日	21	13	11	4	1	1	0	27	51	12	37	2	4	129	手遊び「はじまるよ」 「あたまかたひざぼん」 エプロンシアター「三匹の子ぶた」
12月17日	13	8	4	2	2	1	1	18	31	4	22	3	5	86	手遊び「とんとんとんひげいじさん」 「いとまき」
1月14日	13	7	8	1	2	1	0	21	32	5	24	3	5	83	大型絵本「だるまさんが」、親子で行う手遊び「一本橋」、手遊び「グー・チョキ・パー」
項目別合計	152	94	104	23	35	13	7	250	428	66	319	20	30	1057	

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 子育て広場アンケート

保護者用

子育て広場 利用者アンケート

平成28年度

きょう育の和センター子育て広場について以下の質問にお答えください。
本アンケートは、今後の事業展開の参考とさせていただきます。本目的以外には使用しません。ご協力よろしくお願ひします。

1. あなたご自身についてお答えください。

- ① あなたの年齢 10代・20代・30代・40代以上
- ② あなたのお子さんの人数 1人・2人・3人・4人・5人以上
- ③ 子育て広場に連れてこられるお子さんの年齢（人数分に○）0歳・1歳・2歳・3歳・4歳・5歳以上
- ④ 現在のお立場 専業主婦・仕事をしている（パートを含む）・休職中・求職中・その他（ ）
- ⑤ 現在お住いの地域 和歌山市・海南市・岩出市・紀の川市・紀美野町・かつらぎ町
その他（ ）
- ⑥ 現在の居住地に住まれて何年ですか 1年未満・1～3年・3～5年・6～10年・11年以上

2. 本学が行う「地（知）の拠点事業「きょう育の和」についてお答えください。

- ① 本学が、和歌山県における「地（知）の拠点」大学として、地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。 知っている 知らない わからない
- ② 本学が和歌山市と連携して行う、子育て・子育て支援事業（子育て広場・ふれ愛ルーム木のおうち）について、どう思われますか。
評価する どちらともいえない 評価しない

3. 子育て広場についてお答えください。

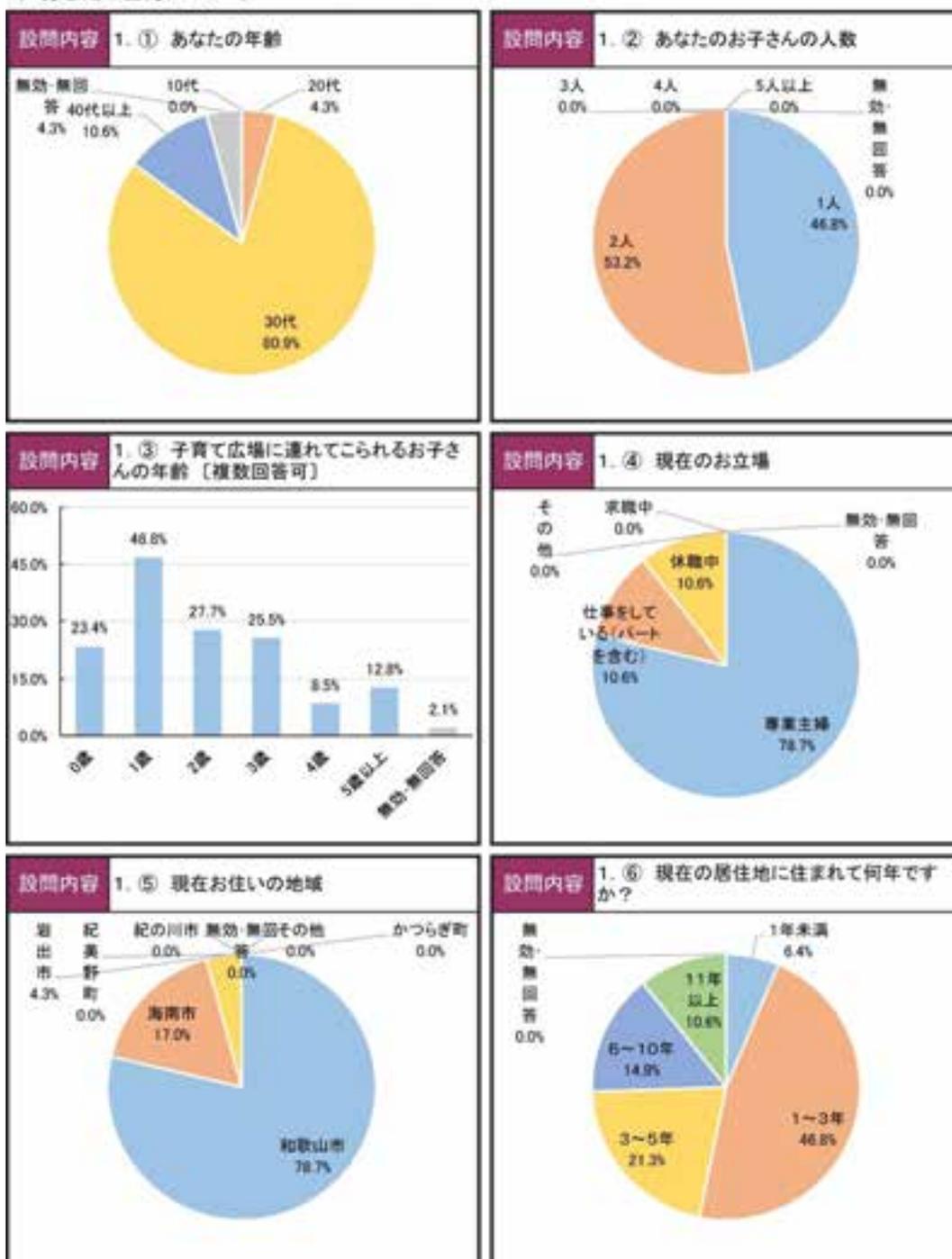
	不満足		⇄	とても満足		
	1	2		3	4	5
開所している曜日（土曜日）	1	2		3	4	5
体育館の広さ	1	2		3	4	5
遊具の種類	1	2		3	4	5
子育てに関する情報提供	1	2		3	4	5
子育てに関する相談	1	2		3	4	5
スタッフの対応	1	2		3	4	5
スタッフの数	1	2		3	4	5
学生との交流	1	2		3	4	5
親子で遊べる	1	2		3	4	5
子ども同士で遊べる	1	2		3	4	5
親子とも知り合いができる	1	2		3	4	5

4. 子育て広場について、ご意見等がありましたらお書きください。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場利用者アンケート集計結果（回答 100）

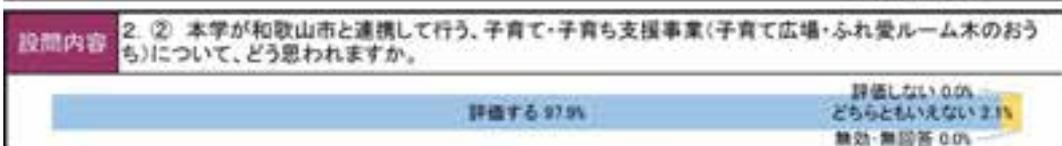
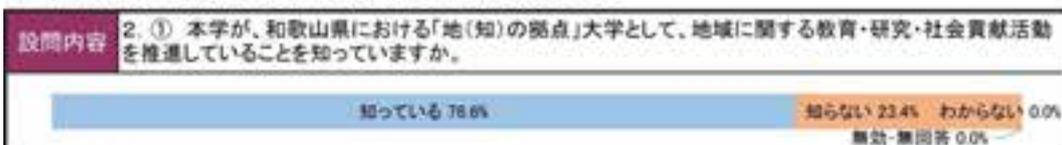
◆ あなたご自身について



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場利用者アンケート集計結果（回答 100）

◆ 本学が行う「地(知)の拠点事業『きょう育の和』について



◆ 子育て広場について

設問内容	=5(とても満足) =4 =3 =2 =1(不満足) =無効・無回答				
3. ① 開所している曜日(土曜日)	44.7%	38.3%	14.9%	0.0%	2.1%
3. ② 体育館の広さ	66.0%	31.9%	0.0%	0.0%	2.1%
3. ③ 遊具の種類	38.3%	36.2%	21.3%	2.1%	2.1%
3. ④ 子育てに関する情報提供	31.9%	34.0%	31.9%	0.0%	2.1%
3. ⑤ 子育てに関する相談	31.9%	23.4%	38.3%	6.4%	0.0%
3. ⑥ スタッフの対応	55.3%	38.2%	8.5%	0.0%	0.0%
3. ⑦ スタッフの数	59.8%	31.9%	8.5%	0.0%	0.0%
3. ⑧ 学生との交流	63.8%	23.4%	12.8%	0.0%	0.0%
3. ⑨ 親子で遊べる	59.8%	36.2%	4.3%	0.0%	0.0%
3. ⑩ 子ども同士で遊べる	51.1%	31.9%	17.0%	0.0%	0.0%
3. ⑪ 親子とも知り合いができる	40.4%	31.9%	25.5%	0.0%	2.1%

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場利用者アンケート集計結果（回答 100）

設問内容	平均値	とても満足 ----- 不満足					無効・無回答	合計
		5	4	3	2	1		
3. ① 開所している曜日(土曜日)	4.26	21 44.7%	18 38.3%	7 14.9%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ② 体育館の広さ	4.64	31 68.0%	15 31.9%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ③ 遊具の種類	4.13	18 38.3%	17 36.2%	10 21.3%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	47 100.0%
3. ④ 子育てに関する情報提供	3.96	15 31.9%	16 34.0%	15 31.9%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑤ 子育てに関する相談	3.81	15 31.9%	11 23.4%	18 38.3%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑥ スタッフの対応	4.47	26 55.3%	17 36.2%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑦ スタッフの数	4.51	28 59.6%	15 31.9%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑧ 学生との交流	4.51	30 63.8%	11 23.4%	6 12.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑨ 親子で遊べる	4.55	28 59.6%	17 36.2%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑩ 子ども同士で遊べる	4.34	24 51.1%	15 31.9%	8 17.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
3. ⑪ 親子とも知り合いができる	4.15	19 40.4%	15 31.9%	12 25.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	47 100.0%

■平成 28 年度 子育て広場利用者アンケート集計結果（自由記述）

・子どもが毎月とても楽しみにしていて、他の用事を押しのけてまで参加したいと言っています。

・広い室内で遊べる場所や機会が少ないので助かります。学生さんのお勉強にも役立っていれば幸いです。

・パパが土曜日仕事なので、日曜日にあったらパパに来てもらえるのになぁと思っています。子どもがうれしそうにしているので来ると私も楽しいです。

・5歳の子供なので、内容がもう少し5歳ぐらい幼稚園の年代にあっているのも、たまにとり入れてほしいです。

・時間をもう少し長くしてほしい（子供が慣れてきた頃に終わってしまうので）。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート抜粋集計結果（回答 370）

設問内容	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無効・無回答
10-4 おもちゃの種類	51.4%	23.4%	21.8%	2.8%	0.5%	0.5%
10-5 ホットできる場	55.0%	19.7%	22.0%	3.2%	0.0%	0.0%
10-6 子どもと触れあえる	69.7%	15.1%	12.4%	1.4%	0.5%	0.5%
10-7 保護者と話す機会がある	54.6%	22.5%	20.6%	1.8%	0.5%	0.0%
10-8 子どもや、子育て中の家族に対する理解が深まった	38.5%	27.1%	31.7%	2.8%	0.0%	0.0%
10-9 子育ての現状を知ることができた	36.7%	26.6%	33.0%	3.7%	0.0%	0.0%
10-10 子育て支援に関する制度への理解が深まった	35.8%	25.7%	33.9%	3.7%	0.5%	0.5%
10-11 コミュニケーション力が身についた	28.9%	24.3%	42.2%	3.7%	0.5%	0.5%
10-12 周囲の人々と協力できる協調性が身についた	26.8%	27.5%	39.8%	4.6%	0.5%	0.5%
10-13 リーダーシップが身についた	12.8%	17.9%	50.9%	15.6%	20.5%	0.0%
10-14 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力が身についた	22.5%	21.1%	47.7%	8.9%	1.4%	0.5%
10-15 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる力が身についた	18.3%	17.9%	54.1%	6.4%	2.8%	0.5%
10-16 郷土を愛する心が強まった	23.4%	23.4%	44.0%	5.5%	3.2%	0.5%
10-17 地域を支える市民としての責任感が強まった	22.9%	23.4%	46.8%	5.5%	0.0%	1.4%
10-18 地域の活性化に貢献できた	22.0%	18.8%	49.1%	6.0%	3.2%	0.9%
10-19 本学が地域と連携して子育て支援を行っていること	48.2%	20.2%	30.3%	1.4%	0.0%	0.0%

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場学生レポート（表面）

子育て広場学生レポート	平成 28 年度					
保育科 年 組 委 名前: _____						
*自由参加は、締の学生レポートを提出して下さい。						
参加日 H _____ 年 _____ 月 _____ 日 (土) _____						
本日の自己目標は _____ である。						
<達成出来たことや今後の課題についてなど感想>						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> </table>						
*数字にひとつ○をして下さい。						
<子どもと関わる事ができたか> できた ← (5・4・3・2・1) → 出来なかった						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 15px;">(関わった子どもの年齢やその時の状況)</td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> </table>		(関わった子どもの年齢やその時の状況)				
(関わった子どもの年齢やその時の状況)						
*数字にひとつ○をして下さい。						
<保護者と関わる事ができたか> できた ← (5・4・3・2・1) → 出来なかった						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 15px;">(感想)</td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> </table>		(感想)				
(感想)						
<子育て広場で困ったこと・よかったこと・改善点・要望など>						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 15px;"> </td></tr> </table>						
*裏面もご記入下さい。						

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場学生レポート（裏面）

<アンケート> 守秘義務を守り、研究以外に使用することはありません。ご協力をお願いします。

*数字にひとつ〇をして下さい。

事前準備役取りは重要である	重要	5・4・3・2・1	重要でない
広場は、経験や成長の場になる	なる	5・4・3・2・1	ならない
コミュニケーションの力が育つ	育つ	5・4・3・2・1	育たない
大学で学んだ理論や知識が生かされた	生かされた	5・4・3・2・1	生かされない
今後、自主参加をして力をつけたい	思う	5・4・3・2・1	思わない
保護者と笑顔であいさつや受け答えができた	できた	5・4・3・2・1	できなかった
保護者の笑顔や喜ぶ顔が見られることにやりがいを感じた	感じた	5・4・3・2・1	感じなかった
保護者の考えや思いが理解できた	できた	5・4・3・2・1	できなかった

■平成 28 年度 子育て広場学生レポート（自由記述）

・乳児を抱かせてもらったり、ひざに乗せたり、立つのを支えたりたくさんの表情を見ることができました。受付をしたおかげで保護者の方とも関わることができました。課題はもっと一人ひとりじっくり観察したり、対応していかないと深く考えられないかなと思います。

・2人以上子どもがいると、手が足りなくて大変と会話されていた保護者の方たちとお話させていただいた。動きまわる年齢だと目も離せないし、大変でしょうねと話しかけると、そうそうと、笑いながらお話しして下さった。

・人見知りの子もとどう関わったらいいか分からなかったです。一人の男の子が私になついてくれて飛びついて来てくれたりしてとても嬉しかったです。たくさんの子とも関わった事が良かったです。

・あるお父さんが子どもがかなりの人見知りで、子育て広場について来たと言っていました。私はその子に話しかけたりボールをころがしたりしていたのですが、泣いてしまいお父さんの側から離れませんでした。私はこれからこの子のような人見知りをする子とも一緒に遊べるようになりたいと思いました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場学生レポート（回答 82）

設問内容	5(できた)	4	3	2	1(出来なかった)	無効・無回答
子どもと関わる事ができたか	37.8%			46.3%	14.6%	1.2% 0.0%
保護者と関わる事ができたか	8.5%	28.0%	29.3%	25.6%	8.5%	0.0%

◆アンケート

設問内容	5(重要)	4	3	2	1(重要でない)	無効・無回答
事前準備役取りは重要である	81.7%				14.6%	2.4% 0.0% 1.2%
広場は、経験や成長の場になる	86.6%				9.8%	2.4% 0.0% 1.2%
コミュニケーションの力が育つ	73.2%				15.9%	8.9% 0.0% 1.2%
大学で学んだ理論や知識が活かされた	32.9%			46.3%	15.9%	2.4% 0.0% 2.4%
今後、自主参加をして力をつけたい	57.3%			29.3%	11.0%	0.0% 1.2% 1.2%
保護者と笑顔であいさつや受け答えができた	54.9%			36.8%	4.9%	2.4% 0.0% 1.2%
保護者の笑顔や喜ぶ顔が見られることにやりがいを感じた	63.4%			30.5%		1.2% 1.2% 2.4% 1.2%
保護者の考えや思いが理解できた	20.7%			40.2%	29.0%	1.2% 6.1% 3.7%

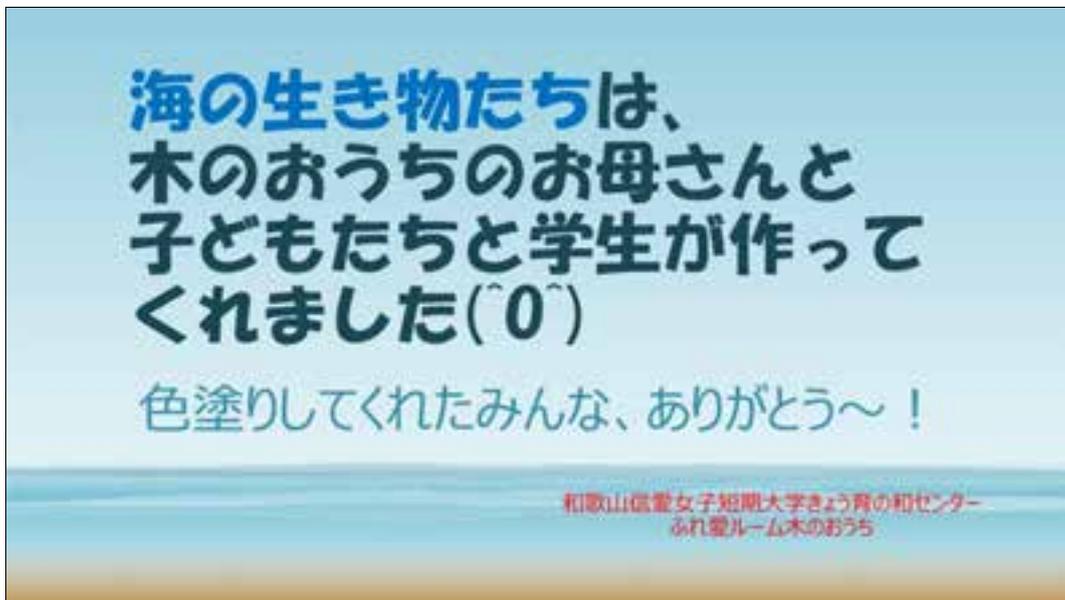
d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」 実施風景



d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」制作過程紹介



d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」制作過程紹介

2016.9.27（火）10：00～15：00 事前準備
7組の親子が参加してくれました。

①はじめに 自己紹介をしました。
(子どもの良いところ、お母さんの趣味・特技、独身時代の職業など)



みんなでテーマを考えました！
「ニコニコさかなつり 木のおうちですいぞくかん」に決定！

お母さんが書いてくれた「海の生き物たち」に、
子どもたちが思い思いに色塗りをしてくれました。



d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」制作過程紹介

和やかなムードの中、みんなで一緒にお弁当を食べました。
事前準備に参加してくれた皆さん、ありがとうございました(´0´)



みんなで食べると美味しいね！

木のおうちの人にも、たくさん色塗りをしてもらいました。
この水族館は、**みんなの作品**です！



みんなで色塗りするととっても楽しいね！

何色にしようかな～？

木のおうちで、お友達との「つながりの輪」を広げていきましょう♪

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「ニコニコさかなつり木のおうちですいぞくかん」参加者アンケート・集計（回答 6）

学園祭 アンケート 回収 6 枚

平成 28 年度信愛学園祭「木のおうちブース」のスタッフとして参加してのご意見・ご感想をお聞かせください。

① 学園祭「木のおうちブース」のスタッフとして参加して良かった。

はい(6名)・ふつう(0名)・いいえ(0名)

② この様な取り組みがあれば、また参加したいと思う。

思う(6名)・どちらでも(0名)・思わない(0名)

《意見・感想》

- ・ 毎日子育ての事を考える毎日の中で、学生にもどった様に楽しかったです。
ありがとうございました。
- ・ 作製も楽しく、子供の喜ぶ遊びを考えるきっかけをいただいた様に思います。
また、家でも子供と一緒に手作りの遊びに挑戦してみたいと思います。
- ・ いつもは子供の事についての話をする事が多いけど、事前打合せの時など、いつもとちがった深い話を出来てとても良かったです。
柳本さん、林さんの話をきいて育児について少し自信もつきました。
いつもありがとうございます。
- ・ 楽しかったです。また、みんなと作業したいです。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 木のおうち視察（訪問）者・利用リスト抜粋（総数42件277名）

区分	日付	時間	団体名	代表者・個人名	人数	備考
視察・見学	平成28年6月8日	午前	有田市役所(教育委員会)		1	
見学	平成28年6月8日	14:40～	入試説明会高校の先生方見学		約20	
共育	平成28年6月10日	9:30～11:30	共育の輪会員		9	平成28年度第一回共育の輪ネットワーク会議
共育	平成28年8月4日	12:30～14:30	共育の輪会員		32	平成28年度第三回共育の輪ネットワーク会議(大人10名,子ども22名)
視察・見学	平成28年8月20日	9:20～12:30	和歌山大学	学生	5	
共育	平成28年8月26日	9:00～12:00	共育の輪会員		7	平成28年度第一回学習会
視察・見学	平成28年9月7日	10:00～12:00	今治明德短期大学	寺川 未央	3	
視察・見学	平成28年9月21日	15:00～17:00	和歌山大学	村田 和子	6	和歌山大学生涯学習センター・マナビオリスト支援センター子育て支援グループ
講座	平成28年10月19日	10:20～11:00	和歌山県男女共同参画センター		8	和歌山のバリエイティブプロジェクトPAPAMの開催
見学	平成28年11月1日	11:20～	ネッツTOYOTA		2	
見学	平成28年11月2日	13:20～	和歌山市子育て支援課	宮崎部長	2	
見学	平成28年11月21日	10:46～	和歌山市子育て支援課	細井	3	
その他	平成28年11月24日	9:20～12:00	信愛幼稚園つばみ組	梅木園長・前島先生	20	親子9組
視察・見学	平成28年12月14日	10:00～11:30	かつらぎ町地域子育て支援センター	中谷 真里	2	
講座	平成28年12月17日	13:00～14:30	和歌山県男女共同参画センター		49	和歌山のバリエイティブプロジェクトPAPAMの開催
共育	平成29年1月19日	10:30～12:00	共育の輪会員		17	平成28年度第二回学習会(講師・大人11名,子ども5名)
その他	平成29年1月23日	午前	和歌山大学	今村先生・王	2	プランケット調査

2. 『女性の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』の実施 — ⑨

a. 平成 28 年度計画

『母親の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』の実施においては、ホームページ等を通じて地域住民に広く情報発信を行うと共に、『科目等履修生制度』『聴講生制度』を利用した受講の他に、『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者に授業の一部を公開することで、社会人への学び直しの機会提供を行う。

b. 実施内容

「地域子育て・子育て支援論」を前期（平成 28 年 7 月 11 日（月））は大学の公開講座として、後期（平成 28 年 10 月 26 日（水））は授業公開として和歌山市の保育士と連携のもと実施した。

c. 成果・自己評価

「地域子育て・子育て支援論」の公開講座・授業では、前期は 46 組 108 名（大人 46 名、子ども 23 名、学生 34 名、教職員・COC スタッフ 5 名）が参加。その内、現役保育者は約 20 名（園からの申し込み等で判明）であった。後期は親子 26 組、学生 82 名の参加であった。

『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』に関連して、幼保特例制度通信教育講座の乳児保育において「ふれ愛ルーム 木のおうち」で行ったスクーリングには、7 名が受講した。

また、本学キャリアセンターで再就職の相談・斡旋などを行った件数は、本学卒業生を中心に 40 件であった（平成 29 年 2 月 4 日現在）。

なお、平成 28 年度の『科目等履修生制度』利用者は 0 名であった。

授業の一部を公開することで、子育て中の母親に学びの機会を提供することができた。アンケート調査の結果から、より専門的な内容への期待も多いことがわかり今後の改善に役立てたいと考える。また、幼保特例制度通信教育講座を利用した資格取得者の増加や、本年度の既卒者の就職相談・斡旋実績から、女性の再就職支援、潜在有資格者の発掘という点でも一定の成果を残せたと評価できる。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「地域子育て・子育て支援論」公開講座・授業公開告知物

和歌山信愛女子短期大学
公開講座
第12回

「地域子育て・子育て支援論」
子どもの年齢に応じた遊び
～絵本の読み聞かせ・おもちゃ・手遊び・実践～

2016年
7月11日(日)
10:00～12:00(受付開始10時～)
本学体育館
会場：和歌山 和歌山信愛女子短期大学
〒640-0241 和歌山県和歌山市7-1-1

入場 無料
お子様 同伴可
駐車場 有り

【和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター】
TEL: 073-478-1100(直通・平日10時～15時) / 073-478-3300(和歌山信愛女子短期大学 本学)
〒640-0241 和歌山県和歌山市7-1-1

和歌山信愛女子短期大学
「地域子育て・子育て支援論」公開授業

子どもの遊びを親子で体験しよう
～絵本の読み聞かせ・おもちゃ・手遊び・実践～

2016年
10月26日(水)
10:00～12:00
本学体育館
会場：和歌山 和歌山信愛女子短期大学
〒640-0241 和歌山県和歌山市7-1-1

入場 無料
お子様 同伴可
駐車場 有り

【和歌山信愛女子短期大学 きょう育の和センター】
TEL: 073-478-1100(きょう育の和センター直通・平日10時～15時)
〒640-0241 和歌山県和歌山市7-1-1

■ 「地域子育て・子育て支援論」公開講座（前期）実施風景



d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 「地域子育て・子育て支援論」授業公開（後期）実施風景



■ 「地域子育て・子育て支援論」公開講座（前期）アンケート

第42回公開講座「地域子育て・子育て支援論 子どもの年齢に応じた遊び」

アンケートのご協力をお願いします。

(1) 今回の講座を何でお知りになりましたか？

1. 信愛短大からのダイレクトメール
2. 新聞（朝日新聞・ニュース和歌山・リビング和歌山・その他）
3. 出演者から聞いて
4. 友人、知人から聞いて

(2) 参加された感想を、A・B・Cの中からお選びいただき、よろしければ具体的な理由もお書きくださいませ。

A. よかった ()

B. ふつう ()

C. よくなかった ()

(3) 今後、公開講座でご希望のテーマなどがございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■「地域子育て・子育て支援論」公開講座（前期）アンケート抜粋集計結果（回答 46）

○よかった（26）

- ・知らない手遊び、わらべうたあそびを教えて頂けたので、参考にさせて頂きたいと思いました。ありがとうございました。
- ・子どもたちとのふれ合いあそびや、様々な物を使っての実践を見せていただき、楽しかったです。
- ・今後の保育でも取り入れていきたいと思います。
- ・やったことのある手遊びでも、ハンカチやウッドブロックを使うことで、またちがうものになるなど勉強になりました。
- ・手遊びをいろいろ教えてもらったのでよかった。学生さんたちとも楽しくあそんでもらった。
- ・わらべ歌等沢山の遊びを学ばせて頂きました。ぜひ実践してみたいです。
- ・様々な種類の手遊びやわらべ歌があり、知らないものがたくさんあったので、現場で参考にしたいと思いました。

○ふつう（18）

- ・もう少し専門的な話が聞きたい。参考になった内容もありました。
- ・手遊びなど、もっと体験参加ができるようにしてほしい。
- ・講座の時間をもう少しとっていただけたらと思いました。
- ・もっとおもちゃの使い方（遊び方）など発想豊かなアイデアもほしかった。
- ・もっと手遊びの数は少なくてもいいので、覚えて帰れるくらい何回もやったり、コツを教えてもらえたり家庭の中でどのような場面で遊んだりしたら良いかなど、もっと具体的に聞きたかった。

○よくなかった（2）

- ・子どもの年齢に応じた遊びという事でしたが、その説明が全くなかったので年齢に応じたあそびを教えてもらいたかった。

○今後、公開講座でご希望のテーマなどがございましたら、ご記入ください。

- ・保育士向けの講座があれば、発達に応じた遊び等、もう一度再確認できる機会がほしいです。
- ・食事（好き嫌いをなくす方法）。
- ・体操（体を動かすのもあったらうれしいです）。

3. 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施 — ⑩

a. 平成 28 年度計画

『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施では、隔月 1 回程度、『子育て広場』や『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象に、本学教員による子育て講座、子育て相談を行う。

b. 実施内容

『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象に、以下の内容で子育てに関連したミニ講座を実施した。

タイトル	講師	日時	受講者
親子で予防、食中毒 I	西出	7月13日(水)11:00~11:30	38人
親子で予防、食中毒 II		7月20日(水)11:00~11:30	20人
「贈答のマナー」	浅田	8月24日(水)13:00~13:30	23人
「慶弔のマナー」		8月31日(水)13:00~13:30	28人
「子どもっておもしろい！ ~わが子の発達を楽しむ子育て~」	森下	9月26日(月)10:30~11:00	26人
「乳児の発達の道筋とかかわり方 —誕生から2歳代—」	小笠原	10月12日(水)10:30~11:00	28人

これら講座内での質問・相談の他、『ふれ愛ルーム 木のおうち』では本学の教員および和歌山市より派遣された保育士による子育て相談にも適時応じた。

また、平成 28 年 10 月 31 日（月）、11 月 21 日（月）、12 月 19 日（月）に予約制による子育て個別相談（担当：森下）を行い、3 件の相談があった。

c. 成果・自己評価

『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者を対象に行ったアンケート（回答 100）では、「子育てに関する情報提供」に対して 73%、「子育てに関する相談」については 68%の保護者が満足と回答している。反面、「学ぶ楽しさを感じるようになった」との回答は 14.3%にとどまっており、子育て講座の実施頻度を増やすなど、学びの機会充実について検討が必要である。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ミニ講座告知掲示物

【木のおうちミニ講座のご案内】

～木のおうち開放時間内に実施しますので、お子様と一緒に参加してくださいね(´0´)～
開催場所/ふれ愛ルーム 木のおうち

7月13日(水)「親子で予防、食中毒Ⅰ」
7月20日(水)「親子で予防、食中毒Ⅱ」
各11:00～11:30
講師:食物栄養専攻 西出 准教授

8月24日(水)「贈答のマナー」
8月31日(水)「慶弔のマナー」
各13:00～13:30
講師:生活文化専攻 浅田 准教授

申し込み不要(自由参加)詳細は木のおうちスタッフまで

【木のおうちミニ講座のご案内】

～木のおうち開放時間内に実施しますので、お子様と一緒に参加してくださいね(´0´)～
開催場所/ふれ愛ルーム 木のおうち

9月26日(月)
「子どもっておもしろい!～わが子の発達を楽しむ子育て～」
10:30～11:00
講師:保育科 森下 順子 准教授

10月12日(水)
「乳児の発達の道筋とかかわり方ー誕生から2歳代ー」
10:30～11:00
講師:保育科 小笠原 眞弓 准教授

申し込み不要(自由参加)詳細は木のおうちスタッフまで

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ミニ講座・子育て個別相談実施風景

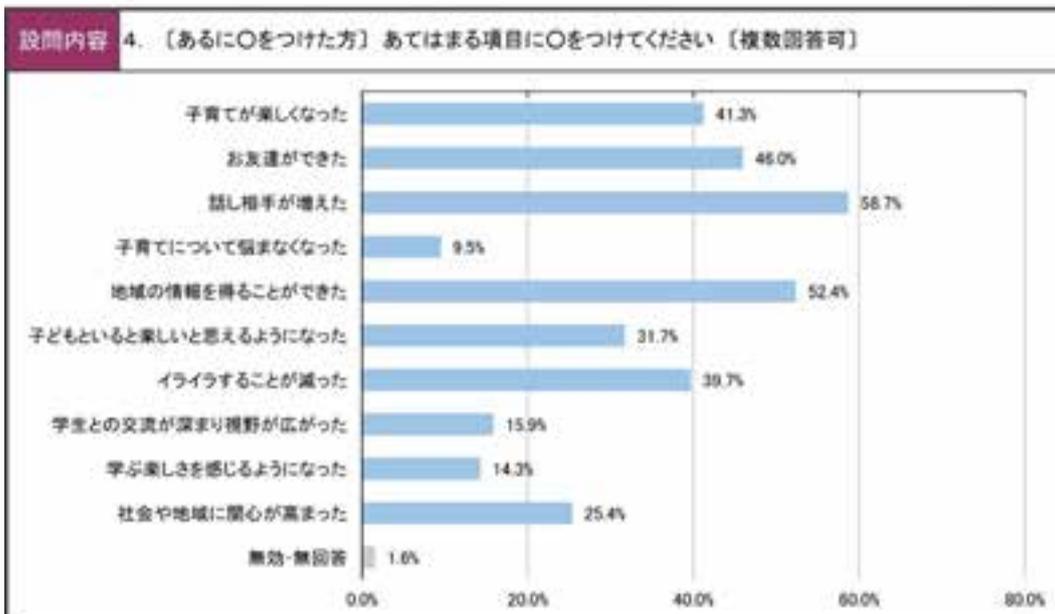
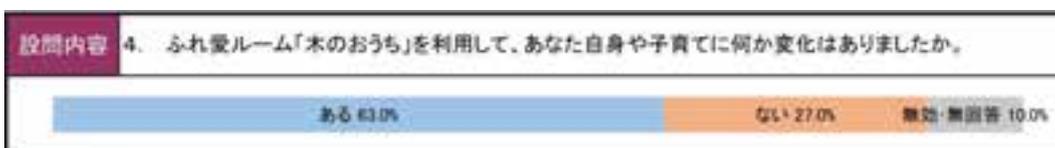


d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート抜粋集計結果（回答 100）

◆ ふれ愛ルーム「木のおうち」について

設問内容	5(とても満足)	4	3	2	1(不満足)	無効・無回答
3. ⑥ 子育てに関する情報提供	37.0%	36.0%	21.0%	5.0%	0.0%	1.0%
3. ⑦ 子育てに関する相談	31.0%	37.0%	26.0%	5.0%	0.0%	1.0%



4. ミニシンポジウム開催 ― ⑪

a. 平成 28 年度計画

ミニシンポジウムでは、本学オープンキャンパス会場でポスター展示を行う。

b. 実施内容

平成 28 年 9 月 11 日（土）のオープンキャンパスでミニシンポジウムを行い、今年度『地域志向教育研究奨励金制度』による教育研究助成 5 テーマの内、4 件の中間成果をポスター発表した。

合わせてニュースレターなど、COC・COC+関連の広報物も配布・展示するなど広報活動を行った。



c. 成果・自己評価

ミニシンポジウムを通じて、本学の地域貢献のあり方や和歌山地域を志向した研究について、高校生に発信することができた。

V. 活動報告（全体）

1. SD／FD 合同研修会 ― ⑫

a. 平成 28 年度計画

SD／FD 合同研修会では、本事業を全学的に推進し、**教育研究の地域志向を進めるため**の、全教職員を対象とした研修会を実施する。

b. 実施内容

平成 28 年 4 月 1 日（金）、本学全教職員を対象に、平成 27 年度の本事業計画と実施体制に関する研修会を実施した。

c. 成果・自己評価

本研修会を通じて、本事業の目的と計画を全教職員が理解し、全学的に推進する体制を整えることができた。

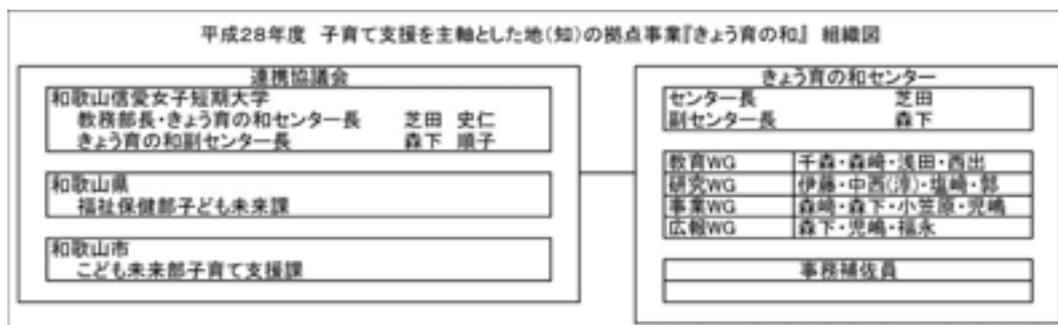
2. 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催 — ⑬

a. 平成 28 年度計画

『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催では、センター長を中心に、作業部会（教育・研究・事業・広報）を通じて、計画立案、環境整備、広報活動等、本事業を先導し、推進していく。また、本学代表と県、市の担当者からなる『連携協議会』を随時実施し、地域の声を事業に反映する。

b. 実施内容

平成 28 年度は、芝田史仁きょう育の和センター長 森下順子副センター長を中心として、計 13 名の教職員をセンター委員に任命し、きょう育の和センターの運営を行った（下記組織図参照）。



きょう育の和センター会議は定例月 1 回とし、平成 29 年 2 月現在で計 8 回実施した（議題参照）。

また、和歌山県、和歌山市との『連携協議会』を 2 回実施した（議事録参照）。

c. 成果・自己評価

きょう育の和センター会議を定期的で開催することで、事業の進捗状況をチェックすることができ、計画通り今年度事業を推進することができた。また、和歌山県や和歌山市との連携協議会を通じて、地域の要望を聞き取り、事業に反映することができた。

平成 28 年度 第 1 回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成 28 年 4 月 25 日（月）16：45～

場所：大会議室

出席：芝田・森下・千森・森崎・浅田・西出・伊東・中西淳・小笠原・塩崎・福永・児嶋

欠席：大山・郭

<議案>

○教育 WG

- ①『子育て・子育てサポーター』認定証（3月 COC スタッフ準備中）
- ②実践的教育プログラム：予算 50 万円 各科 25 万（12 月までに購入）
各科専攻で今年度のプログラム：参加されるゼミとテーマ、参加する学生数次回会議までに、検討。
- ③『きょう育の和コーナー』学生利用促進活動（重要課題）
次回までに案を検討する。
- ④和歌山大学図書館を視察（8・9月）

○研究 WG

共育の輪は森下先生、奨励金は WG
ポータルサイトには、森下、児嶋、福永

- ①『共育の輪』協議会（随時）
- ②『共育の輪』学習会
- ③『共育の輪』イベント（8・9月？）
- ④『共育の輪』専用ポータルサイト刷新（前期中）
- ⑤『地域志向教育研究奨励金制度』の運用

○事業 WG

- ①『子育て広場』、『ふれ愛ルーム 木のおうち』
- ②『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』（月 1 回程度）
次回のセンター会議にて計画案を提示（ワーキングで検討）
- ③ミニシンポジウム（8月オープンキャンパス）

○広報 WG

- ①『紀の国わかやまと世界』広報

- ②『子育て・子育てサポーター』養成講座広報
- ③『実践的教育プログラム』広報
- ④図書館『きょう育の和コーナー』広報
- ⑤『共育の輪』イベント広報
- ⑥『共育の輪』専用ポータルサイト刷新（前期中）
- ⑦『地域志向教育研究』広報
- ⑧『子育て広場』、『ふれ愛ルーム 木のおうち』広報
- ⑨『母親の再就職支援事業』『学び直し支援事業』の広報
- ⑩『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』広報
- ⑪ミニシンポジウム広報
- ⑫広報活動（チラシ・ポスター・パンフレット・ホームページ）
- ⑬きょう育の和センターニュースレターを年4回発行（広報 A4×2 ページ）
- ⑭中間報告書作成・事業成果報告書作成（5～8月と2月）

○その他

- ①SD/FD 合同研修会（4月1日終了）
- ②『きょう育の和センター』（毎月）と、『連携協議会』（随時）
- ③外部評価（2月）

○実施予定のアンケート調査

アンケート調査は、授業評価を除き、できるだけまとめて実施する。

・教育

- ①『紀の国わかやまと世界』アンケート調査（15回目授業までに実施）
- ②『子育て・子育てサポーター』養成講座のアンケート調査（地域子育て・子育て支援論 15回目授業までに）
- ③『実践的教育プログラム』アンケート調査（1月末に実施予定）
- ④図書コーナー利用者へのアンケート調査（1月に実施予定）

・研究

- ⑤『共育の輪』会員アンケート（ポータルサイトへの評価含む）（随時）

・事業

- ⑥広場・木のおうち利用者を対象としたアンケート調査（随時）

・その他

- ⑦ミニシンポジウムアンケート（8月）

⑧学生・教職員・連携行政機関を対象としたアンケート調査（1月末）

○その他

COC+との関連について

地域子育て・子育て支援論 公開講座について

○次回は平成 28 年 5 月 23 日（月）16:45～

平成28年度 第2回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成28年5月23日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

議案

○教育WG

①実践的教育プログラムについて

②『きょう育の和コーナー』学生利用促進活動（重要課題）進捗状況

○事業WG

①『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』について

○その他

○報告

①『第1回共育の輪連絡協議会 6月10日（金）9：30～11：30

②きょう育の和アンケートについて

③通行許可書について

④ニュースレター発行に向けて（進捗状況）

⑤公開授業について 7月11日（月）「子どもの遊び」

○その他

○次回は平成28年6月20日（月）16:45～

平成28年度 第3回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成28年6月20日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

○事業 WG

①『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』について（ミニ講座日程）

○研究 WG

①中間報告について（締切 9月15日）

②ミニシンポジウムについて（9月OC）

○その他

○報告

①共育の輪イベント 10月15日（土） 時間未定 内容未定

②きょう育の和アンケート（紀の国わかやまと世界）について

7月授業最終日に実施

③通行許可書について

運用中 期限あり（1年）、発行は木のおうちのみ、

④ニュースレター発行に向けて（進捗状況）

⑤公開授業について

7月11日（月）3・4限 地域子育て・子育て支援論「子どもの遊び」

講師：島先生（和歌山市保育士）

○その他

○次回は平成28年7月25日（月）16:45～

平成 28 年度 第 4 回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成 28 年 7 月 25 日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

○教育 WG

①実践的教育プログラムの進捗状況について

○研究 WG

①中間報告について（締切 9 月 15 日）

②ミニシンポジウムについて（9 月 OC）

○その他

○報告

①共育の輪イベントについて

第 3 回共育の輪ネットワーク会議：8 月 4（木）12：30～14：30 木のおうち

学習会：8 月 26 日（金）午前 木のおうち

ふたご・みつご交流会：10 月 15 日（土）午前 体育館

②『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』について

西出先生：終了

浅田先生：8 月 24・31 日 予定

森下先生：9 月 26 日（月）「子どもの発達に大切なこと」 10：30～11：00

森下先生：子育て相談 10 月～12 月まで 3 回 予約制

小笠原先生：10 月 12 日（水） 10：30～11：00

室先生：12 月 17 日（土） 子育て広場

③文部科学省への中間報告について

④ニュースレター発行に向けて（進捗状況）

⑤その他

○その他

○次回は平成 28 年 10 月 3 日（月）16:45～

平成28年度 第5回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成28年10月3日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

○教育WG

①実践的教育プログラムの進捗状況について 予算・日程等

- ・10月19日（水） 芝田ゼミ「お芋掘り」
- ・11月26日（土） 芝田ゼミ「森のイベント」

○センター長より

①広場保険の支払い規定について お見舞い金（2,000円）

○その他

○報告

①文部科学省面談の報告

②第5回共育の輪ネットワーク会議：10月4日（火） 10：00～13：00 木のおうち

前日準備：10月14日（金） 15：00～ 木のおうち 体育館

ふたご・みつご交流会：10月15日（土） 午前 体育館 和歌山大学・和歌山県立医科大学 大学生7名参加

③『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』について

西出先生：終了

浅田先生：8月24・31日 終了

森下先生：9月26日（月） 終了

森下先生：子育て相談 10月31日（月）、11月21日（月）、12月19日（月）

小笠原先生：10月12日（水） 10：30～11：00

室先生：中止

④10月のイベントについて

和歌山県男女共同参画センター企画講座

10月19日（水）、11月16日（水） 木のおうち

12月17日（土） 午後13：00から予定

地域子育て・子育て支援論公開授業 10月26日（水）

学園祭における木のおうち開放 10月29日（土）

⑤移動図書について

10月12日より 午前中の10:00から～11:30まで毎回閲覧可

⑥ホームページのスマートホン対応につて

⑦その他

○その他

○次回は平成28年11月28日（月）16:45～

平成28年度 第6回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成28年11月28日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

○教育WG

①実践的教育プログラムの進捗状況について

- ・12月14日（水） 小笠原ゼミ 人形劇の上演
- ・12月7日（水）、12月17日（土） 田原ゼミ 音のプレゼント
- ・12月19日（月） 井澤ゼミ 陶芸体験

②予算の執行状況

③報告書提出締切 1月30日（月）

○センター長より

①ひろば保険におけるお見舞い金の取り扱いについて

○センター長より

①きょう育の和アンケートについて

- ・紀の国わかやまと世界、地域子育て・子育て支援論授業アンケート 授業評価と同時期
- ・実践的教育プログラム授業アンケート ゼミ生対象 1月末
- ・木のおうち利用者（学生用）・図書利用、地の拠点アンケート（文部科学省用）はまとめて実施 1月11日（水）から18日（水） 全学生対象

○センター長より

①平成29年度シンポジウムの内容について

日程：平成29年8月29日（火）または30日（水）

開催場所：学外か学内か

学外の場合の候補：県立文化会館（仮押さえ済）

テーマ：案）短大COC校（3校） 合同フォーラム

「COCとして短期大学はどうすべきか 成果と今後」

○その他

○報告

①連携協議会について

和歌山市 11月29日、和歌山県 12月5日

②外部評価委員会日程について

案) 2月20日（月）、21日（火）、22日（水） 14:00～16:00

○広報より

○その他

○次回は平成29年1月23日（月）16:45～

平成 28 年度 第 7 回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成 29 年 1 月 23 日（月曜日）16：45～

場所：大会議室

<議案>

○教育 WG

①実践的教育プログラム報告書について

報告書提出締切 1 月 30 日（月）

報告書の様式は、教員 all で芝田が配信済 提出は芝田まで。

○平成 29 年度シンポジウムについて

日程：9 月 6 日（水）

場所：外部か学内か

○外部評価委員会について

日程：平成 29 年 2 月 20 日 14：00～16：00 まで

参加者：外部評価委員 3 名

久留米信愛女学院短期大学：関 聡 先生

和歌山大学：村田 和子 先生

近畿大学生物理工学部：泉 秀実 先生

学内：学長・学監・副学長・センター長・副センター長・センター委員

○センター長より

①きょう育の和アンケートについて

・紀の国わかやまと世界、地域子育て・子育て支援論授業アンケート 授業評価と同時期

・実践的教育プログラム授業アンケート ゼミ生対象 1 月末

・木のおうち利用者（学生用）・図書利用、地の拠点アンケート（文部科学省用）はまとめて実施 1 月 11 日（水）から 18 日（水） 全学生対象

○センター長より

①平成 29 年度「木のおうち」「子育て広場」スケジュールについて

○平成 29 年度予算について

○その他

①来年度に向けての課題

○報告

①広報よりニュースレターについて

②その他

○次回は平成 29 年 2 月 15 日（水） 15:00～

平成28年度 第8回きょう育の和センター会議 議事

日時：平成29年2月15日（水曜日）15：00～

場所：大会議室

<議案>

○外部評価委員会について

①事業成果報告書と当日の進行

日程：平成29年2月20日（月） 14：00～16：00 まで

参加者：外部評価委員3名

久留米信愛女学院短期大学：関 聡 先生

和歌山大学：村田 和子 先生

近畿大学生物理工学部：泉 秀実 先生

学内：学長・学監・副学長・センター長・副センター長・センター委員

○平成29年度予算について

①地域志向教育・研究報告集

②シンポジウム用映像資料

○その他

①来年度に向けての課題

○報告

①広報より ニュースレターについて

②通行証の返還について

返却ボックスを木のおうちと子育て広場に設置予定

更新は3月1日から予定 利用は4月から 許可書の色が、緑から水色へ変更

③陶芸作品の返却について 2月15日から27日まで、保育棟1階階段ホール

④地域志向研究経費公募について 2月17日（金）締め切り

⑤その他

平成 28 年度 第一回連携協議会 議事録

日時：平成 28 年 11 月 29 日 16：00～17：00

場所：和歌山市役所こども未来部

○出席者

和歌山信愛女子短期大学：芝田（きょう育の和センター長）、森下（きょう育の和副センター長）

和歌山市こども未来部：宮崎部長、須寄、森

○議事録

短大：

本年度に本学が和歌山市と連携して行った子育て支援事業（木のおうち、子育て広場）の事業成果について、利用者数を中心に報告する。さらに、来年度の計画としてシンポジウムを 9 月初めに開催する予定であることを報告し、協力を要請する。併せて、来年度 4 月の子育て広場は開催しない可能性があることも告げる。

次に、今後検討すべき課題として、大学が行う子育て支援の在り方の検討、木のおうち以外でのきょう育の和センター利用などを挙げ、今後の取り組みに対する市としての要望について尋ねる。

市：

この事業が、学生の子育て支援への意識向上に役立っているのか、この事業が 5 年後、10 年後の姿にどう反映されているのかを知りたい。

短大：

学生スタッフの育成について課題があること、地域子育て・子育て支援論において、木のおうちと連携した授業を行っていることを伝える。また、木のおうち利用者による学生食堂の利用が増え、学生が親子と交流する機会が増えつつある現状を説明する。さらに、今年度学園祭で、木のおうちを利用する保護者の方を中心としたブースを出店し、母親に達成感を感じてもらおう試みを行ったことについても報告する。最後に、卒業生への追跡調査の必要性について市と共通認識を深めた。

市：

来年度は今年度同様、保育士派遣で人的貢献を行っていく、保育士の構成も概ね変わらない予定である。

平成 28 年度 第二回連携協議会 議事録

日時：平成 28 年 12 月 5 日

場所：和歌山県庁子ども未来課

○出席者

和歌山県福祉保健部福祉政策局子ども未来課：松下班長、和田

和歌山信愛女子短期大学：芝田、森下

○議事録

短大より：「子育て・子育てサポーター」資格取得見込み者数を報告する。また、認定証の様式についても説明する。今後、卒業生が県内市町村のファミリーサポーターとして活動したいと考えた際に利用することが考えられるため、県内の関係機関への周知を要請する。この他、木のおうちの活動実績を報告する。

県より：資格取得後、実際にファミリーサポーターとして活動するまでの期間が長期にわたる場合は、再講習が必要であると認識している。

短大：今後は、県との連携の枠を広げていきたい。

県：今後開設予定の、子育て世代包括支援センターなどを通じ、フォーマル、インフォーマルの情報提供を行って行きたい。

県：保育所の子育て広場に人がつどっていない現状がある。保育所では、お母さんを指導するようなどころがある。母親は大人との会話を求めているのに、理解できないスタッフがいる。

短大：行政にできない、大学ならではの子育て支援とは何かを考えていきたい。

県：短大では学生が入っている点が、行政が行う支援との違いである。また、エリアを限らずに支援できているのが良い。行政は市町村単位に限られてしまう。

短大：短大での 2 年間にとらわれず、幼少期から卒業後も長い目での教育を行って行きたい。

県：短大の学生が常に声を掛けてくれるため、母親も行きやすい。

短大：学生が保護者と関わる機会であると考えている。

県：和歌山市との連携は今後も継続するのか？

短大：継続する予定である。

県：市からの人的補助はどうなっていくのか？

短大：保育士 2 名は今後も変わらず派遣される予定である。

短大：来年度はシンポジウムを 9 月初旬に計画しており、動員・広報をお願いしたい。

県：早めに計画をお願いしたい。

短大：短大への要望はないか？

県：きょう育の和センターが毎日開いているとありがたい。保育士がいなくとも、公園のように開放されていれば、保護者も利用しやすくなるのでは。また、公民館へ呼びかけ、公民館活動と連携してはどうか。公民館を中心とした子育て支援活動があり、そこと連携してはどうか。

短大：今年度の実績報告書作成について依頼する。

県：早めに実績を教えてもらいたい。子育て支援員研修について、和太から信愛への委託依頼がある。来年度についても、ファミサポ講習の部分だけでも信愛でお願いできないかと和太は考えているようだが、現状としては受けられそうか。

短大：予算的補助のない現状で、次年度に講習を開設するのは困難ではないか。

3. 広報活動 — ⑭

a. 平成 28 年度計画

広報活動においては、チラシ・ポスター・パンフレットの作成・配布、本学ホームページへの掲載等を通じて情報を開示する。さらに、きょう育の和センターニュースレターを年 4 回発行し、学生や地域住民への広報に努める。

b. 実施内容

平成 28 年度に作成し、配布した広報物は以下の通りである。

チラシのテーマ	配布時期
子育て広場	4月
第1回共育の輪学習会	8月
ふたご・みつご大交流会学生ボランティア募集	9月
ふたご・みつご大交流会	9月
「地域子育て・子育て支援論」公開講座	6月
「地域子育て・子育て支援論」公開授業	10月
子育て個別相談	10月
第2回共育の輪学習会	12月
木のおうち・子育て広場ニュースレター	各月年6回
COC事業ニュースレター	1月・3月(予定)

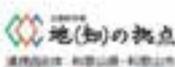
また、これらの印刷物は本学ウェブサイト (<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>) においても PDF を公開し、日々の取り組み紹介と共に随時掲載し、情報公開に努めた。特に今年度は情報提供ページについてもスマートフォンへの最適化を行ったことにより、より閲覧製を高めた。

c. 成果・自己評価

広報活動を通じて、学生・地域の住民に広く本事業の目的、必要性、利点、進捗状況等を正確に理解してもらうよう努めた。その結果、地域住民を対象としたアンケートにおいて「本学が、和歌山県における「地（知）の拠点」大学として、地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っている。」と答えた保護者の割合が『子育て広場』利用者で 76.6%（回答 47）、『ふれ愛ルーム 木のおうち』利用者で 46%（回答 100）となった。この結果は、本学の広報活動の成果であると評価できる。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■COC ニュースレター 第2号 (表面)

和歌山信愛女子短期大学 COC 事業  地(知)の拠点
連携施設 和歌山県・和歌山市

News Letter

子育て支援を主軸とした地(知)の拠点事業
「きょう育の和」

2016.11
第2号

TOPICS

- 平成28年度「紀の国わかやまと世界」
- 「地域子育て・子育て支援論」公開講座
- 平成27年度地域志の教育研究レポート

【お礼コメント 準のおうち利用条件】
 ※記事のお手紙に添付します。付き添いは必要ありません。お父さんお母さん、おしいちやんおやあはちやんもご一緒に読んでいただけます。

「きょう育の和」とは?



「きょう育の和」とは、和歌山のきょう育（子育て・教育・発達）を支援し、和歌山の子どもを育てやすく、和歌山の社会に個性豊かな子どもが育つことです。和歌山の認定女子短期大学では、子育て支援員が、和歌山県・和歌山市の地域の人々と一緒に、「きょう育の和」の活動に参加しています。

「紀の国の歴史や食を学ぶ」



和歌山の地域活性化推進に取り組み和歌山大学共通教育科目「紀の国」科目14科目として開設された「紀の国わかやまと世界」平成27年度履修生1年次生を対象に「紀の国の歴史と文化」(和歌山の文化)、「紀の国わかやまと世界」(和歌山の食文化)、「紀の国の歴史や食を学ぶ」(和歌山の歴史や食)の3科目として平成28年度履修生1年次生を対象に開設しました。この他に、和歌山大学1年次生を対象とした「紀の国の歴史や食を学ぶ」科目として開設し、和歌山県に在住する学生の授業も実施しています。

「紀の国わかやまと世界」が充実

平成27年度と比べ、和歌山地域の学びがより深まりました。

公開講座 「地域子育て・子育て支援論」を実施

7月11日(月)平成28年度第4回和歌山の公開講座として「地域子育て・子育て支援論」の公開講座を開催しました。和歌山県立和歌山大学と和歌山県立和歌山短期大学の先生が講師として参加いただきました。

子どもが産まれた瞬間に迎える変化を理解し、保護者・子育て支援員が一人ひとりの状況に応じて適切な支援を行えるよう、和歌山県立和歌山短期大学は子育て支援員が活躍の場を創りました。受講生や保護者の皆さんは和歌山県立和歌山短期大学の先生が育む子どもたちの成長と学びの経験を共有することができたと思いをいただきました。

県民の保育者の皆さんも参加!!



県民からは子育て支援員など実践を中心に参加!!

「地(知)の拠点事業(COC)」とは?

大学や短大などとの連携関係に、県や市町村との協働で地域活性化を図り、教育・研究・社会貢献を進める事業のことです。この事業によって、教育施設・人材育成、住民の暮らし、地域づくりの中心の存在として機能が見込まれます。

©COC Center of Community

d. 資料・写真・アンケート結果等

■COC ニュースレター 第2号（裏面）

平成27年度 地域志向教育研究レポート

REPORT 01 和歌山県内中部山岳地帯における森林性哺乳類・鳥類の生息状況

和歌山県内に生息する森林性野生動物の生息状況を明らかにするため、平成27年5月から県内の山林に巣箱と自動撮影カメラを設置した調査を実施しています。平成27年12月までに、哺乳類11種、鳥類10種の生息が確認されました。哺乳類では、ニホンジカが最も多く確認されましたが、絶滅が危惧されるツキノワグマやニホンカモシカ、ヤマネ等の生息も確認できました。一方、鳥類では巣箱を繁殖地に利用するヤマガラやシジュウカラなどのカウ類が最も多く観察されました。これらの調査から、巣箱は繁殖地を利用する鳥類のみならず、これらを狙うテンやツキノワグマ、フクロウ等の捕食者、シカやイノシシなど陸上性哺乳類の生息確認にも有効であることが明らかとなりました。

森林性野生動物の生息状況を調査！
成果を共有し、
観察できました！

REPORT 02 災害に備える紀伊半島の住まいの地域特性に関する研究

紀伊半島でも熊野川流域には、アガリヤと呼ばれる水害時の避難小屋をもつ家が多く存在しました。主屋が洪水で浸水すると、1〜2日宿泊出来るように造られた簡易な建物です。敷地内の平出地に一段階高を高くして上層に設けたものや背後の丘陵地に基礎を設けて設置したもの、東を建てて壇上型から持ち出す構造等があります。アガリヤの普及期は昭和40年頃で、昭和30年前後の災害やダム建設が一因です。その後、二層屋の増加や公共施設の活用によりアガリヤは減少していきます。現在では、主屋を階上に移し上げたゼロティ形式も試みられ、水害対策も変化しています。

REPORT 03 乳幼児をもつ母親のソーシャル・サポートと育児負担感との関連性

●お母さんの育児負担感を低めるサポートは？

- 家族：器具的サポート
- 家族：情緒的サポート
- 子育て仲間：器具的サポート
- 子育て仲間：情緒的サポート

●お母さんの育児負担感を高めるサポートは？

- 家族：器具的サポート
- 家族：情緒的サポート
- 子育て仲間：器具的サポート
- 子育て仲間：情緒的サポート

子育て中のお母さんの中には、核家族化や地域のつながりの希薄化によって孤立している方も多くいます。本研究は、育児に対する負担感、育児の肯定感を高めるために、育児に影響するサポートに注目し、お母さんにとって子どもを育てやすい環境を考えるものです。

今回の調査で、育児の負担感を軽減するためには家族からの子育ての助言や協力という道具的なサポートが必要であり、育児の肯定感を高めるためには、家族に悩みを聞いてもらう情緒的サポートと、子育て仲間からの助言といった道具的サポートが有効だとわかりました。

平成28年度 地域志向教育研究採択テーマ

- 和歌山県における地域調査の普及と支援（伊藤 望）
- アンケート調査に活用された和歌山県内の防災支援センターの活用に関する研究（村上 九子）
- 和歌山県内の防災支援センターの活用に関する研究（村上 九子）
- 和歌山県内の防災支援センターの活用に関する研究（村上 九子）
- 和歌山県内の防災支援センターの活用に関する研究（村上 九子）

和歌山県立女子短期大学

きょう育の和センター

Tel 073-479-1100(携帯) Fax 073-479-1107
E-mail kosodate-coc@shimai-u.ac.jp
http://www.shimai-u.ac.jp/kyoikutowa/

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 第1回共育の輪学習会告知物



平成28年度 **共育の輪学習会**

「ひとひひとひが主役になれる」

トラムサークル
 ＊＊＊＊＊ ミュージック・ケア体験あり ＊＊＊＊＊

子育て支援関係者さん向け講習会・実践

参加費
無料
*要予約

[日時] 8月26日(金) 10:00～12:00 (受付9:45)

[会場] 和歌山信愛女子短期大学 ふれ愛ルーム木のおうち

[参加対象] 共育の輪会員と会員のお子様 (定員15名)

*定員になり次第締め切ります。

赤ちゃんから高齢者まで、障がいがあってもなくても、ひとひひとひが主役になれるトラムサークル・音楽療法を展開、育児や仕事のストレス発散、癒し、認知症予防、親子のコミュニケーション等、音楽の特性の一部をいかし、多世代の支援をされています。

【講師】 大中 和美 さん

ハートミュージック 代表
和歌山ミュージック・ケア研究会～Hop!Smile～ 代表
トラムサークルファシリテーター協会 ファシリテーター



たいこや楽器を使用し、トラムサークル、ミュージック・ケア体験をします、お子様も大歓迎♪

和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター

TEL 073-479-1106 (直通・平日:10:00～15:00)
*団体名・お名前・お子様のお名前と年齢(参加の場合)・住所・連絡先をお伝えください。

FAX 073-479-1107

MAIL kosodate-coc@shinai-u.ac.jp

申込締切 8/22(月)

お申込み
お問い合わせ

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 第2回共育の輪学習会告知物

地(知)の拠点

平成28年度 第2回共育の輪学習会

**参加費
無料**
(先着15名様)

支援者向けセミナー

**子ども達の豊かな未来のために
私たちが今できること**

講師：梅原 直子さん
(貝塚市主任児童委員、大阪成蹊短期大学・プール学院大学短期大学部の元非常勤講師等)
大阪府貝塚市で28年前に、地域子育てサークルを発足後、貝塚子育てネットワークの会を立ち上げ、現在は、平成28年度子育て支援員研修の講師や貝塚市内の中学校で放課後学習支援をされています。

日程▶ 平成29年1月19日(木)

時間▶ 10:30~12:00 (受付10:15)

場所▶ 和歌山信愛女子短期大学
ふれ愛ルーム木のおうち

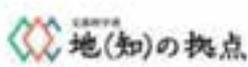
対象▶ 共育の輪会員

ご予約・お問い合わせ
和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター

TEL 073-479-1106
MAIL knsodate-coc@shinai-u.ac.jp

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 ふたご・みつご大交流会告知物



和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター
共育の輪企画

ふたご・みつご大交流会

当座もやります♪

日時：2016年10月15日(土)
10:00～12:30(9:45 受付開始)

場所：和歌山信愛女子短期大学 体育館
(和歌山市相坂 702-2)

対象：多胎児家族、
多胎児子育て経験のある方
(子ども連れ小学低学年まで、
母親のみの参加可能)
多胎妊婦、ご自身が双子の方

定員：30 組
参加費：無料



保育科学生による
Halloween 工作、自由遊び





多胎児家族のグループトーク

保健師による
体重測定
育児相談

先輩双子(男男)ママによる
育児講演

育児用品
リサイクル
無料



フル・アンファンによる
人形劇

お問い合わせ・お申込み

090-9701-9741 sayur@yahoo.co.jp ふたごぐみ 佐藤

申し込み締め切り 2016年9月20日 卒業の都合上、お早めにお申し込みください
(締切を過ぎてからの参加希望はご相談ください)

詳しくは <http://futagogumi.blog.fc2.com/>

共育の輪とは・・・

子育て中の家庭や支援団体、行政、大学を結ぶネットワークです

詳しくは <http://www.shinai-u.ac.jp/fomokunowa/>



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 ふたご・みつご大交流会学生ボランティア募集掲示物

平成28年度

ふたご・みつご大交流会

企画・運営から関わって自分力を育てよう!

学生ボランティア

大募集

当日までに数回打ち合わせをします (自由参加)

日にち 平成28年10月15日(土)

時間 9:30~13:00 (準備・後片付け含む)

参加希望の方は、木のおうち
もしくは 森下まで

和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター

d. 資料・写真・アンケート結果等

■子育て個別相談 告知掲示物

地(知)の拠点

子育て個別相談

子育てに関すること、お子さんの発達、お母さん自身のことなど、お気軽にご相談ください。
*守秘義務は守られますので、ご安心ください。

平成 28 年度

●10/31(月) ●11/21(月) ●12/19(月)

① 10:30～ ② 11:00～ ③ 13:30～ ④ 14:00～

定員：各日 4 名 (1人 30 分×4) *完全予約制

場所：和歌山信愛女子短期大学 プレイルーム 2
*木のおうちのとなりのお部屋です。

〈アドバイザー〉
和歌山信愛女子短期大学 保育科 **森下順子** 准教授
臨床発達心理士/学校心理士/ガイダンスカウンセラー

お申し込みは、木のおうちスタッフまで。




d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 本学ウェブサイトキャプチャー画面（<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>）抜粋

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

和歌山信愛女子短期大学

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム 交通アクセス お問い合わせ

誰かのために働く。ひとりの心ひとつの心

在学生・保護者の方 入学希望者の方 卒業生の方 企業・研究者の方 社会人・地域の方

★ 大学案内

★ 学科・専攻

★ 図書館・付属施設

★ 学生生活

★ 進路・就職

★ 入試情報

★ 研究者情報

WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college

ホーム > 地(知)の拠点整備事業『きょう育の和』

きょう(教・共・郷)育の和

地(知)の拠点整備事業

★ 地(知)の拠点整備事業『きょう育の和』

『きょう育の和』は、3つの『きょう育』を目指します。

『教育』…… 子育て・子育てに関わる機関・団体・学生に学び合いの場を提供する

『共育』…… 地域が共に子育てに関わる社会を育む

『郷育』…… 教育から共育、そして郷育へ、この世代間の循環による地域活性化を目指す

★ 事業の概要

d. 資料・写真・アンケート結果等

■本学ウェブサイトキャプチャー画面（<http://www.shinai-u.ac.jp/kyoikunowa/>）抜粋

平成25年度地（知）の重点整備事業で採択された「子育て支援を主軸とした地（知）の...

- **きょう（教・共・郷）育の和センター**
本学保育科教員が中心として運営してきた「子育てサポート研究センター」を発展させ...
- **きょう育の森（子育て広場・木のおうち）**
ふれ愛ルーム木のおうち「和歌山信愛女子短期大学」と「和歌山市」との連携で子育て...
- **子育て・子育てサポーター養成講座**
独自の認定資格「子育て・子育てサポーター」養成講座を開設します。全学的取り組み...
- **教養科目の新領域『紀の国和歌山と世界』**
教養科目改革により、教育の地域志向化を促進します。従来の基礎教養科目群を改革し...
- **共育の輪**
子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」構築に向けた実践的研究を行います。...
- **活動報告**
 - 木のおうちも子育て広場 Newsレター Vol.12 (2月・3月)
 - 熊野熊野作品の引き渡しと展示について
 - ふたご・みつご大交流会 開催報告
 - 木のおうちも子育て広場 Newsレター Vol.11 (12月・1月)
 - 11月26日（土）森のイベントについて
 - 保育料定額ゼミ「秋のお祭り」を開催しました
 - 木のおうちも子育て広場 Newsレター Vol.10 (10月・11月)
 - ふたご・みつご大交流会を開催します
 - 木のおうち・子育て広場 奨励奨励給の開催について
 - 木のおうちも子育て広場 Newsレター Vol.9 (8月・9月)
 - 7月9日（土）「子育て広場」開催
 - 平成28年度第1回「共育の輪ネットワーク会議」を開催
 - 6月4日（土）「子育て広場」開催
 - 5月21日（土）「子育て広場」開催
 - 木のおうちも子育て広場 Newsレター Vol.8 (5月・7月)
 - 4月23日（土）「子育て広場」開催
 - 平成28年度子育て広場の年報日程
 - 木のおうちも広場 Newsレター Vol.7 (4月・5月)
 - 3月12日（土）「子育て広場」開催
 - 平成27年度外部評価委員会を開催しました。
 - 2月20日（土）「子育て広場」開催
 - 【木のおうち】食室・保育棟の工事と2月・3月子育て広場の場所変更のお知らせ
 - 「和歌山信愛女子短期大学きょう育の和センター ニュースレター 2016.1第1号」を発行しました。
 - 1月20日（水）「絵本ミュージックシアター」開催
 - 木のおうちも広場 Newsレター Vol.6 (2月・3月)
 - 1月23日（土）「子育て広場」「親子で遊ぼう！保護者教養タイム」開催
 - 千歳ゼミ「ひのきくんと用いた空間創出力への試み」開催
 - 木のおうちも広場 Newsレター Vol.5 (12月・1月)
 - 1/20（水）「絵本ミュージックシアター」のご案内
 - 木のおうち年末年始の休館日について
 - 木のおうちの「クリスマス祭り」を行いました。

d. 資料・写真・アンケート結果等

■本学ウェブサイトキャプチャー画面 記事（参考）

The screenshot shows the homepage of WAKAYAMA SHIN-AI women's junior college. The header includes the college logo and name in English and Japanese, along with navigation links for Home, Access, and Contact. A main banner features a photo of the campus with the slogan "誰かのために働く。" (Working for someone else).

The main content area is titled "ふたご・みつご大交流会を開催します" (We will hold a symposium for twins and triplets). The article text reads:

子育て・子育て支援ネットワーク「共育の輪」の企画として、今年も『ふたご・みつご大交流会』を開催します。

対象は多胎児家庭、多胎児子育て経験・子育て中の方、多胎妊婦の方など。詳しくは下記のチラシと昨年開催レポートをご覧下さい。

ふたご・みつご大交流会
■日時
 2016年10月15日（土）
 10:00～12:30（9:45より受付開始）
■開催場所
 和歌山信愛女子短期大学 体育館
アクセス情報

■お問い合わせ・お申込み
 ふたごくみ 後藤（連絡先はチラシをご確認ください）

At the bottom, there is a promotional flyer for the symposium with the title "ふたご・みつご大交流会" and the date "日時：2016年10月15日(土)".

d. 資料・写真・アンケート結果等

■ 本学ウェブサイトキャプチャー画面 記事（参考）

日時：2016年10月15日(土)
10:00～12:30(9:45 受付開始)
場所：和歌山信愛女子短期大学 体育館
(和歌山市相模 702-2)

対象：参加費無料、
 参加親子費で経験のある方
 (子ども連れ小学低学年まで、
 母親のみ参加可能)
 参加可能、ご自身が親子の方
 定員：30組
 参加費：無料

和歌山信愛女子短期大学のイベント

保育科学生による
Halloween 工作、自由遊び

保護者による
授業参観
育児相談

先輩親子(両親/ママ)による
育児講座

賞状商品
リサイクル
無料

フル・アンプトによる
人形劇

お問い合わせ・お申込み
 099-9701-9741 seyu@wcc.ac.jp **ふたごお** 学園
 お申し込み締切日：2016年9月20日 学園の都合上、お早めにお申し込みください
 (締切を過ぎてからの参加希望はご遠慮ください)
 詳しくは <http://futagooand3mag.fc2.com/>

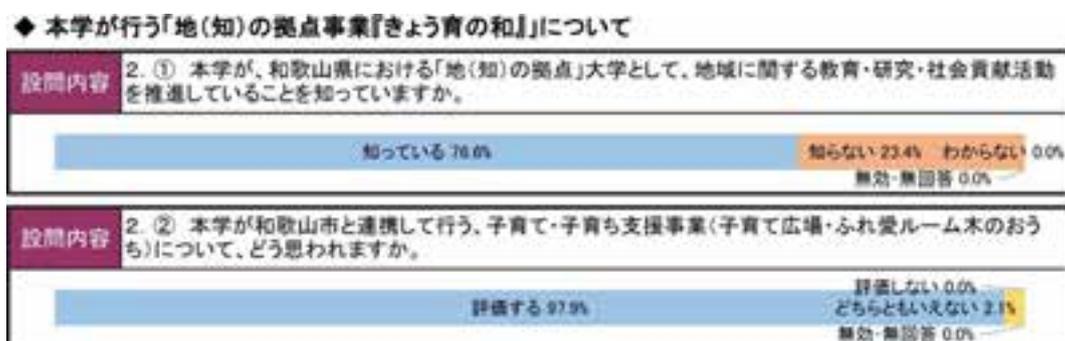
ふたごお

和歌山信愛女子短期大学
 〒640-0341 和歌山市相模702番2
 TEL: 073-479-3330 FAX: 073-479-3321 E-mail: kyu@wcc.wakayama-u.ac.jp

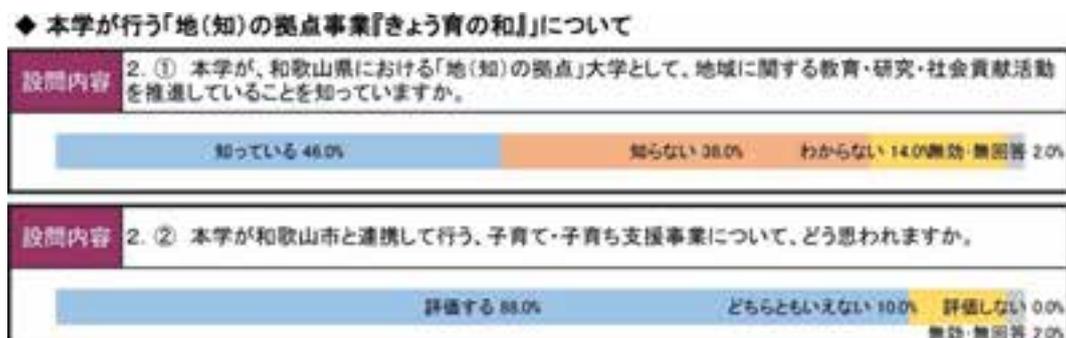
©2016 - 2017 WAKAYAMA Christian women's junior college

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成 28 年度 子育て広場利用者アンケート【保護者用】抜粋集計結果（回答 47）



■平成 28 年度 ふれ愛ルーム木のおうち利用者アンケート【保護者用】抜粋集計結果（回答 100）



4. 事業の進捗状況に関するアンケート調査の実施 — ⑮

a. 平成 28 年度計画

学生・教職員・連携行政機関を対象としたアンケート調査を実施することで、本事業の進捗状況を確認する。

b. 実施内容

平成 28 年度に実施したアンケート調査は以下の通りである。

	調査項目	調査対象	実施時期	回収件数
①	「共育の輪」取り組みに関するアンケート	保護者	10月	32
②	子育て広場利用者アンケート(保護者用)	保護者	11月・12月・1月	47
③	子育て広場学生レポート(平成28年度)	学生	随時	82
④	きょう育の森(子育て広場・木のおうち)利用申込書	保護者	実施中	590
⑤	「紀の国わかやまと世界」授業アンケート	学生(2・1年)	7月・12月	191
⑥	「地域子育て・子育て支援論」授業アンケート	学生(2・1年)	7月・11月	119
⑦	実践的教育プログラム 授業アンケート	学生(2年)	1月	87
⑧	ふれ愛ルーム木のおうちアンケート(保護者)	保護者	11月・12月	100
⑨	ふれ愛ルーム木のおうちアンケート(学生)(⑨-1) 図書利用アンケート(⑨-2) 地の拠点アンケート(⑨-3)	学生 全員	1月	370
⑩	「共育の輪」学習会アンケート	共育会員	8月	3
⑪	きょう育の和アンケート(学生アイデア募集)	学生	実施中	1
⑫	学園祭スタッフ参加のお母さん方へアンケート	保護者	10月	6
⑬	第2回「共育の輪」学習会アンケート	共育会員	1月	9

これらのアンケート集計は本報告書の各関係する項目において提示している。

c. 成果・自己評価

アンケート調査を実施することで、本事業の成果を客観的に評価することが可能になった。

d. 資料・写真・アンケート結果等

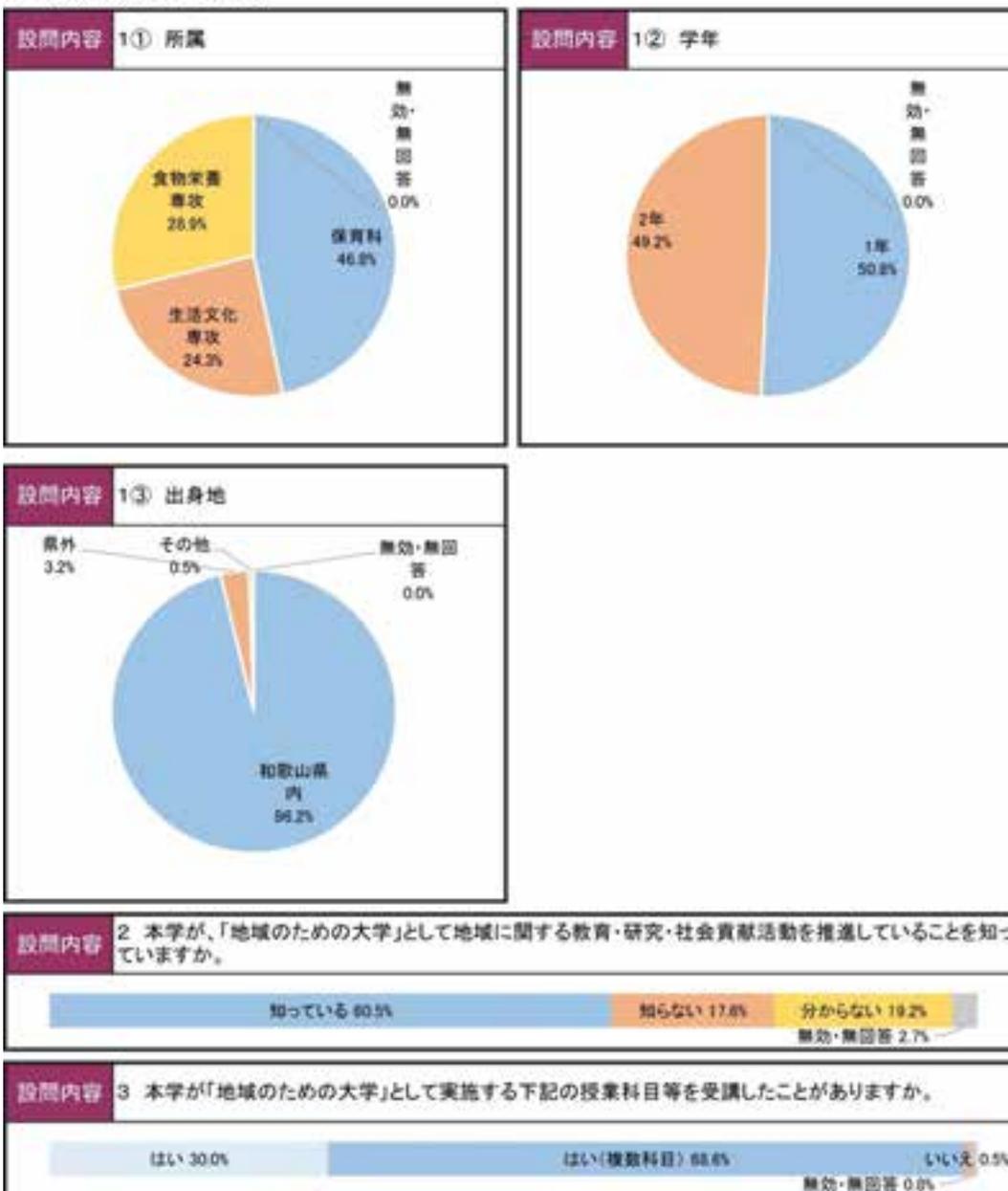
■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート集計結果（回答 370）

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート グラフ-1

2017年2月 和歌山信愛女子短期大学

回答者数 370

◆あなたの出身について



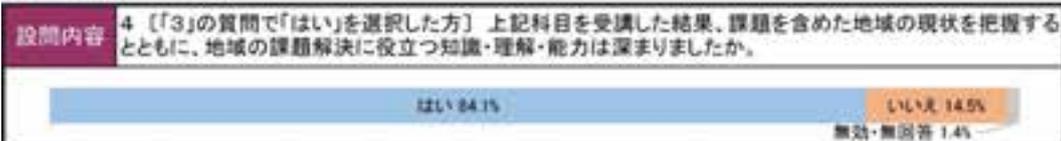
d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート集計結果（回答 370）

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート グラフ-2

2017年2月 和歌山信愛女子短期大学

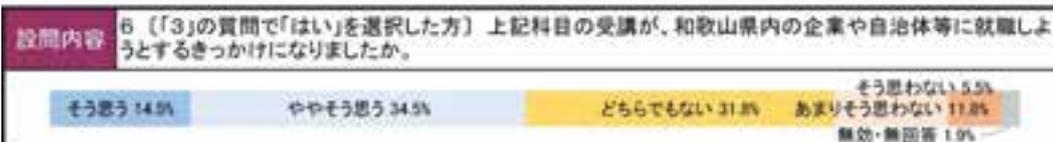
回答者数 370



◆受講した結果力が身についたか

〔「3」の質問で「はい」を選択した方〕

設問内容	はい	いいえ	無効・無回答
5-1 地域の自然・歴史・文化・暮らしへの知識・理解	77.0%	22.2%	0.8%
5-2 子どもや、子育て中の家族に対する理解	69.2%	29.0%	1.6%
5-3 子育て支援に関する制度への理解	66.0%	31.8%	1.6%
5-4 子どもや保護者、地域の人々と良好な関係を作り、その心に共感できるコミュニケーション力	64.4%	33.7%	1.9%
5-5 周囲の人々と協力できる協調性	77.0%	21.4%	1.6%
5-6 地域課題解決のために、中心となって取り組めるリーダーシップ	48.5%	49.0%	2.5%
5-7 地域の課題に気づき、その解決に向けて行動できる力	57.5%	40.3%	2.2%
5-8 郷土を愛する心	78.6%	19.5%	1.9%
5-9 地域を支える市民としての責任感	62.5%	29.6%	1.9%
5-10 高い専門的知識と技能で、子育て・子育てを支援できる実践力	55.9%	41.6%	2.5%



d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート集計結果（回答 370）

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート グラフ-3

2017年2月 和歌山信愛女子短期大学

回答者数 370

◆どの程度知っているか

設問内容	知っている	少しは知っている	全く知らない	無効・無回答
8-1 本学が、子育て・子育て支援に関し、和歌山県における地（知）の拠点であること。	41.8%	46.8%	11.8%	0.0%
8-2 本学が、和歌山県・和歌山市と連携して事業を行っていること。	38.9%	38.4%	22.7%	0.0%
8-3 基礎教養科目群『紀の国わかやまと世界』	19.3%	31.1%	48.6%	0.0%
8-4 子育て・子育てサポーター	51.4%	31.6%	16.9%	0.0%
8-5 図書館にある『きょう育の和コーナー』	36.5%	39.2%	24.3%	0.0%
8-6 きょう育の和センター	33.8%	40.5%	25.7%	0.0%
8-7 子育て・子育て支援施設『きょう育の森』（森の広場のびのび、ふれ愛ルーム木のおうち）	61.1%	24.6%	13.8%	0.0%
8-8 子育て広場	62.7%	27.0%	10.0%	0.3%
8-9 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』	24.1%	40.8%	35.1%	0.0%
8-10 本学が行っている社会人の学び直し支援事業（科目等履修生制度・聴講生制度）	17.0%	36.8%	45.9%	0.0%

設問内容	ある	ない	無効・無回答
9 この1年間に、「子育て広場」・「木のおうち」に見学・参加したことがありますか。	58.9%	39.2%	1.9%

◆『ふれ愛ルーム木のおうち』に関して

〔「9」の質問で「はい」を選択した方〕

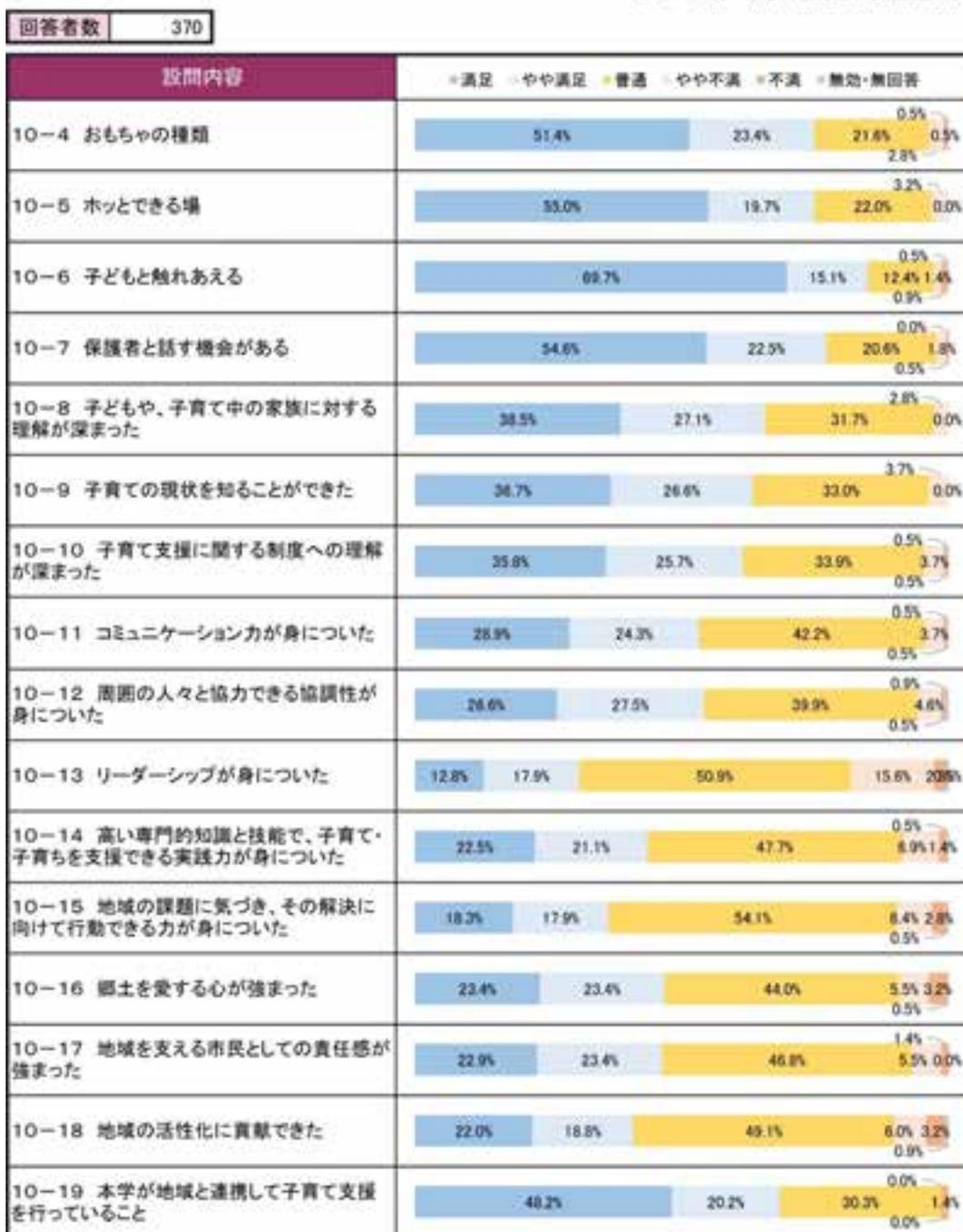
設問内容	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無効・無回答
10-1 開所している曜日（月・水）	36.7%	21.6%	34.4%	6.0%	0.5%	0.0%
10-2 開所時間（10:00～15:00）	46.3%	18.8%	28.9%	4.6%	0.0%	0.5%
10-3 室内の広さ	45.4%	18.3%	30.7%	5.5%	0.0%	0.0%

d. 資料・写真・アンケート結果等

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート集計結果（回答 370）

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート グラフ-4

2017年2月 和歌山信愛女子短期大学



d. 資料・写真・アンケート結果等

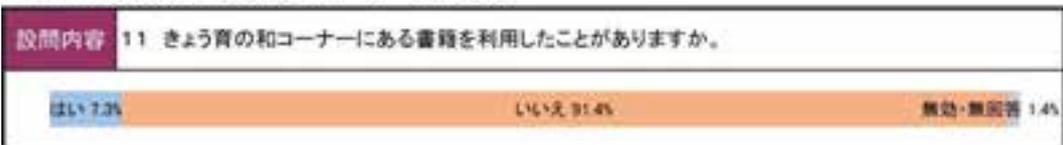
■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート集計結果（回答 370）

■平成28年度 地（知）の拠点整備事業に関するアンケート グラフ - 5

2017年2月 和歌山信愛女子短期大学

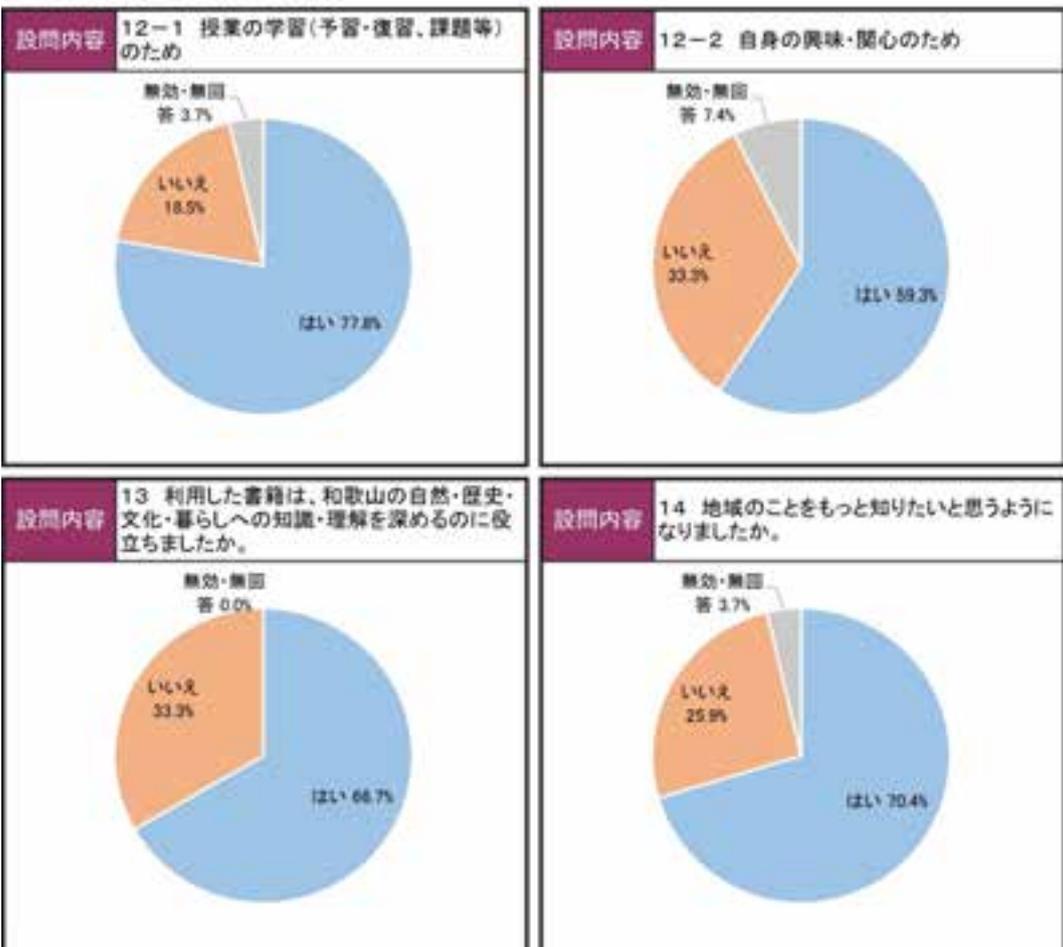
回答者数 370

◆図書館にある『きょう育の和コーナー』について



◆どのような理由でご利用したか

〔「11」の質問で「はい」を選択した方〕



5. 自己点検評価委員会による自己点検評価ならびに外部評価委員会による外部評価の実施・報告書作成 — ⑩

a. 平成 28 年度計画

事業の中間報告を行うと共に、事業成果報告書を作成し、地域住民や関係機関・団体に広く公開する。さらに、本学自己点検評価委員会による自己点検評価と本学が依頼した 3 名の外部評価委員による外部評価により、本事業の進捗状況について評価を得るとともに、次年度の事業実施計画を検討する。

b. 実施内容

平成 28 年 2 月 20 日（月）14：00～16：00 の日程で、外部評価委員会を開催した。外部評価委員は以下の通りである。

○外部評価委員 3 名

関 聡（久留米信愛女学院短期大学 学長）

村田 和子（和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 副センター長）

泉 秀実（近畿大学生物理工学部 食品安全工学科 教授）

c. 成果・自己評価

外部評価委員会を実施することで、本事業が適正に推進されていることを確認することができた。また、平成 29 年度は補助事業最終年度であり、補助事業終了後の展望について、外部評価委員の助言を基に次年度事業計画を見直すことが可能となった。

平成 28 年度外部評価委員会 議事録

日時：平成 29 年 2 月 20 日（月） 14：00～16：00

場所：和歌山信愛女子短期大学 大会議室

配布資料：平成 28 年度地（知）の拠点整備事業「きょう育の和」 外部評価委員会資料

出席者：

<外部評価委員>

久留米信愛女学院短期大学	学長	関 聡
和歌山大学地域連携・生涯学習センター	副センター長	村田 和子
近畿大学生物理工学部 食品安全工学科	教授	泉 秀実

<和歌山信愛女子短期大学>

副学長	大山 輝光
教務部長・きょう育の和センター長	芝田 史仁
きょう育の和副センター長	森下 順子（司会）

センター委員

生活文化専攻学科長	千森 督子
保育科学科長	森崎 陽子
入試部長	伊藤 宏
保育科准教授	小笠原 眞弓
生活文化学科専攻主任	浅田 真理子
食物栄養専攻講師	中西 淳平
事務長	塩崎 増仁
副事務長	郭 安紀彦
COC+	児嶋 啓輔

書記

事務補佐	鎌田 那菜
------	-------

欠席者：

食物栄養専攻主任	西出 充徳
入試・広報・環境係	福永 勇二

議事内容：

1. 木のおうち見学（外部評価委員）
2. 挨拶（大山）
3. 外部評価委員紹介（森下）
4. きょう育の和センター委員紹介

5. 事業成果説明（芝田）

以下の事業について説明する。

<教育>

- ① 新基礎教養科目（『紀の国わかやまと世界』を含む4領域）
- ② 『子育て・子育てサポーター』養成講座
- ③ 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』を中心とした実践的教育プログラム
- ④ 和歌山地域を指向した地（知）の拠点図書『きょう育の和コーナー』

<研究>

- ⑤ 子育て・子育て支援ネットワーク『共育の輪』構築に向けた実践的研究
- ⑥ 『共育の輪』専用ポータルサイトの運用
- ⑦ 子育て・子育て環境としての和歌山を対象とした学科横断的研究と『地域指向教育研究奨励金制度』の運用

<社会貢献>

- ⑧ 子育て・子育て支援拠点『きょう育の森』における子育て支援事業の実施
- ⑨ 『母親の再就職支援事業』『潜在保育士・幼稚園教諭、潜在栄養士の学び直し支援事業』の実施
- ⑩ 『専門教員や講師による子育て講座、子育て相談』の実施
- ⑪ ミニシンポジウムの開催

<全体>

- ⑫ SD・FD 合同研修会
- ⑬ 『きょう育の和センター』の運営と、『連携協議会』の開催
- ⑭ 広報活動
- ⑮ 事業の進捗状況に関するアンケート調査の実施
- ⑯ 自己点検評価委員会による自己点検評価ならびに外部評価委員会による外部評価の実施・報告書作成

6. 質疑応答・意見

7. 挨拶（芝田）